

令和 6 年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール 実施報告書

令和 7 年 3 月
武蔵野市教育委員会



GOOD DESIGN AWARD
2015年度受賞

も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱	8
セカンドスクール実施地・泊数の変遷	10
プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷	14
令和6年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	17
各小中学校の日程及び主な活動内容	
＜小学校セカンドスクール＞	
第一小学校	20
第二小学校	25
第三小学校	30
第四小学校	35
第五小学校	40
大野田小学校	45
境南小学校	50
本宿小学校	55
千川小学校	60
井之頭小学校	65
関前南小学校	70
桜野小学校	75
＜中学校セカンドスクール＞	
第一中学校	82
第二中学校	86
第三中学校	90
第四中学校	94
第五中学校	98
第六中学校	102
＜プレセカンドスクール＞	
第一小学校	108
第二小学校	112
第三小学校	116
第四小学校	120
第五小学校	124
大野田小学校	128
境南小学校	132
本宿小学校	136
千川小学校	140
井之頭小学校	144
関前南小学校	148
桜野小学校	152

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度
 - ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体となって進める特色ある学校づくり」（報告書）でセカンドスクールを提言。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度
 - ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度
 - ・「夏季山村生活体験学習」（セカンドスクール試行期間中の名称）として、長野県八坂村にて夏季休業中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
 - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」（報告書）で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度
 - ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による「山村生活体験教室」（セカンドスクール試行期間中の名称）として、岩手県遠野市にて夏季休業中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
 - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度
 - ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
 - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度
 - ・小学校全13校が学期中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
 - ・中学校は全6校の1年生から希望者（70名）を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度
 - ・小中学校全18校が学期中に実施。
 - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度
 - ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索。
- 平成10年度
 - ・各学校が、平成14年度から創設される「総合的な学習の時間」を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みる。

- 平成 14 年度
 - ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- 平成 15 年度
 - ・小学校 4 年生を対象としたプレセカンドスクール＊を 4 校にて試行。
 - ＊プレセカンドスクール…セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校 4 年生を対象として行う短期宿泊体験学習。
 - ・武蔵野市のセカンドスクールが、「第 1 回オーライ！ニッポン大賞」に選定される。
- 平成 16 年度
 - ・プレセカンドスクールを 10 校にて試行。
 - ・「セカンドスクール 10 周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成 17 年度
 - ・プレセカンドスクールを小学校全 12 校にて実施。
 - ・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成 19 年度
 - ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成 20 年度
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省の 3 省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となる。
 - ・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行う。
- 平成 21 年度
 - ・新型インフルエンザ流行により、小学校 2 校でセカンドスクール（桜野小学校）、プレセカンドスクール（境南小学校）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行う。
 - ・昨年度に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の 3 省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となる。
- 平成 22 年度
 - ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更。
 - ・昨年度に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の 3 省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となる。
 - ・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となる。
 - ・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施。
 - ・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成（～平成 24 年度）。

- 平成 23 年度
 - ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更。
 - ・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行う。
- 平成 25 年度
 - ・第 8 回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有。
- 平成 26 年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・文部科学省、農林水産省、総務省、環境省および国会議員による視察が行われる（長野県飯山市）。
- 平成 27 年度
 - ・実施 20 年目を迎えたセカンドスクールの取り組みが、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2015 年度グッドデザイン賞」を受賞。審査では「内容もこれまでの経験が集約されていて、子どもたちにとっては貴重な体験になっていると想像しています。」との評価をいただく。
 - ・市立全小中学校で小・中学校合同セカンドスクール報告会を実施。
 - ・「セカンドスクールにおける体験活動の教育的効果の調査」を実施。
 - ・セカンドスクールの取組を紹介するDVD、パンフレットを作成した。
 - ・「季刊むさしの」（2015 冬号）、「市報 1 面」（平成 27 年 12 月 15 日号）、「きょういく武蔵野」1 面（平成 27 年 12 月 15 日号）にセカンドスクール特集として掲載。
 - ・全国教育長会（厚木市）で、教育長によるセカンドスクールの発表を行う。
- 平成 28 年度
 - ・「セカンドスクール実践報告会」を実施。
 - ・「教育委員会月報」（平成 28 年 7 月号、文部科学省発行）に、特色ある取組としてセカンドスクールについて掲載される。
 - ・一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構による「長期宿泊体験に関する調査研究」（文部科学省委託事業）に協力する。
- 平成 29 年度
 - ・小中学校のセカンドスクールの連携と事例の共有を図るため「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・「初等教育資料」（2017 年 8 月号、文部科学省発行）に、特色ある教育事業としてセカンドスクールについて掲載される。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を中学校 6 校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められる。

- 平成 30 年度
 - ・「セカンドスクール担当者連絡会」を実施。
 - ・井之頭小学校がプレセカンドスクールの実施地を群馬県片品村から東京都奥多摩町へ変更。
 - ・文部科学省の「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を小学校 6 校、中学校 6 校について申請し、「健全育成のための体験活動推進事業」として認められる。
- 令和元年度
 - ・第三小学校が、セカンドスクールとプレセカンドスクールの実施地を入れ替え、セカンドスクールを新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールを群馬県片品村で行う。
 - ・第四中学校が長野県飯山市から群馬県みなかみ町へ実施地を変更。
 - ・新学習指導要領との調和、事業の持続可能性の検討等を行うため、「長期宿泊体験活動検討委員会」を設置。
 - ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局の「子供の農山漁村体験活動の充実・推進に向けた手引き」において、大野田小学校と第四中学校のセカンドスクールの事例が掲載される。
 - ・新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会の「子ども農山漁村体験の果たす教育的意義」をテーマとした講演会において、セカンドスクールの意義について講演を行う。
- 令和 2 年度
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全校中止。
 - ・令和元年度に設置した「長期宿泊体験活動検討委員会」が、令和 2 年度末に終了。検討委員会での協議を踏まえ、新たな活動内容や育成を目指す資質・能力について、パブリックコメントを募集し、報告書にまとめる。
- 令和 3 年度
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程変更・宿泊数の短縮・活動内容の変更等をして実施。なお、セカンドスクールでは、関前南小学校、プレセカンドスクールでは、第二小学校、第四小学校が中止。
 - ・令和 2 年度に設定した、活動内容や育成を目指す資質・能力を明確にするため、実施要綱の改訂を行う。（令和 4 年 4 月 1 日施行）
- 令和 4 年度
 - ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、3 年ぶりにセカンドスクール・プレセカンドスクール共に全校で実施。
 - ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査を実施。
 - ・セカンドスクール・プレセカンドスクールにおいて育成を目指す資質・能力について、「①知識・技能の習得に関すること②思考力・判断力・表現力等の育成に関すること③学びに向かう力・人間性等の涵養に関すること」から「①自然を愛する心②課題解決能力、情報活用能力③人間関係形成、社会参画、自己実現」に変更。
 - ・プレセカンドスクールでは、第二小学校が山梨県山中湖村、第三小学校が新潟県南魚沼市、境南小学校が山梨県山中湖村に実施地を変更。

- 令和 5 年度
 - ・セカンドスクールでは境南小学校が新潟県南魚沼市、プレセカンドスクールでは第一小学校が山梨県山中湖村、第四小学校が東京都奥多摩町に実施地を変更。
 - ・インフルエンザ流行により、境南小学校がセカンドスクールの実施日数、活動内容を変更して実施。
 - ・「長期宿泊体験活動検証委員会」を設置。
- 令和 6 年度
 - ・プレセカンドスクールでは第二小学校が東京都奥多摩町、井之頭小学校が新潟県南魚沼市に実施地を変更。
 - ・台風の影響により、第二中学校がセカンドスクールの実施日数、活動内容を変更して実施。
 - ・令和 5 年度に設置した「長期宿泊体験活動検証委員会」が、令和 6 年度末に終了。令和 2 年度に終了した「長期宿泊体験活動検討委員会」の提案に関する取組状況や成果と課題について意見交換を行った。(P.7 参照)

武蔵野市小・中学校において宿泊体験活動を通して育成を目指す資質・能力の系統表（案）

自他の幸せと豊かな社会を実現する未来の創り手の育成

自然や文化を愛する心

○…資質・能力の内容 ●…セカンドスクールにおける具体的な活動

○歴史・伝統文化に触れることで、郷土や国を愛する心、環境・文化保護の心情を深める。

人間関係形成 社会参画

※1

合意形成
参画

○日常と異なる環境や集団生活、優れた伝統文化の保護・継承から学び、学校生活や学習活動における合意形成や参画を行う。

●地域活性化、◇◇市へ提言、国際交流、防災

課題解決能力 情報活用能力

○伝統文化の保全や活用など社会の中から課題発見・設定をし、効率的な情報の収集・蓄積、深い分析や確かな根拠付けを行い、新たな考えや価値を効果的に発信・実行する。

中3

中1

※2

○SDGsの視点をふまえ、環境保全や自然と人が持続的に共生していこうとする心情を育む。

○体験から技術・産業の発展を考え、自然と共生する生活の工夫や知識について理解を深める。

●農業体験、環境学習

○自分と異なる考え方や感性に触れ、多様な考えを生かした社会性を育む。

○市民性として地域活性化に参画しようとする態度を育む。

●現地の課題調査、現地中学校との交流、チームビルディング

○持続可能な地域活性化に向けた取組の調査・研究を通して、新たな考えや価値を創造する。

○体験を通した課題解決の手だてや情報の活用方法をファーストスクールに生かすことができる。

●現地の農林水産業、伝統、観光に関する調査

小6

○豊かな自然や伝統文化に触れる体験を通して、自然環境や長く受け継がれてきたものを守ることの重要性に気づき、大切にしようとする。

○日常と異なる環境の中で、集団生活の在り方やよりよい人間関係の形成について考え、体験活動や日々の生活に生かす。

●自然や文化に触れる現地体験、実生活への継続

○既習の学習事項から課題発見・設定をし、必要な情報の収集・蓄積、事象の比較・関連付けを行い、相手や目的に応じて表現する。

小5

○自然に触れる体験を通して、自然に親しもうとする。

○体験した自然について理解を深める。

●登山、農業体験、生物観察、箸づくり、郷土食

○集団生活の在り方やよりよい人間関係について考え、実行する。

○人間関係を深める中で、自己を見つめ、関わった方に対する感謝の気持ちを育む。

●現地の方や学校との交流、分宿での仲間づくり

○訪問する地域における課題発見・設定をし、情報を整理して、分かりやすくまとめ・表現する。

○自然や地域の特性について、武蔵野市との比較をしながら課題解決することができる。

●事前の調べ学習、宿の方や4年生に向けた報告会

小4

○自然に触れる体験を通して、自然に親しもうとする。

○体験した自然について理解を深める。

●星や月の観察、周辺の動植物観察、ハイキング

人間関係形成

○宿泊体験活動を通して、集団生活に必要な知識や技能を身に付ける。

○友達や現地の方との関わりを通して、他者とよりよい人間関係を築こうとする。

●集団での生活や宿泊体験、活動の振り返り

○興味・関心のある課題を設定し、調査・体験を行って、情報を整理してまとめる。

○体験や周りの人との交流から新たな課題をもったり、質問や感想を伝えたりすることができる。

●学校や市とは異なる現地と関わる活動

【参考資料】

・令和6年度各小中学校（プレ）セカンドスクール実施計画書
・学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編、総合的な学習の時間編
・第四期武蔵野市学校教育計画中間まとめ

・武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱
・武蔵野市民科教員向け手引き「改定版」

※1…3つの項目は、武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱の目的を参考に作成した。

※2…太枠は、セカンドスクール・プレセカンドスクールを示した。

武蔵野市長期宿泊体験活動実施要綱

（目的）

第1条 この要綱は、武蔵野市立の小学校及び中学校に在籍する児童及び生徒が自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在し、授業の一部として、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動（以下「長期宿泊体験活動」という。）を実施し、自然を愛する心、課題解決能力、情報活用能力並びに人間関係形成、社会参画、自己実現に係る資質及び能力を育むことを目的とする。

（長期宿泊体験活動の区分）

第2条 長期宿泊体験活動の区分及び実施学年は、次のとおりとする。

- (1) プレセカンドスクール 小学校第4学年で実施するもの
- (2) 小学校セカンドスクール 小学校第5学年で実施するもの
- (3) 中学校セカンドスクール 中学校第1学年で実施するもの

（活動内容）

第3条 長期宿泊体験活動の活動内容は、小学校セカンドスクールを基準として、プレセカンドスクール及び中学校セカンドスクールの内容及び方法を、次に掲げる具体的な活動内容を参考に、系統性をもって、発展及び充実をさせるよう各学校が創意工夫して学習活動を計画し、実施するものとする。

- (1) 自然体験活動 主にプレセカンドスクールにあつては武蔵野市とは異なる自然の豊かさに触れる活動、小学校セカンドスクールにあつては自然と人との調和の大切さを体感する活動、中学校セカンドスクールにあつては生徒が挑戦したい自然体験活動を設定する。
- (2) よりよい人間関係の形成を育む活動 主にプレセカンドスクールにあつては集団生活の基礎を身に付ける活動、小学校セカンドスクールにあつては他者とのよりよい人間関係を築く活動、中学校セカンドスクールにあつては他者との協働による課題解決をする活動を設定する。
- (3) 当該学年にふさわしい特色ある活動 主にプレセカンドスクールにあつてはファーストスクール及び武蔵野市とは異なる場所での人々との出会いがある活動、小学校セカンドスクールにあつては長期にわたる民宿での分宿体験活動、中学校セカンドスクールにあつては持続可能な視点から産業等を学ぶ社会体験及び各教科等の学習に関連する活動を設定する。

2 授業時間の配当については、実施学年の各教科、特別活動、総合的な学習の時間及び特別の教科である道徳とする。

- 3 校長は、長期宿泊体験活動の教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により届け出なければならない。

（実施場所）

- 第4条 校長は、長期宿泊体験活動の実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

- 第5条 長期宿泊体験活動の引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員も普段の学校の教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。この場合において、引率及び指導にあたる教員は、実施期間中に交代することができるものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。

- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導補助、指導記録の整理等にあたるものとする。

- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等の生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

- 5 長期宿泊体験活動には、各学校につき看護師等1人を同行させるものとし、児童及び生徒の健康管理にあたるものとする。

（費用）

- 第6条 児童及び生徒の保護者は、児童及び生徒に係る食費の額を考慮して武蔵野市教育委員会教育長が別に定める費用を負担するものとする。

（その他）

- 第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、武蔵野市教育委員会教育長が別に定める。

付 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。

（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱等の廃止）

- 2 次に掲げる要綱は、廃止する。

(1) 武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）

(2) 武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱（平成17年4月1日適用）

セカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成23年度)

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)				長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)	
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		富山県利賀村				(7泊8日)	
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)	長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)	
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩			(7泊8日)	
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)	山形県酒田市 ・羽黒町						
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)		長野県飯山市 戸狩			
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)	長野県飯山市 戸狩						
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)				(7泊8日)	
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)	(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)	
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)	
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)	山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)	
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)	(6泊7日)						
第一中学校	長野県豊科町 (6泊7日)	東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)	山梨県 足和田村				
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県 松之山町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県 御殿場市 (4泊5日)		長野県飯田市		
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)			長野県豊科町	
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町	(4泊5日)				

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
				→	新潟県魚沼市		(6泊7日)	→
→	〔平成16年11月1日 南砺市へ新設合併〕							→
								→
		→	群馬県片品村		→	(7泊8日)		→
							(6泊7日)	→
群馬県川場村							→	新潟県南魚沼市 (6泊7日)
								→
								→
(7泊8日)						→	(6泊7日)	→
								→
								→
			→	山形県鶴岡市		→	(6泊7日)	→
					→	長野県飯山市 戸狩		→
					→	(8泊9日)	(7泊8日)	→
山形県遊佐町 (7泊8日)					→	(5泊6日)	(7泊8日)	→
長野県北安曇郡 白馬村								→
	→	〔平成17年4月1日 十日町市へ 新設合併〕						→
								→
								→
	→	〔平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併〕						→
	→	〔平成17年10月1日 安曇野市へ 新設合併〕						→

セカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成24年度～)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
第一小学校								
第二小学校								
第三小学校	(6泊7日)							新潟県南魚沼市
第四小学校								
第五小学校								
大野田小学校								
境南小学校								
本宿小学校	新潟県南魚沼市			(6泊7日)				
千川小学校								
井之頭小学校			(6泊7日)					
関前南小学校								
桜野小学校								
第一中学校								
第二中学校								新潟県十日町市 松之山
第三中学校				長野県北安曇郡 白馬村				
第四中学校								群馬県利根郡 みなかみ町
第五中学校				長野県北安曇郡 白馬村				
第六中学校								

2年度	3年度 ※2	4年度	5年度	6年度
中止	(2泊3日)	(5泊6日)		
中止	(3泊4日)	(6泊7日)		
中止	(2泊3日)	(5泊6日)		
中止	神奈川県 藤沢市・鎌倉市 (日帰り)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)		
中止	千葉県野田市 (日帰り)	新潟県南魚沼市 (5泊6日)		
中止	(3泊4日)	(5泊6日)		
中止	山梨県山中湖村 (2泊3日)	長野県飯山市 戸狩 (5泊6日)	新潟県南魚沼市 (4泊5日)※3	
中止	(2泊3日)	(5泊6日)		
中止	(2泊3日)	(5泊6日)		
中止	(3泊4日)	(5泊6日)		
中止	中止	(5泊6日)		
中止	(2泊3日)	(5泊6日)		
中止	東京都青梅市 (日帰り)	長野県北安曇郡 白馬村 (4泊5日)		
中止	東京都八王子市 (日帰り)	新潟県十日町市 (4泊5日)		(3泊4日)※4
中止	学校に招いて交流	長野県北安曇郡 白馬村 (4泊5日)		
中止	(日帰り)	(4泊5日)		
中止	オンライン交流	長野県北安曇郡 白馬村 (4泊5日)		
中止	(3泊4日)	(4泊5日)		

※2 令和3年度…新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

※3 令和5年度…インフルエンザの流行により、境南小学校セカンドスクールが実施日数を短縮して実施。

※4 令和6年度…台風の影響により、第二中学校セカンドスクールが実施日数を短縮して実施。

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷①(～平成29年度)

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	〔平成17年11月1日 甲州市へ新設合併〕				
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市				
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)	→	群馬県 片品村	山梨県 富士河口湖町			
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)						
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)					
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)					
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)				→	山梨県 富士河口湖町 (1泊2日)
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)					→	新潟県 南魚沼市
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	〔平成18年3月27日 香取市へ新設合併〕	東京都檜原村		
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村				
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)						
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)				

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
千葉県 館山市	東京都 檜原村	→	山梨県 富士河口湖町				→
→	山梨県 富士河口湖町						→
新潟県 南魚沼市							→
							→
→	山梨県 山中湖村						→
→	山梨県 北杜市			→	山梨県 山中湖村		→
(2泊3日)							→
					→	山梨県 山中湖村	→
				→	山梨県 富士河口湖町		→
							→
							→
							→
→	山梨県 富士河口湖町	山梨県 山中湖村					→

プレセカンドスクール実施地・泊数の変遷②(平成30年度～)

	30年度	令和元年度	2年度	3年度 ※1	4年度	5年度	6年度
第一小学校			中止	(1泊2日)	(2泊3日)	山梨県 山中湖村	
第二小学校			中止	中止	山梨県 山中湖村 (2泊3日)		東京都 奥多摩町
第三小学校		群馬県 片品村	中止	(1泊2日)	新潟県 南魚沼市 (2泊3日)		
第四小学校			中止	中止	(2泊3日)	東京都 奥多摩町	
第五小学校			中止	(1泊2日)	(2泊3日)		
大野田小学校			中止	(2泊3日)			
境南小学校			中止	(1泊2日)	山梨県 山中湖村 (2泊3日)		
本宿小学校		山梨県 富士河口湖町	中止	(1泊2日)	(2泊3日)		
千川小学校			中止	(日帰り)	(2泊3日)		
井之頭小学校	東京都 奥多摩町		中止	(日帰り)	(2泊3日)		新潟県 南魚沼市
関前南小学校			中止	静岡県 島田市 (2泊3日)			
桜野小学校			中止	(日帰り)	(2泊3日)		

※1 令和3年度…新型コロナウイルス感染拡大により、中止または実施地・宿泊数を変更し実施。

令和6年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名		実施日			実施場所	現地宿舎
小学校セカンドスクール	第一小学校		9月19日(木)	～ 9月24日(火)	5泊6日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校		9月22日(日)	～ 9月28日(土)	6泊7日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校		9月26日(木)	～ 10月1日(火)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校		5月24日(金)	～ 5月29日(水)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校		9月13日(金)	～ 9月18日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校		9月19日(木)	～ 9月24日(火)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校		9月20日(金)	～ 9月25日(水)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	本宿小学校		9月19日(木)	～ 9月24日(火)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校		9月9日(月)	～ 9月14日(土)	5泊6日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校		9月19日(木)	～ 9月24日(火)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校		9月25日(水)	～ 9月30日(月)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校		9月13日(金)	～ 9月18日(水)	5泊6日	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校		9月17日(火)	～ 9月21日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿2泊、标ル2泊
	第二中学校	変更前	9月3日(火)	～ 9月7日(土)	4泊5日	新潟県十日町市松之山	民泊2泊、标ル1泊
		変更後	9月4日(水)	～ 9月7日(土)	3泊4日		
	第三中学校		9月24日(火)	～ 9月28日(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿2泊、标ル2泊
	第四中学校		9月24日(火)	～ 9月28日(土)	4泊5日	群馬県みなかみ町	セミナーハウス1泊、 民宿2泊、标ル1泊
	第五中学校		9月9日(月)	～ 9月13日(金)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊、标ル1泊
	第六中学校		9月5日(木)	～ 9月9日(月)	4泊5日	長野県安曇野市	民宿1泊 公営宿泊施設3泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校		10月16日(水)	～ 10月18日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	第二小学校		9月18日(水)	～ 9月20日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿
	第三小学校		6月5日(水)	～ 6月7日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校		6月26日(水)	～ 6月28日(金)	2泊3日	東京都西多摩郡奥多摩町	民宿
	第五小学校		9月25日(水)	～ 9月27日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校		6月12日(水)	～ 6月14日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	境南小学校		9月11日(水)	～ 9月13日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	本宿小学校		10月2日(水)	～ 10月4日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	千川小学校		10月2日(水)	～ 10月4日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	井之頭小学校		10月2日(水)	～ 10月4日(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	関前南小学校		9月11日(水)	～ 9月13日(金)	2泊3日	静岡県島田市	公営宿泊施設
	桜野小学校		9月4日(水)	～ 9月6日(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル

小学校セカンドスクール



第一小学校

新潟県魚沼市

9月19日～9月24日(5泊6日)

参加人数 男子56名 女子46名
計102名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然の中での体験を通し、自然に対して畏敬の念を抱き、自然を大切にしようとする態度を育てる。また自然と人間との共生や環境保全の必要性について考え、持続可能な社会に向けて具体策を考えようとする態度を育てる。
- ・自然や地域の特性について、児童の興味・関心から課題を見付け、課題を追究する学習を通し、探究的な学習のよさを理解することができる力を養う。
- ・語らいの時間やくらしに関わる体験活動を通し、気候や土地の特色を生かした人々のくらしに興味をもち、自身の生活で取り組めることを考える力を育む。

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:30	武蔵野文化会館集合	6:30	起床、検温	6:30	起床、検温	6:30	起床、検温
7:40	出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着、昼食	9:00	農業体験	9:30	林業体験	9:00	課題別学習
13:30	開校式	12:00	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食
15:00	守門地区オリエンテーション	13:30	農業施設見学	14:00	目黒邸見学		課題別学習
16:45	班長会議	16:45	班長会議	16:45	班長会議	15:00	班長会議
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴
17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)	17:30	夕食(準備)
19:00	宿の方との交流会	19:00	俳句書き	19:00	俳句書き	19:00	感謝の会準備
20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り	20:00	1日の振り返り
21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯	21:00	就寝、消灯
9月23日(月)		9月24日(火)					
6:30	起床、検温	6:30	起床、検温				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	宿別農業体験	9:30	まとめの会				
12:00	昼食	10:30	閉校式				
	宿別農業体験	10:50	須原発				
15:30	感謝の会準備	11:30	昼食				
17:00	健康観察・入浴	12:15	魚沼発				
17:30	夕食(準備)	15:30	学校到着・帰校式				
19:00	感謝の会	16:00	解散				
20:00	1日の振り返り						
21:00	就寝、消灯						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の社会科の学習で、日本の農業の米作りについて学習した。
- ・苗をバケツに植え、米作りの過程や米作りの難しさなどを体験的に学んだ。また総合的な学習の時間では、「学ぼう、日本の米」というテーマを設定し、米に関して興味・関心のある内容を調べ、スライドにまとめ発表した。
- ・資料やインターネットを活用して情報収集し、魚沼市と武蔵野市の違いについて学習した。また、課題別グループで資料を基に調べ、現地で質問したり、見て確かめたりしたことについての意見交換を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの6日間の体験内容、セカンドスクールを通しての学びや成長について、総合的な学習の時間に4年生に向けて発表する機会を設定した。また、課題別学習については、魚沼市と武蔵野市を比較し、今後武蔵野市に貢献できそうなことを出し合ったり、魚沼市に提案できることを考えたりして、それらを発表する機会を設定した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 須原地区の見学・散策

これからの学習や生活の場所となる須原地区を知るため、1日目に須原地区散策を設定した。須原地区と武蔵野市の風景を比較しながら散策をし、この地域で生活する人々の様子や暮らしの工夫に目を向けることができた。また課題別学習のグループ活動では、現地ガイドの説明を受けながら、スキー場から魚沼市全体を見た。米作りに適した地形や気候などについて説明をしていただき、「米作りに適した地形」について標高の高い場所から確認することができた。



【須原スキー場にて魚沼の地形について説明を受けている様子】

2 星空観察

須原スキー場の駐車場に午後7時に集合し、引率教員による秋の星空についての説明を聞きながら実際に観察する体験学習を設定した。天候に左右されやすい活動なので、2日目に設定し、以降4日目まで順延可能な内容を考えた。

当日は天候に恵まれず星空の様子を見ることができず、説明を聞きながらの星空観察は難しかったが、帰校前日に各宿に戻ってから星空観察を行うことができた。

＜社会体験活動＞

1 農業体験

農業に関する活動では、稲刈り体験、倉庫の見学、藁細工体験を行った。魚沼農耕舎の方の指導により、稲を刈る作業とはざかけを体験した。鎌の使い方、束ね方などの説明を受けた後、田んぼに移動し、実際に鎌を用いて稲刈りを行った。田んぼでの作業は足場が不安定であり、刈ることに集中しづらい状況であったが、教わった内容を思い出しながら、友達と協力し、丁寧に稲を刈ることができた。

脱穀は、足踏み式の脱穀機を用いて行う予定であったが、雨で稲が濡れてしまっていたため、脱穀体験をすることはできなかった。

倉庫の見学では、運ばれてきた稲が玄米になる工程を見学し、低温の中で保存されている米の袋に関して説明を聞いた。見学を通して、米づくりに従事する人々の苦労や工夫を知ることができた。

藁細工体験では、農家は藁を活用して生活に役立つ物を作ることを知り、宿の方に藁の編み方を教わりながら鍋敷きを製作、自然と人間との共生について考えを深めることができた。



【農業体験 稲刈りの様子】

2 林業体験

福山森林体験の森で、炭焼き窯から炭をかき出す作業、丸太を斧や機械を使用して割り、薪にする作業を体験した。炭焼き窯での作業では高温の中で仕事をする大変さを実感できた。また薪割り体験では、道具の正しい扱い方や炭焼きを行う行程を学んだ。



【炭焼き窯から炭をかき出す体験の様子】

3 課題別学習

魚沼市を知る学習として、「魚沼の観光」「魚沼の産業」「雪国の暮らし1」「雪国の暮らし2」「雪国の暮らし3」の5グループに分かれて学習した。「魚沼の観光」では、JR只見線乗車と西福寺開山堂の見学を行った。只見線の歴史に関する講話を聞き、昔から人々の暮らしにとって鉄道は欠かせないものであったことや近年の乗車数減少により廃線の危機にあることなどを知り、須原地区にとって大切な財産であると感じていた様子であった。

「雪国の暮らし」では、魚沼市の博物館などの施設見学を中心に行った。雪国で暮らす人々の苦労から、



【只見線の乗車の様子】

より快適に生活するための工夫が展示されており、地域や気候の特性に合わせた道具や施設がつくられているということを学習することができた。また、川や水の整備・水田の開拓などにより、米づくりがさかんに行われるようになったことを学んだ。



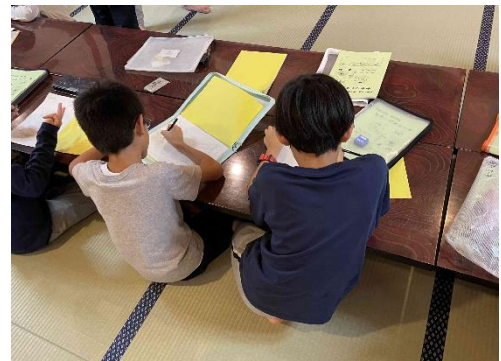
【雪国の暮らし 昔の道具体験の様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、普段はあまりやらない洗濯や布団の上げ下げ等を行った。生活指導員や民宿の方の指導の下、事前に分担した係ごとに責任をもって活動し、互いに協力し合いながら生活する様子が見られた。また、仲間と協力して過ごすことで、普段気付かなかった友達のよいところや、協力して生活していく事の大切さに気付き、友情を深めることができた。

また、「語らいの時間」には、1日を振り返って学んだことを話し合った。毎日、班長が伝達事項を伝え、振り返りとともに改善点を話し合い、どう改善するかを考えた。それを基に、各班でめあてを決め、各自がめあてを意識して生活することができた。



【振り返りの時間の様子】

2 宿別農業体験

各宿の畑でさつまいもや野菜類の収穫体験をし、近くを散策して植物について話を聞いた。食材を自分の手で収穫し、食べることを体験することで、食材を作り育てる人たちの工夫や苦労、また食べ物のありがたさを改めて実感する機会となった。



【さつまいもの収穫の様子】

○児童の感想

- ・ 稲刈りが始まってから終わるまで2，3時間かかったけど田んぼの2割程度しか進んでいませんでした。昔の米農家さんの大変さがよく分かりました。
- ・ 心に残ったことは炭焼き体験です。温度がとても高く、体が焼けそうな暑さで教えてくれた方の背中から湯気が出ていたことに驚きました。炭を作るのはとても大変な作業だなと感じました。
- ・ 家族と離れて友達みんなと生活するという体験は初めてだった。出発前はけんかがないか心配だったが、みんなと仲良く楽しく過ごすことができた。友達、宿の方、生活指導員さんのみんなが優しかったから平和に終わることができたのだと思う。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

親元から離れ、宿の方と生活指導員の下で集団生活をする中で、自身の役割に責任をもつことやともに生活する仲間と協力することの大切さを学ぶことができた。委員会活動や当番活動など集団の中での自身の役割を果たしていくことにつなげていくことができると考える。また、稲刈り体験や炭焼き体験における薪割りでは、どのように取り組めば効率的であるかを考えながら活動することができ、ファーストスクールでも物事に対する探究心や課題解決への意欲を持って臨むことに繋がることが期待される。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 「心理的、社会的能力」と「道徳的能力」がそれぞれ0.9ポイント、0.13ポイント上昇した。これは、長期間、友達と共に集団生活をしたことにより、自分の役割を果たしたり、友達を思いやりながら協力したりして過ごすことができた結果だと考える。「身体的能力」は0.55ポイント上昇した。これは宿での規則正しい生活や悪天候の中でも稲刈りや林業などの身体を使った体験活動をやり遂げた結果だと考える。このように、それぞれの項目で上昇傾向となったため、全体的に「生きる力」も向上した。これは今回のセカンドスクールが児童にとって生きる力を育む機会となったことを表している。来年度以降も今年度同様に体験学習を中心とした活動内容を多く取り入れていく。課題別の見学先に関しては、児童数や児童の課題意識を大切に、魚沼市の方から情報を得ながら検討していく。
- ・ 課題別学習では、児童が課題意識をもつ内容と見学先が一致するよう、毎年場所の選定について検討を続けている。昨年度から見学場所を新たに増やしたため、児童にとって学習がしやすい体制をとることができた。体験学習を中心とした活動内容を多く取り入れたいという考えから、魚沼市の地域の方や小学校との連携を取っていく必要がある。
- ・ 児童数が年々増加傾向にある一方で、魚沼市の各民宿受け入れ児童人数に差がある。今後も魚沼市を実施地としてセカンドスクールを続けていけるよう、現在の宿泊先が受け入れ可能な人数を把握したり、魚沼市内で新たな宿泊先を検討したりしていく等、対応していく必要がある。

第二小学校

富山県南砺市利賀村

9月22日～9月28日(6泊7日)

参加人数 男子24名 女子36名
計60名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・利賀村の人々と心の交流をし、豊かな自然体験活動をするを通して、自然や利賀村の暮らしを理解し、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・日本の国土や森林の様子を知り、森林のはたらきとともに環境と人とのかかわりについて様々な考え方を身に付ける。
- ・多様な経験や新たな出会いを通して、自分を見つめ成長につなげることができる。
- ・武蔵野市以外との交流を通し、改めて自分の学校や町、関わる人を見つめ直すことで、社会の一員であるよさを実感する。

○日程表

9月22日(日)		9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)	
7:30	集合	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:35	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:04	武蔵境駅発	8:30	地域探検	9:00	朝会	9:00	朝会
9:32	東京駅発	10:00	そば打ち体験		利賀の原生林を歩こう	9:20	利賀の森を守る仕事を知ろう
11:00	昼食〈車内・弁当〉	11:30	昼食(そば)	11:30	昼食(弁当)	12:30	昼食(弁当)
12:13	新高岡発						
13:10	道の駅となみ発	13:30	わら細工体験	13:00	地域探検	13:15	岩魚つかみ体験
14:10	そばの郷着						
14:20	開校式					14:00	稲刈り体験
15:50	開室式 箸作り体験					15:00	岩魚を調理しよう
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ	19:00	手紙を書こう	19:00	お別れの会準備
21:00	就寝	20:00	利賀の話を聞こう	20:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ
		21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

9月26日（木）		9月27日（金）		9月28日（土）	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	利賀小学校と交流会 をしよう	10:00	朝会 合掌造りの村を見学 しよう	8:30	閉室式
12:00	昼食（弁当）	12:00	昼食	9:40	閉校式
13:00	課題別学習	14:00	民宿別活動	7:30	そばの郷発
17:00	入浴	17:00	入浴	12:13	新高岡駅発
18:00	夕食	18:00	お別れ夕食会	12:30	昼食〈弁当・車内〉
19:00	学習のまとめ	19:00	ありがとうの会をし よう	15:17	東京駅発
20:00	利賀村の暮らしにつ いて知ろう			15:51	武蔵境駅着
21:00	就寝	21:30	就寝	16:05	解散式
				16:30	解散

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、昨年度の5年生が行ったセカンドスクールの事後学習の発表を思い出すことから始め、セカンドスクールの目的や活動内容について昨年度までの写真などを見ることで見通しをもった。
- ・総合的な学習の時間に利賀村の基本情報を学級で共有し、追究したいテーマを決め、テーマに沿って、各自調べ学習を行った。
- ・調べて分かったことをスライドにまとめ、学級全員のスライドを共有した。読み合って分かったことや考えたことを発表した。
- ・社会科では、米作りのさかんな地域について学習した。お米の生産、流通、販売の一連の流れを学習し、稲作に携わる人々の工夫や努力をまとめた。また、その地域の気候や地形の特色についても理解を深め、利賀村の気候に合わせたお米はどういうものかについて予想する活動も行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだこと、感じたことをスライドにまとめ、それを見せながら4年生に発表した。4年生のセカンドスクールへの期待が高まっている様子を見たり、「セカンドスクールが楽しみになった。」などの感想を聞いたりすることで自己有用感を高めるとともに、学んだことや感じたことを伝える力を身に付けた。
- ・セカンドスクールで生活班や行動班で協力する場面に大切なこと、みんなが気持ちよく過ごすために必要なことはどのようなことだったかを話し合った。その学びをファーストスクールで生かすことができるように学級でまとめた。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 はし作り体験

各宿でセカンドスクールの期間に使用するはしを作成した。ものづくりの難しさや自然の身近さを感じることができた。



【岩魚つかみ体験】

2 岩魚つかみ体験

川で泳いでいる岩魚を手で掴み、そのまま調理台で捌いて炭火焼きにして食べた。簡単には掴めなかったが、掴めたときには達成感を感じ、近くで見た魚が可愛いと愛着をもつ児童がいた。すぐに包丁で捌くことに抵抗感をもつ児童や、自分で捕まえて捌いた岩魚だから残さずに食べようとする児童もいた。命をいただくことを身をもって感じることもできた。

3 ハイキング

利賀の原生林を歩きながら利賀の植物や動物などを発見することができた。利賀村の森林や自然を肌で感じた。行動班の仲間と励まし合いながら山道を歩き切ったことで大きな達成感を味わうことができた。

4 森林学習

利賀村の森林を管理し、守っている方々の話を聞いた。間伐はなぜ行うのか考えながら、どの木を間伐するとよいかグループで話し合ってた。伐採の最後に紐で引っ張って木を倒す体験をし、自然を守ることの大切さ、自然との共生について考えることができた。

＜社会体験活動＞

1 民宿での生活

自分が住んでいる家や町を離れて生活することで、普段と異なる利賀村での生活様式を体験的に学ぶことができた。民宿の方への礼儀やマナー、みんなで協力して生活する姿勢を学んだ。

2 稲刈り・脱穀体験

普段食べているお米が、どのようにして収穫され、一粒になるのかを体験して学んだ。班ごとに講師に丁寧に教えていただき、鎌や足踏み脱穀機の使い方が身に付いた。黙々と作業する様子が見られた。



【ありがとうの会】

3 ありがとうの会

お世話になった民宿の方に感謝を伝える会を企画、運営を行った。普段から多くの人に支えられていることに気付き、何事にも感謝をする気持ちをもって生活をする心情を育んだ。

＜生活・文化体験活動＞

1 わら細工

稲刈り・脱穀体験を行い、食べるお米だけではなく、かごなどをわらで作り生活に使用することができると知った。利賀村の伝統工芸を体験的に学び、地域の伝統を守る大切さを感じた。

2 利賀学舎との交流

利賀学舎の児童と共に、100m走やレクリエーションなどの様々な活動を通して、両校の親睦を深めるとともに、両校の伝統文化や生活などについて学ぶことができた。

3 課題別学習

事前に学習した課題ごとに分かれ、講師を招きお話しいただいた。利賀村の自然や歴史、文化などについての知識をこれまでに学習してきたことを生かしながら自ら設定した課題について意欲的に追究した。

4 相倉合掌造り集落見学

世界遺産である合掌造りの建造物や当時の生活文化について実際に触れることができた。日本の歴史を守ることの大切さについて考えた。

○児童の感想

- ・セカンドスクールを通して、自分の苦手なことや今まで知らなかったこと、友達のよさなどに気付くことができた。トラブルはあったが、その都度みんなで声を掛け合いながら乗り切ることができた。
- ・みんなで生活したことで、自立や協力などが以前よりもできるようになった。また、電車や新幹線などの移動中をはじめ、6泊7日の期間どの場所でもマナーを意識して過ごすことができた。
- ・友達のことを考えるのはとても難しかったし、メリハリをつけて過ごすのも難しかった。協力することも最初はいまよくできなかったけど、1日目よりも7日目の方がどの場面でもスムーズに活動することができ、成長を感じることができた。
- ・6泊7日の生活を通して、マナーを守ることによってみんなが気持ちよく生活することができていると考えた。これからもマナーについて知るとともに、マナーをしっかりと守っていきたい。
- ・生活班長として次の活動を見通して全体に声を掛けたり、積極的にお手伝いをしたりするなど自分にできることに一生懸命に取り組んだ。みんなにとって頼れる生活班長となったかは分からないけれど、みんなの楽しそうな姿をたくさん見ることができ、生活班長として活動してよかったと思った。
- ・セカンドスクールを通して、改めて感謝することを大切にしていきたいと思った。6泊7日の間、お世話をしてくれた宿の方々をはじめ、先生方、生活指導員のみなさん、そして同じ宿の友達にも感謝している。一人ではできないことでもみんなと一緒にだったらできることがたくさんあると思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・宿での食事、入浴、掃除、整理整頓など身の回りのことに積極的に取り組むことができるようになった。ファーストスクールでも一人一人が身の回りのことに積極的に取り組むことのよさを感じられるようにしていく。
- ・生活班や行動班の班員で7日間過ごす際には、よかったこともうまいかなかったこともあった。友達と協力することの難しさを知り、自分の気持ちが伝わるような言葉を考えたり、相手の気持ちを想像して接したりすることの大切さを感じることができた。ファーストスクールでも様々な集団の中でチームの一員としてどのような行動が望ましいか考えていく。
- ・民宿の方との温かい触れ合いを通して、民宿の方への感謝の気持ちはもとより、普段お世話になっている人たちに対しても、自分がどのような場面でお世話になっているかということを考えることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

【成果】

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果、「道徳的能力」が1ポイント、「心理的・社会的能力」が1.5ポイント下がった。7日間仲間と過ごすにあたって、迷惑をかけない行動や協調性などについてよく考え、人のために働くことやわがままを言わないこと、意見を出し合い合意形成をすることの難しさなどを感じたと考えられる。
- ・児童の回答したアンケートの結果や、セカンドスクールの振り返りの内容から、6泊7日という長い期間を利賀村で親元を離れて過ごしたり、普段の日常では経験できないことを多く経験したりしたことは、児童が自らの成長を感じることに繋がっていると言える。また、武蔵野では味わえない自然とのふれあいや、多くの体験活動を支えてくださった民泊先の方とのふれあい、現地校である利賀学舎の児童との交流は、児童一人一人の心を豊かにし、感謝の気持ちをもつことに繋がった。多くの児童にとって、セカンドスクールの経験は、これからのファーストスクールでの生活や自分の人生においても、十分生かしていくことのできる経験であることに気付いていた。
- ・指示を待つのではなく、自分たちで考え、声を掛け合って行動できた。また、話をよく聞く姿勢や、マナーを意識して過ごそうとする姿が多く見られるようになった。

【課題】

- ・宿泊先の急な変更があり、宿泊先の詳細な情報を事前に児童や保護者に伝えることができなかった。また、児童の役割ごとに宿泊先に応じた準備を進めていたが大きく変更せざるを得ない状況となってしまった。
- ・教職員の本部宿と児童の宿泊先が車での移動が、2班に分かれても、40～50分かかるほど離れている。エピペン対応に必要な児童が複数いたが、万が一使用する必要が生じた場合、引率の生活指導員もしくは児童本人が使用するしかない状況であった。引率の生活指導員にエピペンの使用について事前に講習を行うなどの対応が必要だと考える。

第三小学校

新潟県南魚沼市

9月26日～10月1日(5泊6日)

参加人数 男子40名 女子32名
計72名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・長期の宿泊による生活時間を利用し、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自然の中で豊かな体験活動を通して、南魚沼市の自然や暮らしの工夫に関する理解を深めようとする態度を育む。
- ・南魚沼市の自然や地域の特性について自ら課題をもち、主体的に課題を追究する力を育てる。
- ・南魚沼市の歴史や文化に触れ、受け継がれてきた地域の良さや人々の努力に気づき、進んで表現しようとする力を育てる。
- ・地域の人々との交流を通して、人間関係を深めるとともに、それらの人々や保護者に対する感謝の気持ちを育てる。
- ・自主的な集団生活を通して、児童同士の理解や協力し合う態度を育てる。

○日程表

9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)	
8:15	学校集合・出発式	6:30	起床 検温 洗顔 朝食準備	6:30	起床 検温 洗顔 朝食準備
8:30	出発	7:30	朝食	7:15	朝食
12:10	今泉記念館到着(昼食)	8:30	朝会	8:15	朝会
13:00	上越国際観光協会	9:00	稲刈り体験	9:45	ながおか花火館見学
13:10	樺野沢オリエンテーリング	12:00	昼食	12:00	昼食
14:15	開校式、避難訓練	13:30	座禅体験	12:40	新潟県立歴史博物館見学 勾玉づくり
16:45	夕方の会	16:45	夕方の会	16:45	夕方の会
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	学習の記録 健康観察	19:00	学習の記録 健康観察	19:00	学習の記録 健康観察
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

9月29日（日）		9月30日（月）		10月1日（火）	
6:30	起床 検温 洗顔 朝食準備	6:30	起床 検温 洗顔 朝食準備	6:30	起床 検温 洗顔 朝食準備
7:30	朝食	7:15	朝食	7:30	朝食
8:30	朝会	8:15	朝会	8:30	朝会
8:45	火起こし体験 豚汁作り	9:00	カントリーエレベーター見学 雪室ファクトリー見学	9:00	笹団子作り
11:30	昼食（豚汁）	12:00	昼食	11:00	昼食
13:00	農作業体験 洗濯	13:00	わら細工体験 感謝の会の準備	12:00	閉校式
16:45	夕方の会 学習の記録	16:45	夕方の会	12:30	出発
17:00	入浴	17:00	入浴	15:30	学校到着
18:00	夕食	18:00	夕食	15:45	帰校式
19:00	星空観察 健康観察	19:00	学習の記録 健康観察	16:00	解散
21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、セカンドスクールに参加する目的や活動内容について写真を見ながら確認した。事前学習として興味があることを調べたり、事後学習として体験したことを異学年へ伝えたりすることを知り、見通しと意欲をもって学習に取り組んだ。
- ・実際に行く場所や、体験活動について、学習者用コンピュータを活用して調べた。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、感謝の会の係などの役割を分担したことで、責任感をもち積極的に活動できた。
- ・社会科では、「国土の地形の特色」「米づくりのさかんな地域」の学習で、寒い地域の建物・道路の工夫や米の作り方について、セカンドスクールと関連付けながら学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールを終えて、自分自身や学年として成長したことを作文に書いた。印象に残ったことを川柳に表し、セカンドスクールの思い出を共有した。
- ・セカンドスクールを通して、もっと知りたいことを中心にさらに調べ学習を行った。テーマごとにグループをつくり、「セカンドスクールを伝える会」の準備を行った。
- ・4年生へ向けて「セカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて、実演やスライドを使いながら、発表した。学校公開でもセカンドスクールの発表会を開き、保護者にも発表した。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 星空観察

東京では見ることのできないきれいな月や満天の星を観察した。暗い夜の空に輝く月の様子を感じ、豊かな自然に触れることができた。

2 オリエンテーリング(地域散策)

1 日目にゴンドラに乗車予定だったがゴンドラ故障のため、代替としてオリエンテーリングを行った。オリエンテーリングでは、宿ごとに行動しながらそれぞれの宿や寺を見付けたり、秋の植物や生き物を探したりした。6 日間生活する樺野沢地区の地域散策を行うことで、現地の地理や自然に触れ、現地についての理解を深めることができた。

＜社会体験活動＞

1 稲刈り体験

現地の方からの指導で、稲刈りの手順や鎌の扱い方を聞いてから稲を刈った。宿ごとに分かれて、「刈る、束ねる、結ぶ、運ぶ」という作業を行った。一束ずつ刈り、五束刈ったら結ぶ作業が難しく、友達や指導員と協力して作業を行った。お米一粒も無駄にしないようにという現地の方からの指導により、どの児童も、稲穂を踏まないようにしたり、落ちている米を拾ったりした。束ねた稲を運んで天日干しにすることが大変で、農家の方の大変さを知ることができた。農家の方への感謝の気持ちを持ち、美味しいお米を食べられる有難さを実感することができた。



【稲刈り体験の様子】

2 火起こし体験、豚汁作り

マッチと新聞紙と薪を使って火起こしをした。一人ずつマッチで火をつけることや、小さい薪から先に火をつけて徐々に大きな薪に火を移すようにして火起こしを体験した。安定して火が燃えるまで、児童が代わりながら風を送ったり、薪を増やしたりした。作っている間も、火から目を離さず、炎の大きさを調節することができた。宿の方に教わりながら具材を入れたり炒めたりして豚汁を作ることができた。出来上がった豚汁と児童が自分たちで握った新米のおにぎりを食べた。火起こし体験を通して、小さな火が大きくなり、ものを燃やしたり、温めたりすることができることを実感していた。

3 カントリーエレベーター、雪室ファクトリー見学

工場で働く方の話を聞いたり、実際に工場内を見学したりすることで、稲を刈って干した後に、どのような工程で商品として出荷されるのかを知ることができた。雪室ファクトリーでは、天然の雪を貯蔵した倉庫の様子を見学したり、お米の選別を体験したりした。私たちの手元に届くまでに、多くの人々の思いや工夫があることを知り、南魚沼の産業について理解を深めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ながおか花火館見学

ながおか花火館見学では、1階の展示場にて、花火ゲームなどを楽しみながら、長岡花火の魅力を知ったり、原寸大の花火玉や花火筒の展示を見たりした。2階にある花火シアターでは、打ち上げられる花火を座席の振動からも体感したり、日本三大花火大会である長岡花火の歴史などを学習したりした。花火館の見学を通して、伝統的な文化を引き継いでいる地域の人々の努力を知ることができた。



【ながおか花火館の様子】

2 新潟県立歴史博物館見学

雪とくらしや米作りについて、昔の様子を再現した展示物を見ながら、学芸員より説明を受けた。高田の雁木通りを再現した展示を見て、雪国の暮らしの工夫について学習した。見学を通して、歴史や文化の特徴を知り、先人たちの知恵や努力を理解した。米作りの展示では、西蒲原三渦水抜きの様子や土作りの努力を知り、米作りの歴史や先人たちの知恵を理解した。また、勾玉作り体験をした。実際に石を削る体験を通して、昔の人の苦勞を感じることができた。

3 わら細工体験

地域の方にわらを使った一輪挿しの作り方を教わった。わらを筒の周りにきれいに付けたり、わらの先端を束ねて紐で結んだりして、丁寧に取り組んだ。稲のわらを加工することで一輪挿しなど様々なものを作ることができると知り、農家の方の知恵や思いを感じることができた。

4 笹団子作り体験

地域の方に笹団子の作り方を教わった。あんの量や包み方などをよく見て、集中して取り組んだ。「なぜ笹で包むとよいのか。」について教わり、昔の人の知恵を知ることができた。紐の結び方が難しく、友達と教え合いながら笹団子を包んでいた。一人5個ずつ作り、「家族に食べてもらいたい。」「早く笹団子を見せたい。」などの声があがった。教えてくださった地域の方に、感謝の気持ちをもつことができた。



【笹団子作りの様子】

5 座禅体験

龍澤寺の住職の方に教わりながら、座禅を体験した。座禅の方法や効果など知り、10分間の座禅に取り組んだ。呼吸を整えたり、自分自身と向き合ったりすることで心を整えることの良さを感じることができた。希望者には警策で肩をたたいてもらう体験も行い、座禅の文化に触れることができた。

○児童の感想

- ・セカンドスクールで家事の大変さを知りました。これまでは家事を親に任せていたので、ご飯の準備や洗濯など自分でできることは頑張って手伝ってみたいです。

- ・感謝の会を通して、相手の気持ちを考えることの大切さを学びました。みんなで楽しんだり、みんなが納得できたりするように学校での話し合いやお楽しみ会に生かしていきたいです。
- ・セカンドスクールで、友達に協力したり5分前行動をしたりすることができた。今後も、予定より早く行動したり、友達に協力したりしていきたいです。
- ・稲刈り体験や勾玉作りなど多くの方にお世話になったが、生活指導員や宿のお父さんお母さんへの感謝の気持ちが一番大きいです。これからも感謝の気持ちをもって生活していきたいです。
- ・人の話を最後まで聞かないことが多かったが、セカンドスクールで大事なことを聞き落とさないようにするためには、最後まで聞くことが大切と学び、学校でも生かしていきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールのオリエンテーションでは、「自分のことは自分です」「よりよくするために協力する」など、セカンドスクールに行く前から意識して行動してほしいことを指導してきた。「時間を守る」「ルールを守る」「自分のものの管理は自分です」など基本的な生活態度について児童同士で声を掛け合って、自主的に動こうとする力が高まった。また、お互いに気持ちよく過ごすために、どうすればよいのか考え、自分と他者の関係性について考える機会となった。上手くいかないときは、気持ちを伝え合うことが大切であることを知り、思いやりのある言動が増えている。周りにも目を向け、相手の気持ちを考えて行動する姿も見られた。

学習においては、セカンドスクールで経験する活動について事前に調べ、現地で実際に見学したり、体験したりする活動を通して、インターネットの情報だけでは感じることでないこともあることを知った。今後の学習でも、可能な限り体験させたり、生の声に耳を傾けたりしながら、自分で課題解決をできるようにしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後のアンケート調査の結果、「生きる力」の変容は事前から事後にかけて0.77ポイント向上した。オリエンテーリングや稲刈り体験など様々な体験活動を取り入れたり、長期的な集団生活や各係の仕事に取り組んだりすることによって、児童同士の理解や協力し合う態度を育むことができた。
- ・宿が近く、教員が見回りをしやすかった。緊急の場合もすぐに駆けつけられたのがよかった。
- ・機械の点検により活動内容の変更等あったが、コーディネーターの方と連携を取り、円滑に活動を実施することができた。また、稲刈り体験、火起こし体験など、様々な体験活動も宿の方が工夫して協力してくださったおかげで、円滑に実施することができた。
- ・関わってくれた南魚沼の方々の心の温かさに触れ、ゆったりとした時間の中で友達と関わることで、人と関わることの良さを感じることができた。
- ・プレセカンドスクールに続き、セカンドスクールも同じ場所での活動だったが、児童の意欲は非常に高く、事前学習や事後学習も積極的に取り組み、南魚沼について深く学ぶことができた。また、4年生が田植えをしたものを5年生が稲を刈るという流れがよかった。
- ・今年度は新しい活動が多かったため、児童の実態を踏まえ、活動内容を見直す必要がある。

第四小学校

長野県飯山市

5月24日～5月29日(5泊6日)

参加人数 男子17名 女子28名
計45名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山市での生活や体験活動を通して知的好奇心や探究心を喚起し、山地に暮らす人々の生活の工夫について学ぶ。
- ・社会科等の学習に生かし、その地域の良さや課題を考える力を身に付ける。
- ・自己やグループの課題を解決するため、現地の方々の話やフィールドワークを通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・豊かな情操や感性を育む。
- ・豊かな人間関係を育てるとともに、自主性や協調性を育てる。

○日程表

5月24日(金)		5月25日(土)		5月26日(日)		5月27日(月)	
8:00	学校集合 出発式	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
8:15	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	昼食(松代PA)	9:00	雪国の暮らし学習	8:30	宿出発 バス	8:30	宿出発 バス
12:50	戸狩到着		各宿	9:00	市内巡り(散策)	9:00	ブナ林散策
	開校式	11:30	昼食		寺町、飯山シャンテ	12:00	昼食
	各宿に移動	13:00	米作りの学習		正受庵、飯山城址	13:00	課題別学習
14:30	箸作り 各宿		田植え	12:00	昼食	16:00	感謝の会計画・準備
16:00	里山散策 各宿	16:00	入浴	14:00	飯山すてきスケッチ	18:00	夕食
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	手紙書き	19:00	入浴
19:00	入浴	19:00	暗闇体験 各宿	18:00	夕食	20:00	振り返りの時間
20:00	振り返りの時間	20:00	振り返りの時間	19:00	入浴	21:30	消灯 就寝
21:30	消灯 就寝	21:30	消灯 就寝	20:00	振り返りの時間		
				21:30	消灯 就寝		

5月28日（火）		5月29日（水）	
6:00	起床 検温	6:00	起床 検温
7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	郷土食作り 各宿 笹寿司、天井焼き		大掃除
		9:30	閉校式
12:00	昼食	10:00	戸狩発
13:30	感謝の就労体験 各宿でお手伝い	12:00	昼食（横川SA）
15:00	入浴	15:00	学校着 帰校式
17:30	夕食	15:15	解散
18:30	感謝の会		
20:00	振り返りの時間		
21:30	消灯 就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・学年全体でめあて作りを行い、「飯山のことを学び、感謝を忘れず、自分たちで考えて、全力で楽しむ。」と設定した。
- ・飯山について自分が調べたいテーマを決め、インターネットや本を活用して情報を収集し、スライドにまとめた。まとめたスライドを学級で見合い、一人一人の学習を共有した。
- ・共有したことを基に、課題別学習のテーマを選択し、さらに調べ学習を行いスライドにまとめた。本番で宿のお父さん方に自分たちの学習を伝えるために、大学生を相手にリハーサルを行い、スライドの内容や発表の仕方について助言をいただき、本番に臨んだ。
- ・一人一役でリーダーとなった。児童全員が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、各係で仕事内容や目標を話し合って決め、全体で共有した。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールを踏まえて、身に付けたスキルやこれからの学校生活で生かしたいことを各学級で話し合い、学年で共有した。
- ・セカンドスクールでの学びを、誰にどのようにして伝えたいかを話し合い、自分たちで計画を立てた。スライド、ポスター、工作の3チームに分かれて役割分担し、作成を進めた。2学期に他学年の児童に学習のまとめを伝えた。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 里山散策

宿のお父さん、生活指導員とともに里山を散策した。里山から飯山の景色を見ながら、飯山の歴史を教えていただいた。児童は、野草を使った遊びや里山に棲む動物など、様々な話を聞きながら東京とは異なる豊かな自然を感じることができた。



【里山散策】

2 暗闇体験

里山の夜は暗く、静けさの中で聞こえるカエルの大合唱や川の水の音に、東京と飯山の違いを感じていた。暗くなるにつれて徐々に現れる無数の星の美しさに感動したり、星の話を聞いて興味をもったりすることができた。

3 ブナ林散策

ブナ林を散策する前に、かのえのお父さんからブナについて話を伺った。ブナの木は、葉から枝、幹を伝って根元に雨水を集める構造になっていることを知ることができた。また、長野県と新潟県でブナの数が違う理由を歴史的背景から教えていただき、ブナ林が飯山の生活を支えていることなどを学習した。散策では、大雪に耐えて変形したブナ林を見たり、ブナの幹に水が流れているか耳を当てて聴いたりするなど、自然の力強さや素晴らしさを実感することができた。



【ブナ林散策】

＜社会体験活動＞

1 田植え

かのえのお父さんから苗の持ち方や植える間隔などを学び、その後に田植えを行った。最初は田んぼに入ることを躊躇する児童もいたが、裸足で入ると、田んぼ特有の感触に気持ちよさを感じ、夢中になる姿が見られた。実際に田植えを行い、その過程の大変さを知るとともに、米作りの苦労を実感した。

2 課題別学習

課題別学習は、歴史、伝統工芸、自然、農業、観光の5つのテーマから自分が興味のある課題を選択し、事前学習を行った。本番では、最初に事前学習でまとめたスライドを宿のお父さんに発表し、その後に学習を始めた。観光チームは、お父さんの話を聞いた後に北竜湖へ行き、飯山の観光資源を学ぶことができた。自然チームは宿の周辺を散策し、様々な野草や生き物について知った。また、草笛や花飾りを作るなど、飯山の自然を楽しんだ。



【課題別学習】

3 宿ごとと勤労体験

宿ごとに勤労体験を行った。雨のため、宿を隅々まで清掃したり、薬草茶の袋詰めをしたりした。宿のお父さんやお母さんに感謝の気持ちを表そうと、意欲的に取り組む姿が見られた。セカンドスクールと同じように学校の清掃もしたいと振り返る児童もいた。



【宿ごとと勤労体験】

＜生活・文化体験活動＞

1 箸作り

箸作りは、各宿で行った。児童は、お父さんの話をよく聞き、小刀の扱いに注意しながら、箸を丁寧に作ることができた。見本と比べながら太さを決めたり、何度もやすりをかけたりして、食べやすい箸に仕上げようとしていた。セカンドスクール期間中は自分で作った箸を使って食事をして、愛着をもつことができた。



【箸作り】

2 市内巡り

飯山シャンテ、正受庵、寺町、飯山城址などを宿ごとに巡り、飯山の特色を学んだ。寺町の雁木通りでは、融雪のために道路に消雪パイプが設置されていることや、豪雪でも消火活動ができるように高い位置に消火栓があることなど、雪に対応した暮らしの工夫があることを学んだ。飯山城址では、飯山城が川中島の合戦で重要な軍事拠点であったことや、戦国時代から江戸時代にかけて多くの大名に受け継がれてきたことなどの歴史的背景を知ることができた。



【市内巡り】

3 郷土食作り

郷土料理である「笹寿司」と「天井焼き」を宿のお母さんから教わりながら作り、昼食でいただいた。「笹寿司」は、ゼンマイの炒め物や薄焼き卵を分担して作り、食べやすい大きさや形を意識して盛り付けた。「天井焼き」は天井に向かって放り投げて返すことから名前が付いたという由来を知ることができた。みんなで作って食べることに喜び、自分の家で作りたいと話す児童もいた。



【郷土食作り】

○児童の感想

- ・飯山市では、道に雪を捨てる場所があったり、屋根の形を工夫したりするなど、武蔵野市と比べて冬の暮らしが異なることが分かりました。
- ・6日間飯山で生活して、たくさんの自然があったり、多くの生き物がいたりすることが分かりました。
- ・飯山は自然で満ちあふれていました。自然が多いからできることと、自然が少なくてもできること、とても違うんだなと思いました。
- ・セカンドスクールで雪国の暮らしやブナ林、市内のことを調べて、自分が調べたときよりもっと知りたいことが増えました。
- ・みんなと協力したり、支え合ったりしたことで、楽しく過ごすことができたと思います。みんなに感謝の気持ちを伝えたいです。
- ・セカンドスクールで学んだことをみんなに知ってもらい、自分もこれからの学習で生かしたいです。
- ・学年で、グループで、個人で目標を立て、達成できるように頑張りました。セカンドスクールでの学びを普段の生活に生かし、他の学年に知ってもらいたいです。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度の総合的な学習の時間のめあてを、「自分で考えて生活する力」「すすんで学ぶ力」「だれとでも仲良く関わりを深める力」を身に付けると設定した。特に「自分で考えて生活する力」はセカンドスクールに向けて児童に意識付けをさせて準備を進めてきた。

5泊6日の共同生活の中で、児童は一日一日を振り返り、成果と課題を明確化し、より良い集団生活に向けての改善策を考え、行動することができた。また、セカンドスクールを終えて、「自分のことは自分でやる」「相手のことを考えて関わる」など、今後の学校生活に生かしたいことを学年全体で共有した。

学習面では、様々な体験活動を通して、飯山市の自然や歴史、文化を学ぶことができた。2学期以降の総合的な学習の時間で、武蔵野市と飯山市を比べ、自分たちが住んでいる街に対してどのような行動ができるのかを、学年全体で主体的に学習を進められるようにした。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

セカンドスクールでの仲間との共同生活を経て、一人一人が自己を客観視し、課題を見付けることができたと感じた。事前事後のアンケートの結果を見ると、多くの児童が自己理解を深めていた。武蔵野市では味わえない貴重な経験をすることができただけでなく、親元を離れて集団生活をする中で自立に向かう力を身に付けることができたと考える。次年度も引き続き、児童が事前、現地、事後の学習を主体的に取り組むことができるよう、計画的に取り組む。また、現地のお父さん方との打ち合わせを密に行い、不測の事態に対応できるようにする。

第五小学校

新潟県南魚沼市

9月13日～9月18日(5泊6日)

参加人数 男子45名 女子36名
計81名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼の自然環境や文化・産業等についての事前学習、現地での様々な体験活動や事後の学習を通して、我が国の豊かな自然を愛し、環境保全に努めようとする態度を養う。
- ・自分の立てた課題について、調べたり体験したりして得た情報を分かりやすく整理し、まとめ、表現する力を育む。
- ・現地での諸課題について、友達と協働してよりよく解決する力を育む。
- ・長期の宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や教養を身に付ける。
- ・友達や現地の方と親密に関わる活動を通して、他者とよりよい人間関係を築くとともに、よりよく自己実現を図ろうとする態度を養う。

○日程表

9月13日(金)		9月14日(土)		9月15日(日)		9月16日(月)	
8:10	学校集合・出発式	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:20	五小出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	八海山着	9:30	J Aみなみ魚沼見学	9:00	六万騎山登山	9:30	水生生物観察
12:00	昼食(弁当)	12:00	昼食	11:30	昼食(弁当)	11:30	ぬか釜体験
13:00	八海山ロープウェイ	14:00	農業体験	13:30	各民宿着	12:00	昼食
14:30	開校式		(稲刈り・はさがけ)	14:00	ちまき作り	14:00	思い出の場所を
15:30	マイ箸作り	16:15	各民宿着	16:15	健康観察・入浴		スケッチ
16:45	健康観察・入浴	16:15	健康観察・入浴	18:00	夕食	16:15	健康観察・入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	19:00	語らいの時間	18:00	夕食
19:00	語らいの時間	19:00	語らいの時間	21:30	就寝	19:00	語らいの時間
21:30	就寝	21:30	就寝			21:30	就寝
9月17日(火)		9月18日(水)					
6:45	起床	6:45	起床				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:30	ブナ林観察	9:30	思い出の会				
12:00	昼食	12:00	昼食				
13:00	感謝の会の準備	13:00	閉校式				
15:30	六日町の食事づくり	13:15	六日町出発				
18:00	感謝の会	18:00	五小着・閉校式				
19:00	健康観察・入浴	18:20	解散				
21:30	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・米についての興味や関心から個別の課題を設定し、調べ学習を進め、課題に関する情報や考え、さらに調べてみたいことなどをまとめた。その学習経験から、南魚沼で見たいこと、知りたいこと、聞きたいことなどの高い意欲と明確な目的をもって参加できた。
- ・総合的な学習の時間と関連させ、課題や南魚沼で得た情報をワークシートに即時に記入できるようにした。夜の「語らいの会」や事後の学習にも役立ち、セカンドスクール前後の学びのつながりが生まれた。
- ・宿長、イベント係、食事・生活係、保健係、バスレク係の各係で、仕事内容の確認をして準備を行った。
- ・生活指導員との交流会ではゲームや質疑応答などを行い、信頼関係を深めた。

2 事後の学習内容

- ・南魚沼で見たこと、知ったこと、聞いたこと、考えたことをまとめ、自分の課題の発信・表現方法についても考え、発表会を行った。
- ・六日町交流会ではお世話になった宿の方に感謝の気持ちを伝えた。
- ・4年生に向けて、セカンドスクールで学んだことや体験したことを紹介し、セカンドスクールへの意欲を高めた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山頂上散策

八海山ロープウェイに乗車し、八海山頂上を散策した。不安定な天気でロープウェイの中や山頂から南魚沼の町並みをあまり見ることができなかったが、時折雲がなくなり、児童からは「田や畑が多く、武蔵野市の様子とは違う。」といった感想が聞かれた。頂上では、その空気の冷たさに驚き、設置された説明書きや写真を見ながら、南魚沼の町の様子を確認した。



【八海山ロープウェイでの様子】

2 六万騎山登山

現地ガイドの方に引率してもらい、六万騎山の登山に挑戦した。天気がよく気温が高かったが、木陰の中の登山だったので、頂上まで全員で声を掛け合い登ることができた。頂上での天候にも恵まれ、南魚沼の町の様子を一望することができた。「六万騎山」の名前の由来をガイドの方に教えてもらい、南魚沼市への興味・関心を高めていた。



【六万騎山頂上からの風景】

3 水生生物観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、水辺や野原に生息する生物の観察を行った。学級ごとに3つの場所に分かれ、休耕田や用水路、湖畔周辺などで生物を探したり観察したりした。活動開始時には、生物に触ることに抵抗感をもつ児童もいたが、時間の経過とともに慣れ、どの児童も活動を楽しむことができた。学習のまとめとして見付けた生物を紹介したり、ガイドの方の説明を受けたりすることで、さらに南魚沼の自然の豊かさを学ぶことができた。



【水生生物観察の様子】

4 ブナ林観察

現地ガイドの方から説明を受けながら、ブナ林の散策を行った。散策道には、何年もの間積み重ねられてきた落ち葉や年を重ねた大きなブナの木があり、児童は自然の雄大さに驚いた様子だった。ガイドの方から、豊かな山々が米づくりに欠かせない美しい水を守っていることや、キノコが森を保つ役割をしている話を詳しく聞くことができた。



【現地ガイドの方の話を聞く様子】

<社会体験活動>

1 農業体験

カンントリーエレベーターと精米施設を見学し、米がどのように保管されるのか知ることができた。午後は現地農家の方の協力を得ながら、鎌を用いて稲刈り体験を行った。刈った稲をわらでくくることに苦勞していた。予定された時間で稲刈りを終えた区画はわずかであり、手作業で農業を行うことの大変さを感じていた。社会で学習した農業器具の進歩や、機械化の大切さが分かったという感想を多くの児童が述べていた。



【稲刈り体験の様子】

<生活・文化体験活動>

1 宿舎での集団生活

家庭を離れ、布団の上げ下げや身支度、洗濯等の身の回りのことを自分たちだけで行うことは、児童にとってとても新鮮な経験になったようである。洗濯機に洗剤を投入することや洗濯物を干すこと、洗濯物を取り込んでたたむことなどをほとんど経験したことがない児童もおり、日常生活の営みを自分たちで行うことの大切さや大変さを感じていた。

事前に係の役割を確認していたが、初めのうちは時間通りに行動できなかったり、自分の役割を果たせなかったりする様子が見られた。しかし、5泊6日という長い時間を共に過ごす中で、話し合ったり協力し合ったりして自分たちで課題を乗り越えることができていた。時間の経過と共に、児童間の結束が高まり、生活が穏やかで充実したものとなっていくのを実感することができた。

「語らいの時間」には、班ごとに一日を振り返り、良かった点や改善点を出し合って翌日の活動につなげようとする姿が見られた。朝の会では、各宿で話し合ったことや生活をよりよくするための取組を伝え合い、共有できた。最後の夜には、「感謝の会」を通してお世話になった民宿の方々へ感謝の気持ちや楽しかった思い出を伝えていた。

○児童の感想

- ・私は、どうすれば稲を刈ることができるのか全く知りませんでした。一度説明を聞いて実際にやってみると、ものすごく難しくて「これ、本当に切れるのかな。」と思いました。やり終えると汗で体がベトベトしていて、農家さんはこんなことをしていてすごいなと思いました。そして、お米を作る大変さが分かりました。
- ・ぼくは、セカンドスクールで自然の大切さを学びました。ブナ林で、ガイドの方は「キノコがなければ森はない。」と話していました。その時は、どういう意味なのだろうと思っていたい

たけれど最後のお話で「木が倒れたら何年もその形のまま残ることになるが、キノコがあればその倒れた木を分解してくれる。そして今の形の森がある。」ということを知り、キノコはとても大切だと気づきました。

- ・私がセカンドスクールで成長したことは二つあります。一つ目は友達と協力することです。お互いに助け合い、思いやりをもって行動することで、更に楽しい毎日になりました。二つ目は、感謝の気持ちを伝えることです。今まで感謝の気持ちをもっていても、あまり伝えることはできませんでした。しかし、普段のあいさつや返事を大きな声で言うことを心掛けることで、感謝の気持ちも言葉に出せるようになりました。人の優しさを当たり前と思わないことが、成長につながると思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールの中では、全ての時間を友達と共有しながら生活する。その時間こそが有意義であり、失敗や反省を何度も繰り返し、成長につなげる機会となる。具体的には、共同生活の中で、意見をぶつけ合って話し合い、自分たちの関係をよりよくしていこうとしていた。自らの力で課題を乗り越え、よりよい人間関係を構築することができた経験は、今後の学校生活のあらゆる場面で生かされていくと思われる。引率教員の関わり方についても、トラブルが起きないように見回り、「～しなさい。」という指導の仕方から、生活指導員に関わってもらいながら「～のことについて、どう考えているか。」を問うようにし、児童が自らの力で課題解決する過程をサポートした。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・事業評価アンケートによる数値の変化はあまり見られなかったが、身体的能力のポイントは事後にやや向上した。今年度は暑い中、農業体験や登山をしたことが原因ではないかと考えられる。体力的に厳しい状況でも、声を掛け合いながら頑張る姿が多く見られた。道徳的能力のポイントがやや下がったのは、セカンドスクール前の高い目標設定に比べ「もっとできたはず」という思いの表れだと考えられる。また、宿での過ごし方について指導を受けたことも影響したのではないかと考えられる。次年度は事前指導を徹底していきたい。
- ・カントリーエレベーター見学と稲刈り体験は、今夏の猛暑の影響により米の収穫時期がずれ、繁忙期と重なったことで急な行程変更となった。さらに当日も厳しい暑さとなり長時間活動することが困難であった。プログラムの内容を変更するか、暑さの影響がない時間帯や場所を確保することなどが必要だと考えている。
- ・長期宿泊の不安から眠れない児童や体調不良を訴える児童の対応が多かった。事前に長期宿泊に向けた準備や心構えを児童や保護者に向けてもっと丁寧に行う必要があると感じた。

大野田小学校

長野県飯山市

9月19日～9月24日(5泊6日)

参加人数 男子80名 女子61名
計141名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・武蔵野市と飯山市の自然を比較して違いや共通点に気づき、それぞれの特徴について理解を深める。
- ・自然について興味関心をもち、課題を見付けすすんで調べようとする態度を養う。
- ・調べ学習や体験的な活動を通して、課題に沿って必要な情報を集め、取捨選択する技能を高める。
- ・課題解決の方法を考えたり、調べ学習や体験的な活動を通して自分の考えをもったりする力を育成する。
- ・学習したことを伝える方法を目的に合わせて工夫し、分かりやすく伝える力を育成する。
- ・人との関わりを通して、コミュニケーション能力や考えを広げたり深めたりする態度を養う。

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:30	学校集合出発式	6:00	起床 健康観察・朝食	6:00	起床 健康観察・朝食	6:00	起床 健康観察・朝食
8:00	学校出発	9:00	農業体験(稲刈り)	9:00	郷土料理体験(宿別)	9:00	課題別学習②
12:40	戸狩着、昼食	12:30	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:30	開校式	14:00	農業体験(脱穀)	13:15	課題別学習①	13:15	課題別学習③
15:00	はし作り	17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食	18:00	入浴・夕食
17:00	入浴・夕食	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:30	今日のまとめ
19:00	今日のまとめ	20:00	星空観察	21:00	消灯	21:00	消灯
21:00	消灯	21:00	消灯				
9月23日(月)		9月24日(火)					
6:00	起床 健康観察・朝食	6:00	起床 健康観察・朝食				
9:00	トレッキング	8:00	荷物整理、大掃除				
12:00	昼食	9:00	清掃活動				
13:30	わら細工体験(宿別)	10:00	閉校式				
17:00	入浴・夕食(バーベキュー)	10:30	戸狩出発				
19:00	お礼の会	13:00	横川SA着、昼食				
20:00	今日のまとめ	15:30	学校着、帰校式				
21:00	消灯	15:45	解散				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・「戸狩観光大使になろう」という学習単元を設定し、武蔵野市で調べることや考えることができる「戸狩のよさ」について学習を進めた。
- ・社会科の学習と関連付け、地図帳や雨温図など各種資料を活用しながら、戸狩の位置や地形、気候の特色を調べた。豊かな水を生かして生活をしていること、日本有数の豪雪地帯であること、自然が豊かであることなどについて知るとともに、そうした戸狩の特色を生かした産業や暮らしの様子に関心をもてるようにした。
- ・飯山市や戸狩の自然・伝統や文化、産業について、本やインターネットで調べた。そこから個人のテーマを設定し、各自が課題意識をもってセカンドスクールに取り組むことができるようにした。
- ・国語科の学習と関連付け、話し合い活動を宿舎班のメンバーで事前に行った。自分の課題について、調べたことをもとに、予想したり、現地で何を調べるのか確認したりするために、大切なこと（比較する、関連付ける、分類する等）を意識できるようにした。

2 事後の学習内容

- ・飯山や戸狩で学んだこと、飯山や戸狩のよさについて体験したことをもとに話し合い、事前に設定した課題について理解を深めた。
- ・セカンドスクールで学んだことを振り返り、今後の学校生活でどのような場面で、どのように生かしていくのかを考えた。
- ・飯山や戸狩で学んだことを Google スライドに工夫してまとめ、友達同士で共有した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 とん平トレッキング

民宿の方と一緒に、「とん平」へのトレッキングを実施した。「お小夜の滝」、「川の上流」、「ゲレンデ」の3つの場所を、グループごとにローテーションしながら見学・体験した。「お小夜の滝」や「川の上流」では、千曲川に流れ込む川の源流に触れたり、理科の学習と関連させて川岸の様子を観察したりすることができた。



【川の上流での活動】

2 課題別学習 産業コース(カヌー体験)

課題別学習の「産業コース」として北竜湖でのカヌー体験を取り入れた。飯山の自然を生かした観光として、冬はスキーが有名であるが、冬だけでなく1年を通して様々なアクティビティが体験できることを知った。子どもたちは、体験を終えて「スキーだけではない、様々な体験ができる戸狩は、人も集まるし、観光が産業になると分かった。」と体験から学んだことをま

とめていた。

3 課題別学習 水と森のコース(茶屋池周辺探索)

課題別学習の「水と森のコース」は、茶屋池周辺のブナの森を探索した。冬に降った雪の雪解け水を豊かに湛えた茶屋池、その周辺に広がるブナの森が、戸狩や飯山の豊かな水の源であることを知った。また、ブナの森の土壌でろ過され、豊富な養分を蓄えた水であることも、おいしいお米や農作物には欠かせないということを聞き、戸狩の土地と気候と農業が密接に関わっていることを改めて確かめることができた。

＜社会体験活動＞

1 稲刈り・脱穀体験

一日かけて、稲刈りと脱穀を行った。午前中は、広い水田に実った稲穂を見ながら、鎌の使い方や刈り取った稲の束ね方などの説明をしっかりと聞いていた。2人1組で協力して、集中して作業に取り組んだ。それでも時間内に田んぼの一部ほどしか刈ることができず、作業の大変さを感じていた。午後、稲刈りの後の脱穀を行った。千歯こきと足踏み脱穀を使用した。脱穀機で取りきれない米や周りに落ちた米は、一粒も無駄にしないように手で取ったり拾ったりした。

社会科で学習した内容を実際に体験することで、より深く理解することができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 はし作り

開校式の後、各宿に移動して最初の体験活動「はし作り」を行った。小刀とやすりを使って、セカンドスクール期間中、自分自身が使うはしを作った。竹を削る作業が予想以上に難しく、作業が思うように進まない児童もいたが、教え合いながら根気強く作業し、完成させることができた。



【はし作りの様子】

2 笹寿司作り



【笹寿司作りの様子】

飯山の郷土料理である笹寿司を作る体験をした。まず、笹を地域の山に取りに行き、宿に戻って卵焼きを作り、具材を切り、最後に小判型の形に整えて完成させることができた。戦国時代から続くこの料理が、有名な戦国武将も食べていたことを知り、驚く様子の児童が多数いた。

3 課題別学習 雪国の暮らしと伝統文化コース

課題別学習の一つとして、雪国の暮らしと伝統文化について学んだ。飯山市ふるさと館では、地域で使われていた道具や雪国ならではの生活道具に触れたり、その道具を使ったりしながら暮らしについて理解を深めた。また、近くの手すき和紙体験工房では、飯山の伝統工芸品である「内山紙」を作った。「内山紙」の数少ない職人の方から和紙の材料や作り方について学んだ後、和紙すきを体験することができた。

○児童の感想

- ・稲刈りや脱穀など、簡単な作業だと思っていたけれど、やってみたらすごく難しくて驚いた。多くの苦労をしながらお米を作ってくれた人への感謝や、これからの米作りの未来についても考えることができた。
- ・トラブルが起こった時に、みんなでじっくり話し合って解決することができた。
- ・カヌー体験では、ペアの人と息を合わせることが大切だと気が付いた。お互いに声をかけ合って、活動の終わりの方には思った通りにカヌーを進めることができた。
- ・今まで、パソコンで調べてまとめる作業を多くしてきたが、実際に体験することで自分の知らなかったことを知れて、さらに特別な話を聞けたので、学校で学んだことのもっと先のことを学べたと思う。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

1学期に教科学習で学んだことや、総合的な学習として、戸狩の気候や土地の特色を調べることに加え、飯山が抱える問題点についても学んだ。セカンドスクールを通して「戸狩観光大使になろう」という学習目標を設定し、児童は主体的に自分の課題を追究していく意欲を高め、戸狩のよさを見つけるという目標をもってセカンドスクールを過ごすことができた。

また、宿舎での共同生活を通して、集団行動において大切なこと、人との関わり方や折り合いのつけ方、協力することなど、多く学んでいた。帰校後は、話を聞く、時間を守る、相手の意見を受け止める、自分の役割に責任をもって取り組むなど、他者との関わり方や自分との向き合い方に変化が見られた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・あまり天候に恵まれず、雨の中での活動も多かったが、戸狩の特色を存分に味わうことができた。このプログラムは、多少の雨でも実施できる内容なので、雨天時であっても、実施することが可能であり、さらに宿の方にアドバイスをいただきながら、柔軟な対応をすることができた。
- ・毎日の宿舎での話し合い活動を通して、その日の問題点や解決に向けた方法などをみんなで

考えることができた。また、話し合うことによってお互いをさらによく知り、今まで以上に深いつながりが生まれた。

- ・宿での時間の使い方を柔軟にしたことで、宿の方の話を聞く時間を確保できた。
- ・5泊6日という長い期間を戸狩で過ごし、多くの体験をしたことは、児童が自らの成長を感じることに繋がった。また、武蔵野市では味わえない自然とのふれあいや、この活動を支えてくださった宿の方とのふれあいは、児童一人一人の心を豊かにし、感謝の気持ちをもつことに繋がった。多くの児童が、この経験は、これからの小学校生活や自分の人生においても、生かしていくことができる経験であることに気付いていた。
- ・毎日「今日のまとめ」の時間に、協力できたこと、自分や友達のよさなどについて、伝え合う会を行ったことで、心理的・社会的能力の向上につながったと考えられる。

<課題>

- ・日程が他校と重なったため活動の調整が必要だった。
- ・季節外れの高気温で熱中症の対策が必要だった。宿の方に対応してもらい水分補給できるようにしたが、事前に打ち合わせをしておくが良い。
- ・道徳的能力の数値については、事前調査より事後調査の方が低下傾向であった。友達との深い関わりや新たな経験によって、自分自身を客観的に見つめ直すことができるようになり、自分への評価が厳しくなったことが考えられる。

境南小学校

新潟県南魚沼市

9月20日～9月25日(5泊6日)

参加人数 男子40名 女子54名
計94名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼市の田園や畑、山などの豊かな自然を愛する心
- ・雪とともに暮らしている人々の生活の工夫への気付き
- ・南魚沼市の特色について、課題をもって情報を集めようとする力
- ・集めた情報を整理し、課題を解決する力
- ・南魚沼の人々との交流を通し、よりよい地域・社会づくりについて考える力
- ・集団生活を通して、協力し互いを理解し合う態度
- ・よりよく過ごすために必要なことを考えて行動する態度

○日程表

9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)		9月23日(月)	
7:45	集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:15	出発	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
9:50	三芳PA	9:30	農業体験(稲刈り)	9:30	石打の昼食づくり体験	9:00	課題別フィールドワーク
11:30	赤城高原SA	12:00	昼食	10:30	宿ごとのレク	12:00	昼食
12:30	石打丸山地区到着	13:00	宿別体験①	12:30	昼食	13:00	課題別フィールドワーク
12:45	開校式・宿へ移動	14:00	ちまき作り	13:30	宿別体験②	15:00	課題別グループワーク
13:00	昼食・荷物整理	15:00	ぬか釜すいさん	15:30	掃除・部屋替え・洗濯	16:15	帰宿
13:30	避難訓練	16:30	入浴・振り返り	16:00	宿ごとのレク	16:30	入浴・振り返り
13:45	宿との打ち合わせ	17:00	はがきを書く	16:30	入浴・振り返り	18:00	夕食
14:00	はし作り体験	18:00	夕食	17:00	はがきを書く	19:00	お別れ会の準備
15:30	宿別周辺散策	19:00	部屋ごとのレク	18:00	夕食	19:30	星空観察
16:30	入浴・振り返り	20:00	ふりかえりタイム	19:00	お別れ会の準備	20:00	ふりかえりタイム
18:00	夕食	21:00	就寝	20:00	ふりかえりタイム	21:00	就寝
19:00	宿の方との触れ合い			21:00	就寝		
20:00	ふりかえりタイム						
21:00	就寝						

9月24日（火）		9月25日（水）	
6:30	起床	6:30	起床
7:15	朝食	7:15	朝食
9:00	ハイキング	9:00	笹団子づくり体験
11:50	帰宿	10:30	荷物整理・掃除
12:00	昼食	11:30	昼食
13:00	マイクロバスで移動	12:45	閉校式
13:30	課題別グループワーク発表	13:00	出発
14:30	父から学ぶ、南魚沼の米作り	14:15	赤城高原S A
15:30	学年レク	15:30	高坂S A
17:15	帰宿	16:30	学校到着・帰校式
17:30	入浴	16:45	解散
18:15	夕食（BBQ）		
19:15	お別れ会		
20:15	ふりかえりタイム		
21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科の学習で、米作りの基本的な流れや農家の方々の思い、米作りの抱える課題等について理解した。
- ・学級活動の学習で、それぞれの役割すべきことを把握したり、宿ごとにどのような過ごし方をするかを話し合い合意形成を図ったりした。
- ・図画工作科の学習で、小刀の基本的な使い方を身に付け、安全に使えるようにした。
- ・国語科の学習で、学習したことのまとめ方を学び、目的に応じた情報の整理の仕方を身に付けた。

2 事後の学習内容

- ・国語科の学習で、セカンドスクールでの自身の成長や変化について振り返り、作文に書き表した。また、お世話になった方々への感謝の気持ちを改めて感じられるよう、しおりを活用しながら振り返りを行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

石打ゴンドラに乗った先で自然と触れ合う時間をたっぷりと設けた。児童は、そこに生えている植物に着目してその数や大きさに驚いたり、雲の動きや標高の高い場所から見える景色について興味をもったり、東京との環境の違いについて五感を使って味わうことができていた。



【ハイキング】

2 星空観察

宿ごとに、安全面を考慮した上で、宿周辺にて夜の空の観察を行った。4年生の理科の学習で学んだことも思い出しながら、見える星の数の多さに驚いていた。南魚沼市ならではの夜空を見ることで、その理由について興味をもっていた。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り)

社会科の学習で学んだ米作りの過程の中で、稲刈りやはざかけ、落穂拾いを体験した。鎌で刈り取る中で実際の稲の丈夫さに気付いたり、自然の物だけで稲穂を縛り上げる昔からの技術に驚いたり、落穂拾いには1粒の米も逃さずに大切にしようという思いが込められていることに気付いたりしていた。



【農業体験】

<生活・文化体験活動>

1 ちまき作り・ぬか釜すいさん

炊飯器で炊いたご飯との味の違いだけでなく、自然の物を活用して炊飯することの難しさを感じていた。可食部ではないもみ殻も捨てることなく活用しようという、昔から受け継がれている技術や環境に対する配慮について理解を深めていた。

2 笹団子づくり体験

昔から地域に伝わる笹団子を、宿の方と一緒に作る体験をした。包む物に笹を使う理由について学んだり、より良い食感の団子を作るために水分量を調節しながら力を込めて生地をこねる大変さを味わったりした。その地域で伝統として受け継がれている物について、それに携わる人々の思いや願いに触れることができた。

○児童の感想

- ・箸づくり体験では、小刀の力加減が大切で彫刻刀と似ていることを知った。とても大変な作業で、作っていた人は大変だったのだと感じました。
- ・稲刈り体験では、機械化が進んでいる中で実際に作業をしている農家は少なくなっていることを知りました。今では効率よくするために機械を活用していることを知りました。
- ・石打の昼食作り体験では、みんなが食べやすい大きさに野菜を切ることが大切だと感じました。ちょうどいいサイズに切ったらとても食べやすかったです。
- ・荷物を整理するときに荷物がどこにあるのか分かりやすくすることができるようになった。
- ・担当の係の仕事に責任をもち、積極的に取り組むことができるようになった。
- ・宿の方や生活指導員、宿長の話をきちんと聞く大切さが分かり、意識できるようになった。
- ・食事のマナーや大人への言葉遣いを意識することができるようになった。
- ・仲間と協力しながら、次の日の持ち物や集合時間などを事前に聞くことができるようになった。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

豊かな人間関係について、セカンドスクール実施前は、男女が関わることが少なかったが、現地での分宿生活を通して必然的に関わる機会が増え、それがファーストスクールでの生活にも生かされている。

他者と関わる力について、受け入れ宿の方やセカンドスクール生活指導員との生活を通して、教師以外の大人への関わり方を学んだことが総合的な学習の時間等での、地域の大人との関わり方に生かされている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

①「事業評価（子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査）について
調査項目4つの全てにおいて数値の高まりが見られた。

- ・「生きる力」「心理的・社会的能力」において、普段とは違う環境下において、自分たちで役割を決め、衣・食・住を共に仲間と生活する経験をできたことで数値が向上したと考える。
- ・「道徳的能力」において、宿の方や生活指導員との関わり、仲間との生活において、相手のことを考えて生活することの必要性を感じたことで数値が向上したと考える。
- ・「身体的能力」において、毎日の規則正しい生活や食事が数値の向上につながったと考える。

②日程及びプログラムの組み方について

雨天の場合は、当初計画の行程の中でプログラムを入れ替えるのもよいが、雨天時のプログラムを予め検討し、代用のプログラムを組み込めるようにしたい。

③活動内容について

全体のプログラムや宿別のプログラム内容は概ねよかった。しかし、配当時間や子どもがより活動的になれるような工夫の余地はある。

④「ねらい」の設定と活動のつながりについて

- ・宿の方との生活や、稲刈り、料理づくりなどを通して、南魚沼市に住む人々のよさや現地での暮らしに触れることができた。
- ・集団生活を通して、児童が責任感をもち主体的に行動したり仲間と協力したりすることができた。
- ・ハイキングや周辺散策を通して、南魚沼市の自然に親しみ現地の特色やよさを味わうことができた。

⑤児童の変容について

児童はセカンドスクールでの生活をファーストスクールでの生活と関連付けて考えることができている。宿での生活の中で、自分のことは自分でしたり、集団の中での役割を果たしたりする大切さを学んだ。また、セカンドスクールを通して男女共に協力したり遊んだりする姿が見られるようになった。

本宿小学校

新潟県南魚沼市

9月19日～9月24日(5泊6日)

参加人数 男子34名 女子39名
計73名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さや魅力を深く理解する力
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追究したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するための情報を集めて整理し、自分の言葉で人に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生き方や生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:30	学校集合 出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
8:00	出発	7:00	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	昼食	10:30	現地小学校交流会	9:00	稲刈り体験	9:00	課題別学習
13:00	八海山ロープウェイ	12:20	昼食・入浴	12:00	昼食	12:00	昼食
14:30	到着 開校式	14:00	座禅体験	14:00	わら細工体験	14:00	ぶな林トレッキング
16:00	マイはし作り	16:30	周辺散策	16:00	お別れの会準備	16:30	周辺散策
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ	19:00	入浴・学習のまとめ
20:00	学びの時間	20:00	星空観察	20:00	学びの時間	20:00	ナイトウォーク
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝
9月23日(月)		9月24日(火)					
6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察				
7:30	朝食	7:30	朝食				
9:00	塩沢宿ウォーク	9:00	笹団子づくり体験				
13:30	昼食	10:30	大掃除				
14:30	体育館レク	11:30	昼食				
16:00	お別れの会準備	12:30	閉校式				
17:30	バーベキュー	13:00	出発				
19:00	入浴・学習のまとめ	16:30	学校着・帰校式				
20:00	お別れの会						
21:30	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・課題別学習のテーマ（生活・産業・歴史・自然）に照らして、南魚沼市と武蔵野市の比較を行った。学習に際しては、Google スライドでフォーマットを配布し、インターネットを使って調べた。その中から自分の調べたい項目を決めた。現地で何を取材するのかを具体的に考え、質問項目をまとめた。国語科「みんなが過ごしやすい町へ」の調べ学習や社会科「寒い土地のくらし」「米づくりのさかんな地域」、理科「流れる水のはたらきと土地の変化」の単元と関連付けて学習を進めた。

2 事後の学習内容

- ・児童それぞれが自分の課題について調べたことを、スライドにまとめた。そして、セカンドスクールでお世話になった宿の方々や指導員、4年生を体育館に招待して、発表した。
- ・武蔵野市民科のカリキュラムの一環として、南魚沼市と比較した武蔵野市のよさについて考え、調べたことをまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ

ロープウェイを使って八海山に登った。頂上から今回宿泊する上の原地区を眺めた。濃い霧の中、盆地の広がりや土地の様子を確認した。

2 後山ぶな林トレッキング

後山ぶな林をガイドの方と散策した。ぶなの葉や実の特徴、水を貯える働き、多くの生き物のすみかになっていることなど、ぶな林の役割を知り、自然環境や自然と共に生きる人々の暮らしについて学ぶことができた。



【後山ぶな林トレッキング】

3 星空観察

「学びの時間」で星空観察を行った。この日は雲が少ない夜で、街灯がほとんどない観察地点からは、満天の星が見られた。また、夜にこうした時間を友達と共有できたことが、児童にとっていい思い出になった。

<社会体験活動>

1 稲刈り体験

稲刈り体験では、宿の方や地域の方に稲の刈り方と束ね方を教えてもらい、作業を進めていった。米づくり作業の一端を体験することでその大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけ



【稲刈り体験】

て米を作ってくれているおかげで、自分たちが米を食べられることに喜びを感じることができた。

2 三国川ダム見学

三国川ダムでは、堤防や展望台からダムの大きさを体感した。バスで周辺の自然を味わった。帰校後には、理科の学習で、雨水を貯えたり洪水を防いだりするダムの役割について振り返った。

3 北辰小学校との交流会

地元の小学校との交流会を行った。温かい歓迎を受けて会が始まり、レクリエーションや合唱で仲を深めた。お礼にダンスを披露し、拍手を送られるなど、自己肯定感の高まりを感じられる貴重な体験となった。



【北辰小学校との交流会】

<生活・文化体験活動>

1 わら細工体験

地元の方に手順を教わりながら、わら細工体験を行った。自分なりにデザインを考え、個性豊かな作品に仕上げることができた。これらの活動を通し、南魚沼の自然を感じ、地元の人たちの自然との関わりや工夫を学ぶことができた。

2 座禅体験

雲洞庵では、座禅体験をした。多忙であったり、悩んでいたるときは、座禅をして心を落ち着かせ、その事を一旦考えないことが大切だということを学んだ。それを体感する中で、「東京に戻ってからもやってみたい」との感想が聞かれた。

3 塩沢宿ウォーク

3つのグループに分かれて、つむぎ記念館と鈴木牧之記念館、中島屋の見学をした。つむぎ記念館では、伝統産業である織物体験をした。初めての機織りに戸惑いながらも、慣れるにしたがいどんどん長くなっていく織物を見て、楽しんでいた。



【つむぎ記念館織物体験】

4 郷土料理(笹団子)づくり

各宿で、地元の講師の方と交流しながら笹団子づくりに取り組んだ。初めは戸惑っていたが、慣れるに連れて楽しんで取り組み、できあがった笹団子を味わっていた。

<課題別体験学習>

1 雪国の生活

除雪車や冷暖房水循環式冷房システムに使われる雪山の跡地を見学した。また、六日町の駅前には消雪パイプや雁木、縦型信号機など設備などがあることを知り、宿周辺では、高床式の

家や雪を溶かす水路など町の中の雪国の暮らしの工夫を見付けた。自然環境に合わせた人々の生活について学ぶことができた。

2 南魚沼の米

社会科で学習したカントリーエレベーターの見学を行い、収穫した粳をスムーズに受け入れる施設やトラックに積んだまま米を計量できる仕組みなどに興味をもって調べることができた。また、粳殻が乾燥され貯蔵、精米されていく過程を知り、カントリーエレベーターが果たしている機能を学んだ。豊かな自然環境を生かしながら、米づくりに関わる人々がこうした施設や設備を使い、様々な努力や工夫を重ねていることに気付くことができた。

3 坂戸城跡

坂戸山に行き、山城であった坂戸城とはどのような城だったのかをテーマに、人工的にめぐる内濠や、坂戸山からの景色や住居の跡などを実際に見ながら、ガイドの話を聞いた。地元の人々に親しまれていた上杉景勝と直江兼統の生涯を知る機会となった。

4 源流の学習

「川は、どこから流れてくるのか」「川にはどのような生き物がいるのか」といった課題をもって活動に臨んだ。川の源流に行き、小さな生き物を観察した。普段見られない生き物を見たり、講師の話を聞いたりすることで、川や水に関する学習を深めることができた。

○児童の感想

- ・八海山ロープウェイは、スピードが速くて楽しかった。霧が濃かったけど、展望台からは遠くの景色が少しだけ見えた。
- ・マイ箸づくりでは、刃の力の入れ加減を調節するのが難しかった。でも上手に作ることができて嬉しかった。
- ・北辰小学校との交流会では、いろいろなゲームをして、仲が深まった。帰る時に「さよなら」などの挨拶をされて嬉しかったので、自分もしっかりと挨拶をしていこうと思った。
- ・三国川ダムを見学して、初めて見るダムの大きさに驚いた。
- ・座禅体験をすると心が落ち着くのを感じた。これからも心を落ち着かせたい時には座禅体験をしたいと思った。
- ・周辺散策では、足湯と湖に行きました。湖はとても広くてきれいだった。
- ・稲刈り体験では、鎌を使って同じ長さに切ることや稲をまとめるのが難しくて、稲刈りの人の大変さがよく分かった。だんだんと上手になり、みんなで全部刈り終わったときは、とても嬉しかった。
- ・絵はがき作りでは、思い出に残った八海山ロープウェイの様子を書いた。南魚沼から出した手紙が届くのが楽しみだ。
- ・わら細工体験が楽しかった。講師の話をよく聞きながら、「長さを同じにする」「間を作らない」などのことに気を付けて作った。友達にも手伝ってもらい、とてもいい作品をつくることができた。

- ・星空観察では、とてもたくさんの星を見ることができた。流れ星を生まれて初めて見て、一生の思い出になった。
- ・課題別学習では、「雪国の生活」について学んだ。南魚沼市の人たちは、雪を生かして冷房にしたり、スキーを楽しんだりしていることが分かった。
- ・後山ブナ林では、森林や自然のよさが改めてわかった。雨が降っていたけど、ブナ林が自然の屋根になっていてあまり濡れなかったことがおもしろかった。
- ・牧之記念館では、雪国の生活に使うものや鈴木牧之さんのことを知った。雪の結晶は、すべて六角形だということにおどろいた。
- ・体育館レクが楽しかった。最後に校長先生の誕生日をサプライズで祝った。大成功して、喜んでいる校長先生を見て、嬉しくなった。
- ・お別れ会では、宿のお父さん、お母さんとゲームを楽しんだ。最後に手紙を渡して感謝の気持ちを伝えることができた。
- ・笹団子作りは、みんなで楽しくできた。家族へのお土産ができて嬉しかった。
- ・セカンドスクールを通して、普段から身の回りのことを世話してくれている両親に感謝の気持ちをもつと共に、自立して生活しようとする意識が高まった。
- ・集団生活を送る上で、「ありがとう」や「ごめんなさい」などの言葉掛けが大切だと学んだ。
- ・宿のお父さん、お母さんの優しさに触れ、感謝の気持ちを伝えることの大切さを学んだ。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今回のテーマとして、「礼儀・感謝・学び」の3つを掲げた。児童の感想からは、このセカンドスクールを通して、これらのテーマに関することが身に付いたと感じていることが伺える。帰校後の学校生活においては、日常的に明るく気持ちのいい挨拶ができるようになっただけでなく、周囲の大人たちに敬意をもって接するようになった。キャリアパスポートでは、多くの人に支えられていることへの感謝の気持ちを示すものが多く見られた。

今回の学習事項を武蔵野市民科に生かし、「武蔵野市のよさ」や「武蔵野市民として自分たちにできること」を考え、市政に参画していこうという意欲をもった児童を育てていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今回の指導では、ファーストスクールでの成長につなげるために、自己の課題を発見することをねらいとしていた。子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果、「生きる力」の変容は事前から事後にかけてすべての数値で向上した。宿舎で教員の手を離れて生活する中で、課題に向き合い、克服してきた結果ではないかと考えている。また、「人のために何かをしてあげるのが好きだ」の項目について「とてもよくあてはまる」の回答が16%向上している。これは、宿の方々とのお別れ会や生活指導員の方々へ手紙を書いて最後に渡す活動を通して、お世話になった方に感謝の気持ちを伝え、喜んでもらうという経験によるものだと考えられる。

活動については、今年度は雨の日が多かったが、ほぼ予定通り活動を行うことができた。今後は、荒天時の雨プログラムについて検討していく必要があると感じた。また、休日のために十分にできなかったプログラムがあるので、日程の組み方についても検討していきたい。

千川小学校

新潟県南魚沼市

9月9日～9月14日(5泊6日)

参加人数 男子26名 女子23名
計49名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の自然や人々の生活等について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ 現地での学習を通して、自己やグループの課題解決のための情報を集め、整理、分析してまとめる力を育む。
- ・ 集団活動を通して、互いのよさを理解し合い、協力して生活する態度を養う。
- ・ 現地の方々との交流や自然・文化体験を通して、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

9月9日(月)		9月10日(火)		9月11日(水)		9月12日(木)	
8:00	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
11:30	石打丸山ロープウェイ乗車	7:30	朝食	6:30	朝会	7:30	朝食
12:00	昼食	9:30	稲刈り実習	7:30	朝食	9:00	わら細工体験(一輪挿し)
14:00	開校式	12:00	昼食	9:30	後山ブナ林トレッキング	12:00	昼食
15:00	マイ箸作り	14:00	ちまき作り	12:00	昼食	13:30	各宿での活動
17:00	入浴	16:00	ぬか釜体験	14:00	関興寺座禅体験	18:00	夕食(バーベキュー)
18:00	夕食	17:00	入浴	16:00	入浴	19:10	入浴
18:50	天体観測	18:00	夕食	18:00	夕食	20:00	学習のまとめ・健康観察
20:00	学習のまとめ・健康観察	19:00	学習のまとめ・健康観察	19:00	語らいの会・健康観察	21:00	就寝
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝		
9月13日(金)		9月14日(土)					
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔				
7:00	朝食	7:30	朝食				
9:00	課題別学習	9:30	笹団子づくり				
12:00	昼食	11:30	昼食				
13:30	各宿での活動	12:30	閉校式				
16:00	入浴	16:00	学校到着				
18:00	夕食	16:05	到着式				
19:00	感謝の会						
20:00	学習のまとめ・健康観察						
21:00	就寝						

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科「米づくりのさかんな地域」では、米作りに適した気候や地形、生産の工程、働く人々の工夫や努力に着目した。さらには、輸送や販売方法など、米作りに携わる人々が生産性や品質を高めていることにも目を向け、理解を深めた。また、現地で質問したいことを整理し、関心を高めた。
- ・総合的な学習の時間には、南魚沼市からコシヒカリの苗を送っていただき、現地在住のゲストティーチャーの指導の下、自然体験園で田植えを行った。さらに、新潟県または南魚沼市のパンフレットづくりを行った。武蔵野市立中央図書館から取り寄せた書籍や、新潟県や南魚沼市の公式ホームページを見て興味をもったことを中心に、白地図に書き込みをしながらまとめ、興味を広げながら現地で学習することへの期待を高めた。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で学んだこと、現地で体験したことを課題別学習のグループを中心に整理した。整理した内容を基に、学習発表会で地域の方々や保護者、他学年の児童へ発表した。「おいしいお米ができる謎」を、「雪・ブナ林・水・宿のやさしいお父さんお母さん」のキーワードに沿って解いていき、劇や合唱、合奏を交えながら表現した。
- ・セカンドスクールを通して学んだことや感じたことなどを作文にまとめ、自己や学年の成長を振り返る機会にした。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 石打丸山スキー場 ロープウェイ乗車

ゴンドラとリフトを利用して、石打丸山スキー場の展望テラスへ行った。山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴や中央を流れる魚野川、水田の多さを実感することができた。初日、現地入りして最初に訪れたことで、児童はこれから始まるセカンドスクールへの期待を高めたり、武蔵野市との違いについて身をもって感じたりしている様子であった。

2 後山ブナ林トレッキング

講師を2名招き、ブナ林のトレッキングを行った。ブナ林に生息している動植物について説明を聞きながら、自分たちでも興味をもった動植物を探しながら散策した。また、水源林としての役割についても説明を聞き、落ち葉の感触を確かめながらブナ林の貯水機能について理解を深めた。さらに、山に囲まれた地形ならではの山びこ体験をしたり、クロモジの香りを嗅いだりして、五感を使って自然を満喫することができた。

＜社会体験活動＞

1 農業体験(稲刈り、はざかけ、野菜の収穫など)

稲刈り体験では、米作りの作業の一つを体験することで、農家の人の苦労や収穫した米の行方を探究しようとする態度を育てることをねらいとした。宿の方と現地指導員から鎌の使い方を教わってから、稲刈りを行った。すぐに鎌の使い方に慣れ、夢中になって何株も刈り取る児童が多く見られた。刈り取った稲を束ね、はざかけ体験も行った。この後どれくらいの期間干すのか、そして白米になるまでどのような工程を経るのか



【はざかけ体験】

質問する児童もいた。さらに、水田から帰る途中で、コンバインで作業をしている様子を見ることができた。事前に社会科で学習したことと、稲刈り体験を合わせながら、改めて昔の人々が行ってきた手作業での米作りの苦労について実感することができた。

各宿で、野菜の収穫体験や耕運機を使った田起こし体験も行った。ピーマンやなす、カボチャなどを収穫した。宿の方から収穫までの作業についての話を伺いながら作業したことで、農作業の工夫や苦労について理解を深めた。さらに、収穫した野菜を食べさせていただいたことで、より一層おいしさを感じ、苦手だった野菜を克服できた児童もいた。

＜生活・文化体験活動＞

1 わら細工体験(一輪挿し)

わら細工体験を通して、米作りは食だけではなく他の生活にも深く関わっていることの理解をねらいとした。各宿1名ずつ講師を招き、体験を行った。竹に両面テープを貼り、わらを貼り付けていった。わらの節を規則的に並べて模様を作ったり、作り方などについて友達同士で教え合ったりする様子が見られた。さらに、講師の方からわらじなど、他のわらの活用方法についても教えていただき理解を深めることができた。



【わら細工体験】

2 ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統的な食文化を理解することをねらいとした。各宿に1名ずつ講師を招き、調理を行った。ちまき作りでは、笹の葉にもち米を包む作業に悪戦苦闘する児童が多く見られた。しかし、講師や宿の方からの助言や、友達との協力によって完成させることができた。笹団子作りにおいても、すげを使って包む作業に苦労していたが、助け合いながら調理することができた。

また、ブナ林で笹の葉を見つけた際に、ちまき作りを思い出し、昔の人々が自然にあるものを有効活用していたということを理解することができた。

3 関興寺見学、座禅体験

住職の話を聞いて南魚沼市の歴史について知ったり、座禅体験をすることで、異文化から発展した日本文化に関する知識を身に付けたりすることをねらいとした。施設見学に加え、上杉謙信、景勝に関する話を聞いたり、保存されている火縄銃を持ったりした。さらに、座禅体験の後には、「関興寺のみそなめたか」と伝わる由緒ある味噌をなめるなど、南魚沼市の歴史、文化に触れることができた。



【経蔵見学】

○児童の感想

- ・ぼくはブナ林に行って、自然のすごさが分かった。前のぼくは自然の強さを知らなかったがブナ林に行って自然は負けずにたくましく生きていることが分かった。普段見る草がいつもよりたくましく見えたし、家に帰る時も通学路にある大きな木が力強く見えた。そして、これからはもっと自然と丁寧に大切に触れ合わないといけないと思った。
- ・わらを使って、一輪挿しを作った。南魚沼市の人たちは米作りの中で捨てるものを減らそうとしていることが分かりました。私も見習いたいと思いました。だから、物はよく考えてから買ったり、捨てる前にだれかに譲ったり、捨てるならしっかり分別したりしたいと思いました。
- ・「ありがとう」という言葉は、とてもすてきな言葉だと思った。稲刈りの後、鎌の片付けを手伝っていると、宿のお父さんから「ありがとう」と言われた。聞いた瞬間、とてもうれしい気持ちになった。まるで、魔法をかけられたような、快い気持ちだった。また、準備や片付けなどの大切さにも気が付いた。準備や片付けがあるからこそ、稲刈りなど主な活動ができるのだと分かった。だから、これからの生活で、人から見えないところでもしっかり行動できるような人になりたいと思った。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

今年度のセカンドスクールのめあてを、「楽しんで互いに協力しながら自然とあいさつを大切にして、思いやりのある最高の5泊6日にしよう。」とした。学年で意見を出し合い、各宿の室長をメンバーとする実行委員が集約した。児童はめあてを考える中で、これまでの言動を振り返った。これまで以上に友達と協力できるようにしたい、挨拶を欠かさずできるようにしたい、思いやりの気持ちを高めたいという意見が挙がった。セカンドスクールでは、多くの体験や、あたたかい現地の方々との触れ合いを通して、めあてを達成することができた。

帰校後も、セカンドスクールの経験を自信にして生活している児童が多く見られた。具体的には、給食当番での協力や配膳時間の速まり、挨拶の回数の増加、休み時間に学年で遊ぶ回数の増加、委員会活動での提案回数の増加など、児童の変化が見られた。

来年度の最高学年への進級へ向けて、このような成長を価値付けながら指導していく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果、「生きる力」の変容は事前から事後にかけて 2.59 ポイント低下した。「心理的・社会的能力」は 0.78 ポイント、「道徳的能力」は 0.68 ポイント、「身体的能力」は 1.13 ポイント低下した。5泊6日という時間の中で様々な体験をし、自分を見つめ直す機会が多くあり、自己を客観的に見られるようになった結果だと考える。

一方、各項目を見ると「花や風景などの美しいものに感動できる」などは、平均ポイントが向上した。初日に南魚沼市の地形が一望できる石打丸山スキー場を訪れたり、ゆとりある日程を組んだことで宿舎周辺の自然に触れる時間が確保できたりしたことで、向上したと考えられる。さらに、「自分からすすんで何でもやる」、「いやがらずに、よく働く」も、平均ポイントが向上した。宿泊施設で班のメンバーと協力しながら家事に取り組んだ成果と考えられる。

来年度は、一層の充実を図るため、行程を見直す。「失敗しても、立ち直るのがはやい」や、「からだを動かしても、疲れにくい」などの項目が低下したことから、登山などのアクティビティの導入を検討する。

井之頭小学校

長野県飯山市

9月19日～9月24日(5泊6日)

参加人数 男子53名 女子59名
計112名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・飯山での体験活動を通して、飯山の自然と人とのかかわりについて理解を深める。
- ・飯山の自然とのふれあいや現地の人の話を聞く活動を通して、自然を利活用していることを知り、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・飯山のまちのよさについて、調査や体験したことを基に各自で考え、それらをグループとして統合、分析、表現する活動を通して、情報を基に考える力を育成する。
- ・自己の課題を設定し見学や活動を通して、学んだことを整理・分析し、よりよい活動にしようとする態度を育てる。
- ・長期にわたる集団生活を通して自立した生活を送る技能を身に付けたり、友達と協力したりして、目標を達成するための話し合いや合意形成の図り方の理解を深める。
- ・現地の方々と関わりや、体験活動を通して、飯山における課題を自分事として考える力を育成する。

○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:45	戸狩到着	9:00	郷土食体験	9:00	ブナ林散策	9:30	飯山線見学
12:55	開校式	11:30	昼食	12:30	昼食	10:00	寺町めぐり
13:10	昼食	13:00	稲刈り、脱穀体験	14:00	雪国のくらし学習	13:00	昼食
14:30	箸作り	16:00	入浴・健康観察	17:00	健康観察	14:00	スケッチ
17:00	健康観察	18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	健康観察
18:00	夕食	19:00	暗闇体験	19:00	入浴	17:30	夕食
19:00	入浴	20:00	振り返り	20:00	振り返り	19:00	入浴
20:00	振り返り	21:00	就寝	21:00	就寝	20:00	振り返り
21:00	就寝					21:00	就寝

9月23日（月）		9月24日（火）	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食、大掃除
9:00	課題別学習	9:30	閉校式
12:00	昼食	10:00	戸狩出発
13:30	宿ごと勤労体験	12:00	昼食
16:00	健康観察	15:00	学校到着
17:30	夕食	15:10	帰校式
18:15	感謝の交流会	15:30	解散
19:45	入浴、振り返り		
21:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・長野県の位置や、飯山市の気候や特色について調べ、その中から「自然、動物」「農業・暮らし」「歴史」「伝統文化」などのテーマについて個人課題を決め、本やインターネット等を使って調べ学習を行った。調べた内容はワークシートに記入しドキュメントシートやスライドなどにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで体験したことや学んだこと、成長したことなどを報告文にまとめた。
- ・学んだことや伝えたいことをテーマごとにスライドや模造紙にまとめ、4年生に向けて掲示した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナ林ハイキング

各宿のお父さん方をガイドとして、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴・積雪についての話を聞いた。ハイキングの途中、ブナの木に触れ、観察したり、落ち葉の堆積した地面を踏みしめたりしながら、豊富な水を蓄えるブナ林の特色や、自然環境の中で果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、生き物や人間と自然がどのように関わっているのか実感することができた。



【ブナの木の観察】

2 暗闇体験(星空観察)

日が落ちて真っ暗になった飯山の夜道を各宿のお父さんと一緒に歩いた。東京の街とは異なり、街灯や家、店の明かりがなく、今までに体験したことのない暗闇に児童はわくわくしている様子が見られた。

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り、はぜかけ、脱穀体験)

宿のお父さん方の指導で稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。「稲刈りがこんなに難しいとは思わなかった。」という児童の声も聞こえた。はぜかけでは、稲穂の束ね方から教えていただいた。脱穀では、刈り取った稲を束にして、時代ごとの脱穀を体験した。千歯こきや足踏み脱穀機を、実際に使うことで、当時の人々の苦労を学ぶことができた。全ての作業を通して、「一粒のお米も無駄にしないといけない」という思いをもつことができた。



【現在の稲刈りの様子の見学】

2 宿ごと勤労体験

宿ごとに活動内容を考えていただき、感謝の気持ちを込めて勤労体験を行った。天候が悪かったので、室内の掃除を行う宿や、トマトやきゅうりなどの野菜を収穫したり、畑の片付けをしたりと、畑での活動を行う宿もあった。児童は自分で野菜を収穫することの大変さとともに嬉しさも実感した。夕食時に自分で収穫した野菜を食べたときは「自分たちで収穫したんだよ。」と得意げに話し、自分たちの力で働いて食べ物を得ることの喜びを味わうことができた。

<生活・文化体験活動>

1 箸作り

箸作り体験では、竹を小刀で削って細くしつつバランスを見ながら行った。セカンドスクール中に使用する道具を自分達の力で作ることができ、児童は満足そうだった。また、友達の作業を手伝ったり、声を掛け合ったりしながら制作する様子が見られ、協力して作業することの大切さを知ることもできた。



【完成した箸】

2 郷土食体験

郷土食体験では、飯山の郷土料理である「笹寿司」と「天井焼き」を作った。郷土料理についての歴史や背景を宿の方に教えてもらいながら調理した。笹寿司を作るために、笹を自分たちで取りに行くことから始めた班もあった。自分で作った料理を味わいながら、飯山の食文化を身近に感じることができた。



【天井焼きの調理体験】

3 寺町めぐり(飯山城址、飯山シャンテ見学)

飯山線を見学した後に、飯山城址と寺町、飯山シャンテを散策した。飯山城址から見える千曲川の風景や寺町の仏壇通りの雰囲気、飯山シャンテのジャンプ台の様子など東京との違いに驚いていた。飯山市中心部を徒歩で散策しながら、地域の特徴や地理的状况を知るだけでなく、地域の飯山の歴史、文化、産業、伝統工芸に触れることができた。

4 課題別学習

飯山市について知りたいことを、「自然・植物・動物」、「観光・産業」、「観光・名所」、「暮らし・伝統工芸」、「歴史」、「農業」のテーマに分けて事前学習を行い、宿ごとに活動内容を考えていただいて課題別学習を実施した。課題について事前に調べておくことで、より主体的に学習に取り組むことができた。宿の方の話を聞いたり、実物に触れたり見たりすることで、事前学習では分からなかった自然の豊かさや暮らしの工夫など、学びをより深めることができた。

○児童の感想

- ・ブナ林があるから長野県は水が美味しいことを知った。とても長い年月をかけてできたブナ林の中で勉強でき、すごく爽やかな気持ちになった。
- ・山の中に植物がたくさんあり、去年行ったプレセカンドスクールのときよりもたくさんの自然に触れ合い、たくさんの事を知ることができた。
- ・飯山にしかない自然、動物、植物にたくさん触れられてよかった。
- ・飯山市のお寺を見ただけではなくて、伝統工芸品の飯山仏壇（いいやまぶつだん）を初めて見ることもでき、知ることができた。
- ・雪国のくらしの話では、昔と今の違いや東京都との違い、雪国の特徴などが分かった。
- ・昔の米作りの仕方と今を比べると、昔はとても大変だったということや今の技術の発達を実感することができた。
- ・これからは、率先して手伝いをして、家の人に負担があまりかからないようにしたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・セカンドスクールから帰ってきた後、時間を気にしたり、お互いに声を掛け合ったりと様々な場面において協力する姿が多く見られるようになった。
- ・運動会などの学校行事においても、よりよいものにしようと、互いの意見を聞き合い、協力しながら活動する場面が多くなった。
- ・トラブルが起きてしまっても自分の言葉で話し合うことが多くなった。
- ・国語科「みんなが使いやすいデザイン」の学習でセカンドスクールについての報告文を作成し、4年生に掲示して発表した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・「心理的・社会的能力」、「身体的能力」の項目では、事後アンケート調査の結果、事前より約1ポイント向上した。
- ・「心理的・社会的能力」の項目では、長期的な集団宿泊生活を通して、課題解決能力や協調性が育まれたことにより、友達との助け合いや先を見通した計画の立て方を学び、自己評価の数値が上昇したと考えられる。
- ・「身体的能力」の項目では、自然の中で体を動かし、体験的な活動をしたことで規則正しい生活リズムが身に付き、健康的になったと感じ、自己評価の数値が上昇したと考えられる。また、習い事などの時間から解放され、睡眠時間がいつもより確保されたためと考える。

<成果>

- ・稲刈りでは、二人一組になり5束と決め、残りは宿の方がコンバインで稲刈りをするのを見ることで、時間的にも体力的にも、無理なく活動することができた。
- ・飯山線の最寄り駅までマイクロバスで行くことができたので、寺町巡りでは、疲労や熱中症の危険を低減することができた。
- ・地元の方が産業の特色などを話してくださった。飯山の現状についての生の声が聞けたことで、より身近に感じることができた。

<課題>

- ・寺町巡りやブナ林の移動距離が長く、宿の方が高齢であるため持続可能な方法にする必要がある。
- ・課題別学習の時間が内容によって違いがあるため、内容を精査する必要がある。
- ・熱中症対策のための持ち物を増やす必要がある。
- ・人数の増減に対する宿との連携を行う必要がある。

<改善策・検討が必要なこと>

- ・課題別学習では宿ごとに何をするか、より綿密な打ち合わせを行う。今後、カヌー体験や飯山線乗車をなどの体験活動の充実ができるか検討する。
- ・宿の方の高齢化、児童増に対応するための実施場所の変更も検討する。

関前南小学校

長野県飯山市

9月25日～9月30日(5泊6日)

参加人数 男子24名 女子31名
計55名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験活動や現地の人々の話を通して飯山市の自然の特色を知り、自然への愛着や自然からの恵みについて学ぶことができる。
- ・飯山市の自然の特色を生かした取り組みを知り、自然とのつながりについて考えることで生命を尊重しようとするすることができる。
- ・飯山市の様々なテーマ（自然・暮らし・農業・観光・伝統）について学習課題を設定し、体験活動や現地の人々の話から情報を集め、整理してまとめることができる。
- ・体験活動や現地の人々の話から学習したことをまとめ、振り返ることができる。
- ・飯山市について学んだことを、武蔵野市の自然・暮らし・農業・観光・伝統と比較して魅力を発信したり、課題を提示したりすることができる。
- ・友達と協働的に取り組み、互いの考えやよさを認め合いながら多様性を尊重しようとする態度を養うことができる。
- ・宿でお世話になる方に感謝の思いをもち、他者とよりよく関わろうとすることができる。

○日程表

9月25日（水）		9月26日（木）		9月27日（金）		9月28日（土）	
7:15	学校集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:25	学校出発	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
12:15	戸狩到着	8:30	お米作りの話	9:00	飯山市の学習	8:30	周辺散策
12:30	昼食		稲刈・脱穀体験	11:10	手すき和紙体験	10:00	野外炊飯
13:00	開校式	11:45	昼食	12:00	昼食	11:30	昼食・交代式
13:45	避難訓練	14:00	金崎さんちお米見学	14:00	茶屋池ハイキング	13:30	感謝の会リハーサル
15:00	箸作り	16:00	健康観察・火起こし	16:15	洗濯	15:00	わら細工体験
16:00	語らいと周辺散策	17:00	入浴	17:00	炊飯練習	17:15	健康観察・入浴
17:00	健康観察・入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	19:00	感謝の会準備	19:00	健康観察・入浴	19:15	感謝の会準備
21:15	消灯	21:15	消灯	21:15	消灯	21:15	消灯

9月29日（日）		9月30日（日）	
6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
7:15	朝食	7:15	朝食
8:30	カヌー体験	8:00	荷物整理
10:30	周辺散策	8:15	清掃活動
12:00	昼食	9:15	閉校式
13:30	宿別農作業体験	10:00	戸狩出発
16:00	健康観察・入浴	11:30	昼食（横川SA）
17:00	夕食	14:45	学校到着
19:00	感謝の会	14:55	帰校式
20:00	荷造り	15:10	解散
21:15	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科では、お米の生産、流通、販売の一連の流れを学習し、稲作に携わる人々の工夫や努力を学習した。
- ・総合的な学習の時間での、飯山市についての学習では、「自然」「くらし」「農業」「観光」「伝統」の観点別に本やインターネットで調べ学習を行った。その後、課題を設定し、セカンドスクールの活動を通して問題解決をすることができるように見通しをもった。
- ・学級活動の時間では、セカンドスクールを通して目指したい自分の姿を考えた。目指す自分の姿を実現することができるよう、自分のめあてを設定し、セカンドスクールの意義付けをした。

2 事後の学習内容

- ・国語科で、セカンドスクールでの体験を作文にし、学習したことや今後に生かしていきたいことをまとめた。
- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクールの活動内容や現地の様子などを、4年生に向けて発表し、4年生がセカンドスクールへの興味と学習の見通しをもてるようにした。
- ・総合的な学習の時間で、飯山市の「自然」「くらし」「農業」「観光」「伝統」の観点で学習したことを踏まえ、武蔵野市も同じ観点で調べ学習をした。その後、飯山市と武蔵野市を比較しながら、武蔵野市のよさや魅力について発信することで社会参画をした。（武蔵野市民科）

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 茶屋池ハイキング

社会科の学習やプレセカンドスクールでの丸太切り体験を通して、児童が森林の働きや重要性について学習したことを踏まえて設定した。

ハイキングでは、ブナ林のある茶屋池の周辺を歩き、植物や生き物の説明を詳しく聞いた。

茶屋池周辺のブナ林は、飯山市の農業の特色である米作りをする上で重要な役割を担っている

ということを学んだ。ハイキングを通して、自然から恵みをいただいているということに気づき、これらの自然を保全していく必要性について考えることができた。また、ハイキングを通して植物や生き物に触れる中で、生命の美しさや偉大さも体感することができた。



【自然体験】

2 北竜湖カヌー体験

自然体験学習の一つとして、米作りの農業用水として使用されていることでも有名な北竜湖で、カヌー体験を実施した。宿の方から、パドルの取り扱い方や万一落ちてしまったときの助けの求め方を事前に学んだ。飯山市の自然の雄大さを実感しながら、体験することができた。

また、2人1組のため、前後で積極的に声掛けをしながらコミュニケーションを図ることができた。



【カヌー体験】

＜社会体験活動＞

1 稲刈り、脱穀体験

稲刈り体験、脱穀体験を行った。宿の方から、稲について様々な知識を教えていただいた。その後、鎌を使った稲刈りを行った。刈り取った稲を紐でしっかりとまとめ、千歯扱きや足踏み脱穀機を使用して、脱穀作業を行った。実際に自分たちの手で収穫作業をすることで、社会科で学習した手作業での収穫の大変さを感じることができた。その後、コンバインでの収穫の様子を見学した。収穫のスピードの速さに驚き、機械作業の効率の良さに気付くことができた。



【稲刈り体験】



【脱穀体験】

2 農作物の収穫体験

各宿での体験活動では、農作物の収穫や郷土料理作りを体験させていただいた。さつまいもを収穫し、収穫の嬉しさとありがたさを実感することができた。収穫をしながら、宿の方々に農作業の工程や難しさについても教わった。自分たちが日頃から食べているものがどのように育てられているかを知ることができた。郷土料理作りでは「やしょうま」を作り、飯山市の郷土料理に触れることができた。



【収穫体験】

<生活・文化体験活動>

1 わら細工体験

各宿でわら細工体験を実施した。稲刈り体験をしたときの藁を使用して、束ねたり、編み込んだりして亀を作った。お米ではない藁がこのような使われることに驚きを感じると同時に、先人の知恵を学んだ。また、苦労しながら完成させた亀を見て、喜びと達成感を味わうことができた。



【わら細工体験】

2 手すき和紙体験

飯山市の伝統工芸品である「内山紙」について、伝統産業会館で和紙の製作工程や材料について学び、手すき和紙体験工房では、はがきサイズの自分だけの和紙を作った。和紙作りの工程を知ると共に、多くの手間がかかることを学ぶことができた。



【手すき和紙体験】

○児童の感想

- ・社会科の学習でコンバインを習ったが、実際に体験できてとても感動した。やはり教科書や資料集で見るとよりも、実際に体験した方が、印象に残る。
- ・セカンドスクールに行く前は、ダラダラした生活を送っていたが、約1週間、自分のことは自分でしないといけないという気持ちになり、家に帰ってからも意識して、自分のことは自分でやっている。

- ・行く前は、宿の方とコミュニケーションを図ることができるか心配だったけれど、お父さん・お母さんがとても優しく、たくさん話すことで良かった。
- ・カレー作りやカヌー体験を通して、友達と協力することの大切さを知った。これからも、クラスの友達と協力して、楽しい学校生活を送っていきたい。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・事前学習（学校）⇒現地での体験学習（飯山市）⇒事後学習（学校）という流れを通して、課題解決型学習をより一層意識しながら学びに向かう児童の姿が見られた。
- ・大人の力を借りず、自分たちで考えたり、協力したりすることで諸問題を解決したり、見通しをもって行動したりすることができるということを学んでいた。これらのことを経験し、物事に主体的に取り組む態度を醸成することができた。
- ・体験的な活動や現地の方々からのお話をいただいた経験から、目の前の事象への表面的な見方だけでなく、物事を多面的・多角的に考えることの大切さに気付くことができた。
- ・生活指導員、友達や宿の方と積極的にコミュニケーションを図ったことで、学校の中でも、友達と協力して活動に取り組むことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・セカンドスクールでは、いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図るように指導した。セカンドスクール実施前と後で行ったアンケートによる評価では、『誰にでも話しかけることができる』の項目で「全くできない」が 1.9%から 0%になり、『人のために何かしてあげるのが好きだ』の項目が約 6 パーセント向上した。積極的にコミュニケーションを図ることを意識させ行動したことで、他者と関わろうとする児童が増え、人のために行動したいという気持ちも同時に育むことができた。
- ・多様な体験活動を通して、セカンドスクールのねらいに到達することができた。
- ・『自分のことが好きである』の項目では、事前アンケートでは 71.1%が肯定的であったが、事後アンケートでは 52.7%まで下がってしまった。次年度以降は、セカンドスクール中に「自分でできた」「がんばったらできた」体験を十分に行い、自己肯定感を高められるようにする。

桜野小学校

長野県飯山市

9月13日～9月18日(5泊6日)

参加人数 男子77名 女子80名
計157名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・生活上の自立に必要な知識・技能を身に付けること。
- ・飯山市と武蔵野市を比べて違いに気付くこと。
- ・米作りの努力や工夫について知ること。
- ・自ら課題を設定すること。
- ・学習の場を移し体験を通して課題に対する情報を集め、整理・分析してまとめる力を育むこと。
- ・児童相互の協力や、児童と現地の方々、指導者、教師との信頼関係と人間関係を深めること。
- ・探究的な学習に取り組もうとすること。

○日程表

9月13日(金)		9月14日(土)		9月15日(日) 1～5班		9月15日(日) 6～10班	
7:40	学校集合 出発式	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
8:00	出発	9:00	米作りについての話	9:00	伝統産業会館見学	8:30	手紙書き
13:00	戸狩到着 開校式	10:00	稲刈り		雁木通り見学	9:00	宿ごと食体験
13:20	昼食	12:00	昼食		和紙すき体験	12:00	昼食
14:00	里山散策	13:30	脱穀		ふるさと館見学	13:30	伝統産業会館見学
15:00	箸づくり体験	16:00	入浴	12:30	昼食		雁木通り見学
18:00	夕食 入浴	18:00	夕食	13:30	手紙書き		和紙すき体験
		19:00	語らいの時間	14:00	宿ごと食体験		ふるさと館見学
		20:00	お祭り・花火見学	18:00	夕食 入浴	18:00	夕食 入浴
		21:30	就寝	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間
				21:30	就寝	21:30	就寝
9月16日(月) 1～5班		9月16日(月) 6～10班		9月17日(火)		9月18日(水)	
6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食	6:00	起床 朝食
9:00	茶屋池ハイキング	9:00	わら細工	9:00	笹寿司作り体験	8:00	大掃除 荷物整理
12:30	昼食	12:30	昼食	12:00	昼食	9:30	閉校式
14:00	わら細工体験	14:00	茶屋池ハイキング	13:30	宿ごと自然体験	9:50	戸狩出発
17:30	夕食(バーベキュー)	17:30	夕食(バーベキュー)	18:00	夕食	12:00	昼食(横川SA)
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	感謝の会	15:30	学校着 帰校式
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	20:00	入浴	16:00	解散
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。バケツを使った田植えを行い、稲穂が実るまでの様子を学校や家で継続して観察した。
- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう・関わろう・発信しよう セカンドスクール」のオリエンテーションでは、児童がこれまで学習してきた単元の1学期社会科「低い土地の暮らし」、「高い土地の暮らし」、「国土の気候の特色」、「寒い土地の暮らし」、「米づくりのさかんな地域」、4年生社会科の学習との関連を図り、個人の探究課題を設定した。武蔵野市と比較しながら飯山について調べ学習を進めていくうちに、現地の方に飯山のことを教えてもらうだけでなく、自分たちの住む武蔵野市の良いところを伝えるとより交流できると考えた児童がいた。そのため、語らいの時間で武蔵野市紹介ができるように、ポスターや紙芝居も作ることにした。

2 事後の学習内容

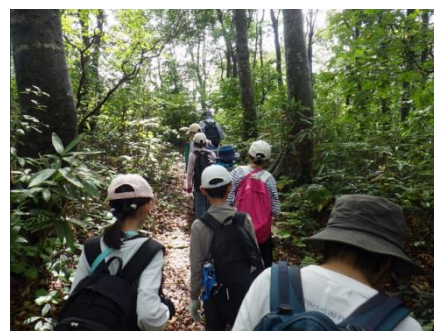
- ・設定した課題についてセカンドスクール中の記録や見学した際にいただいた資料などを活用して、スライドにまとめた。体験活動の紹介や感想を付箋に貼ってまとめたセカンドマップを作成し、廊下に掲示した。さらに、セカンドスクール事後学習実行委員を立て、4年生に向けてもセカンドスクールマップを作成し4年生の廊下に掲示した。セカンドスクールで体験した活動、探究課題のまとめについて10月の学校公開で4年生や保護者に発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ブナの森ハイキング(茶屋池ハイキング)(4日目)

ハイキングでは、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、ブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて学ぶことができた。2日目の「米作りについての話」の中で、米作りの作業に関してだけでなく、稲の一年間の成長という観点でもご講義いただいたことで、「なぜ飯山の米がおいしいのか。」ということについて、2日目の話と関連して、ブナの森が蓄えた豊富な水が大きな役割を果たしているということを知ることができた。また、宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、様々な疑問がその場で解決されていった。



【ブナの森ハイキングの様子】

<社会体験活動>

1 農業体験(稲刈り・脱穀)(2日目)

作業の前に田植えから収穫までの農作業、飯山市の地形的特徴、水が重要であることについて宿の方に話していただき、米や稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。実際に田んぼ

へ向かうとその広さに児童は驚いている様子だった。宿の方々の指導で、稲刈り・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や刈った稲のまとめ方を習った。児童は習ったことを生かし、勢いよく手前に引くように刈っていた。実際に体験したことや、当日の暑さも相まって稲刈りが想像以上の重労働であることを実感していた。

脱穀では、千歯扱・足踏式脱穀機の農具を体験した。足踏式脱穀機は足を踏むタイミングが上手くいかないと機械の回転が止まったり、逆回転になったりしてしまう。足で踏みながら、手で稲を丁度良い位置に合わせるといった複雑さを味わい、楽しんでいた。

農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものである。宿の方との語らいの時間では、脱穀後の精米や保管、出荷するまでの流れについて話していただいた。一日を通して稲刈り・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えることができた。この日をさかいに、お米のおいしさを再度実感するとともに、ご飯を残さず食べようと意識が変わった児童が多かった。

また、4日目に行うわら細工では、もみを落とされたわらを再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について学ぶことができた。



【稲刈りの様子】

<生活・文化体験活動>

1 笹寿司作り体験(5日目)

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、木々を分け入って笹を採りに行くところから始めた宿もあった。達成感もあり、おいしそうに食べている様子がみられた。



【笹寿司作りの様子】

2 宿ごと食体験(3日目)

宿ごとの食体験では、ジャム作り、よもぎ団子作り、ピザ作りが行われた。ジャム作りではりんごや苺を細かく切り、鍋で煮詰めてパンや手作りパンケーキにつけて食べた。ピザ作りでは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として作った。どの宿も武蔵野市では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

3 和紙すき体験(3日目)

国が定める伝統的工芸品が長野県に9つあり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の2つがある。内山紙は冬の寒さを生かして作成した和紙である。飯山和紙すき体験工房では、和紙すき体験を行った。

和紙すき体験の前に、和紙の作り方や歴史についての説明を受けた。原料となる楮が紙に変化していくことに驚く児童もいた。和紙すき体験では、液の中で繊維が均等に入るように上下

左右に木杵を揺らしながらすき、葉書サイズの和紙を作った。木杵を上手に持たないと繊維の入った液がこぼれてしまう。児童は工房の方の指示に従って慎重に作業をしていた。自分の好きな色紙の飾りや1日目の里山散策で採ってきた花をのせ、アレンジした。すいたものは工房の方に処理していただき、お土産として自分オリジナルの和紙を持ち帰ることができた。

○児童の感想

- ・野菜の収穫体験では、普段スーパーでは見ないような形のさつまいもを収穫しました。こんなに大小のばらつきがあることを初めて知ったし、自分たちで収穫した野菜はとてもおいしかったです。
- ・長野県に行く前に社会で雪国の暮らしについて学びました。現地に行ってみると積もった雪を溶かす「溜め池」があることを知りました。他にもブナの森と飯山の豊富できれいな水との関係など、初めて知ることがたくさんありました。
- ・私は班長を務めました。宿の皆を整列させたり、人数確認をしたりするのはとても大変でした。だんだん上手にみんなをまとめることができるようになり、自分の成長を感じました。
- ・宿で友達と遊んだことが心に残っています。僕はいつも遊ぶ友達が同じことが多く、学級の仲でもあまり遊ばない友達が多かったのですが、セカンドスクールでは普段あまり関わらない友達とも遊ぶことができ、好きな物や性格などをよく知ることができました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

「子どもたちの豊かな情操や感性への働きかけについて」

武蔵野市とは大きく違う飯山市の様子に、色々なところで「なんで?」「どうして?」と子どもたちの知的好奇心が騒いだ。宿の方との交流や施設の見学などを通してその知的好奇心を満たすことで、学ぶことは楽しいことだと感じられるようになった。暗闇の中で星空を鑑賞したり、真上で上がる大きな花火を見たりすることで、「綺麗」「美しい」と感じ、思うことのできる心を養うこともできた。実施後に国語科で行った俳句作りでは美しいものや綺麗なものによって心が動かされて育った感性や想像力が存分に生かされていると感じた。

「知的好奇心や探究心の喚起、課題解決への意欲や態度について」

児童は自分で米や野菜を収穫する体験を通して、生産者の苦労や思いを知ったことから、食に関する意識の高まりが感じられる。農業のこれからについて、宿のお父さんやお母さんから聞いた話と関連付けて考えを深めていたようである。一人一人設定した学習課題を自分で解決しようとする姿が見られ、実感を伴う学習活動の重要性を感じた。今後の学習でも、体験活動を取り入れたり、インタビューなどで当事者の話から学んだりして、児童自ら探究し、課題解決ができるように工夫する。

「生活自立に必要な知識や技能について」

身の回りの整理整頓を始め、家族や教師を頼りがちだった児童も、家族と離れて生活し、宿の方々や友達にお世話になることで、自分のことは自分でできる限りやっという姿勢が見えた。また、様々な人の力を借りて生活できていることに気づき、感謝の気持ちを持ち、

相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

「豊かな人間関係について」「他者とのかかわる力について」

セカンドスクールを通して人と関わり合うことの大切さを学ぶことで、協力しようとしたり、助けようとしたりする姿が多く見られるようになった。3日目に行った手紙書きでは、自分の家族へ宛てて書く児童が多く、手紙の内容を見ると、家族と離れて生活したことでその大切さやありがたみを実感することができたようである。また、普段あまり関わらないような友達とも交流でき、友達の新たな一面を知ることによってセカンドスクールから帰ってきてからの人間関係にも変化や深まりが見られた。

「自主性や協調性について」

自分の役割を果たすためにはどう動けばよいか、よりよい宿泊生活にするために協力できることは何かと常に考えながら行動できたセカンドスクールだった。実施後、今度は学級や学校のためにできることは何かと考えながら生活できる児童が増えた。その後の運動会や音楽会などの大きな行事でも学びが生かされていくと考えられる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

○5泊6日の長期間の宿泊学習の間、発生したトラブルを解決したり、学校生活では見えない友達の新たな一面に気付いたりすることで、児童同士の関係性が深まった。

○指示を待つのではなく、自分たちで考え、声を掛け合って行動できるようになった。

○稲刈り、脱穀、ブナの森ハイキング等、事前学習で学んだことを実際に見たり経験したりすることで、実感の伴った生きた知識として習得できた。

△ブナの森ハイキングに行く際に使用しているマイクロバスだが、宿元の高齢化もあり来年度は運転するのは厳しい状況である。運転手を別の方法で手配するなどの対策が必要である。

△稲刈り・脱穀は暑さが厳しく児童の体調面が心配であった。保冷剤を事前に大量に用意する、濡れタオルを首に巻くなどして熱中症対策を行いながら活動を行った。水筒の水がなくなってしまった児童もいて急遽ジャグを大量に用意してもらった。来年度も今年と同じく地元の祭りの実施日と重なってしまった場合、休憩所となる神社が使えないので、コンバインをレンタルして稲刈りの活動を短縮する、稲についての講話を脱穀後に回すなど対応が必要である。

【「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の傾向分析】

子どもたちの「生きる力」を測るアンケート調査では、「生きる力」「心理的・社会的能力」「道徳能力」の観点でポイントが向上した。学校での事前学習を生かして、現地で学びを実践できたからだ考える。親元を離れて友達と協力して生活する経験を通して、自分一人でもできることがたくさんあることに気付いたり、友達の良さに気付いたりしたことが子どもたちの成長の実感につながったと考えられる。

中学校セカンドスクール



第一中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月17日～9月21日(4泊5日)

参加人数 男子56名 女子37名
計93名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・教科の枠にとらわれず、自然体験的な活動や自然のふれあいを通して、自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を身につける。
- ・長野や白馬の自然に触れるとともに環境保全への取り組みを聞くことで人と自然が持続的に共生する大切さを理解する。
- ・問題解決的な学習や体験学習活動を通じて、自ら考え、主体的に学ぶ意欲を高めると共にセカンドスクールの体験を通して学んだ問題解決的な学習や主体的な学びを、ファーストスクールの学習に生かす。
- ・1998年に冬季オリンピック・パラリンピック大会を開催した長野県白馬地区から、有形無形のオリンピックレガシーがどのように継承されているかを知り、東京オリンピック・パラリンピックを現地で経験した自分たちと比較しながら、暮らしや生き方にどう役立てていけるかを考え、これからの生活に生かす姿勢を身につける。
- ・寝食を共にすることでこれまで以上に学年・学級の親睦を深める。また、共同生活から集団の一員としての行動を学び、自主自律の精神を身に付けさせる。
- ・現地や民宿の方々との交流を通して自分と異なる考え方や感性に触れ、多様な考えを受容し将来に必要な社会性を身に付ける。

○日程表

9月17日(火)		9月18日(水)		9月19日(木)	
7:20	一中集合、出発式	6:00	起床、健康チェック	6:00	起床、健康チェック
7:35	学校出発	6:45	朝食、出発準備	6:45	朝食、退館式、出発準備
12:50	白馬ジャンプ競技場	8:00	ホテル出発	8:00	ホテル五龍館出発
15:15	白馬ジャンプ競技場到着 昼食、見学	9:00	扇沢駅到着、黒部ダム駅出発	8:15	八方尾根トレッキング開始
15:30	E Xアドベンチャー到着	9:46	黒部ダム駅到着 黒部ダム見学、昼食	12:45	昼食(兎平レストハウスにて)
17:30	E Xアドベンチャー出発	14:10	扇沢駅出発	14:00	兎平駅出発
17:45	ホテル五龍館到着、入館式	14:45	国営アルプスあづみの公園到着	15:00	白馬村到着、入村式
18:30	夕食	16:45	国営アルプスあづみの公園出発		各民宿到着、オリエンテーション
21:00	班長室長会議・班会議	17:25	ホテル五龍館到着	18:00	夕食・入浴
22:00	就寝	18:00	夕食	19:00	もの作り体験(各宿にて)
		21:00	班長室長会議・班会議	21:00	民宿班会議
		22:00	就寝	22:00	就寝

9月20日（金）		9月21日（土）	
6:00	起床、健康チェック、朝食	6:00	起床、健康チェック、朝食
8:30	各民宿出発		身支度、各宿出発
9:00	圃場集合 稲刈り体験	8:45	エスカルプラザ到着
12:00	昼食	9:00	オリパラ学習
	郷土料理作り体験（各宿ごと）	9:30	SDGs学習・スキー場見学等
	農作業体験（各宿ごと）	11:00	退村式
17:30	夕食	11:30	昼食
19:00	学習発表会	12:10	白馬村出発
20:30	入浴	16:45	一中到着、解散
21:00	民宿班会議		
22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・J A大北の担当者による講演を通し、白馬村の自然や観光、農作業についての特徴や現在課題となっていること、長野オリンピック・パラリンピックについて学習した。
- ・長野五輪や黒部ダム、白馬村の自然や環境、民宿文化と産業といった学習のテーマを選択し、インターネット等を用いて個人新聞を作成した。作成した新聞を掲示し、意見交換を行った。
- ・お世話になる民宿へ送る自己紹介カードを作成した。

2 事後の学習内容

- ・お世話になった民宿へ、お礼の手紙を書いた。
- ・事前学習で担当したテーマをもとに、実際に体験や見学を通して学習したことを行動班ごとにまとめ、発表を行った。学年発表会では現地の宿舎の方々、J A大北の方々とオンラインでつなぎ、白馬村との交流をより深めた。
- ・キャリアパスポートを活用し、セカンドスクールでの学習や自己の成長についてまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方尾根トレッキング

八方尾根トレッキングでは、高山植物や白馬山の生態系について学習した。天気の移り変わりの早さを実感し、自然の良さや大切さを学んだ。雨と霧のため黒菱平までの移動と、山岳ガイドの講話を聴くにとどまった。

2 森林体験（間伐・森林保持）

森林体験では、国営あづみの公園で森林保全や間伐の重要性について学んだ。また、間伐の実習や丸太切りを行い、安曇野の自然について学ぶことができた。

3 稲刈り体験

手刈り、バインダーを使った作業及びコンバインを使った作業の3つの稲刈りの方法を体験した。田植えをしてから稲が育つまでの行程や条件についての説明、実際の収穫作業の体験を通して、自然と共生する生活の知識や工夫を学んだ。また、お米が農家の方々の手を通して私たちの食事につながっていることを実感し改めてお米のおいしさ、農業の大切さを実感することができた。



【稲刈り体験(コンバイン)の様子】

4 農作業体験

各民宿に分かれ、さつまいも等の野菜の収穫を行った。その後、実際に収穫した野菜を使った料理をいただくことで、農産物のおいしさを改めて実感できた。また、農業に携わる中での喜びや苦労について学ぶことができた。

＜社会体験活動＞

1 協働学習(チームビルディング)

協働学習では、各学級16名ずつのグループを作り、講師が設定する各アクティビティについて、生徒同士が対話活動を通して課題解決する姿が多く見られた。これらの活動を通して課題解決能力、他者との協調性を育むことができた。

2 黒部ダム見学

事前に学習した黒部ダムで実際に見る放水の圧倒的な迫力や、破碎帯からの湧き水の冷たさ、ダムから見える自然の景色に感動する生徒の姿が多く見られた。また、黒部ダムの歴史や建設の背景について深く知ることによって、先人たちの大事業の偉大さに心を打たれる生徒の様子が見られた。



【黒部ダム見学の様子】

3 オリンピック・パラリンピック学習

長野冬季オリンピック会場となった白馬ジャンプ競技場では、当時のオリンピックの様子や取り組みについての講義を聴き、オリンピック・パラリンピックの意義について学んだ。

最終日に現役スキージャンプ競技者の栗田さんによるスキージャンプ競技についての説明や、アスリート目線での競技への向き合い方についての講義を聴いた。

＜生活・文化体験活動＞

1 郷土料理体験

民宿ごとに様々な郷土料理体験に取り組んだ。おやき、そばクレープ、そば打ちなどの地元食材を利用した郷土料理を作り、実際に自分たちで食べることで作る喜びを感じたようである。

2 もの作り体験

わら細工、飾りパン、フォトスタンド、マイ箸、森の鉛筆、ボタニカルキャンドル作りなど宿舎ごとに体験を行った。学校で行うもの作りと異なり、自然の中で自ら得たものを材料に、地域の伝統的なものづくりをする経験を通し、現地の文化への理解を深めた。

○生徒の感想

- ・農家の方の過酷さを知ると同時にお米をたくさん食べられる今の環境に感謝したいと思いました。
- ・おやきづくりでは、皆で協力して美味しいおやつを作ることができました。
- ・民宿ごとのバーベキューでは、普段あまり話さないような話をしたりしてとても美味しく楽しくできた。
- ・黒部ダムに到着したときの展望台からの景色がとても最高に綺麗で感動しました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

生徒がセカンドスクールに向けて掲げたスローガンは「規律を守るセカンドスクール」ということだった。中学生になり半年が過ぎ中学生活に慣れてきたこの時期に、4泊5日を仲間と共に過ごすことで、他人との付き合い方を学び、学年の仲間と絆を深めることができた。

セカンドスクールを通して、規律を重んじ、自主的に行動するよう指導をしてきた結果、今回のセカンドスクールの中でそのような行動も見られた。今後の学校生活でも生徒に意識させる指導を継続していく。

八方尾根トレッキングでは、雨天のため中腹の登山となったが、森林体験や民宿など様々な場面で雄大な自然と触れ合うことで、武蔵野市と違う素晴らしさを感じると同時に自分たちの住む武蔵野市と比較して考えようとする生徒がいた。事後学習での発表会でも、体験した内容や現地で感じたことを発表することができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果、「人間関係形成、社会参画、自己実現」の数値が事前から事後にかけて向上した。今年度設定したねらいの1つである「人間関係形成」の体験活動時間を取り入れたことで得られた結果である。

令和3年3月に武蔵野市長期宿泊体験活動検討委員会にて、セカンドスクールの目指す主な資質・能力として、自然を愛する心や課題解決能力などが示されており、これをもとに、「ねらい」を設定し、体験する場所、体験する内容の選定を行う必要がある。

第二中学校

新潟県十日町市松之山

9月4日～9月7日(3泊4日)

参加人数 男子74名 女子54名
計128名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・新潟県や十日町市の文化や歴史・地理・自然などの学習を通して農村地帯の知識を深める。
- ・農村体験やハイキングなどの体験を通して自然と共生する生活の工夫や知識を身に付ける。
- ・武蔵野市との共通点・相違点に気づき、地域の活性化に参画しようとする態度を育成する。
- ・学習者用コンピュータを活用して事前・事後学習に生かし、発表を通して、思考力・判断力・表現力を養うとともに、自分で考えて行動できる力を育てる。
- ・セカンドスクールを通して、人との出会いを大切にするとともに、感謝の気持ちを相手に伝える態度を身に付ける。

○日程表

9月4日(水)		9月5日(木)		9月6日(金)	
7:00	学校集合、健康チェック	6:30	起床	6:30	起床・朝食
7:20	出発		荷物運び出し		
8:50	三芳SA(トイレ休憩)	7:45	朝食		各民泊家庭で体験活動
9:40	赤城高原SA(トイレ休憩)	8:50	民泊地域別に整列		
10:40	塩沢石内SA(トイレ休憩)	9:00	出発	12:00	昼食
12:00	松代道の駅(昼食)	9:30	各民泊地域集合		
13:30	キュービッドバレイ到着	10:00	対面式		各民泊家庭で体験活動
14:00	開校式、体験学習		各民泊家庭で体験活動		
18:00	夕食				
19:30	室長会、入浴	18:00	夕食・入浴	18:00	夕食・入浴
21:30	就寝準備、1日の振り返り	21:20	1日の振り返り	21:20	1日の振り返り
22:00	就寝、消灯	22:00	就寝	22:00	就寝
9月7日(土)					
6:30	起床・朝食				
8:20	各受け入れ家庭から出発				
9:45	クロスステン到着				
10:30	閉校式				
10:40	クロスステン出発				
12:00	赤城高原SA 昼食				
14:00	高坂SA(トイレ休憩)				
15:00	学校着、解散				

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間にて、新潟県の気候、風土、動植物、行事などについて学習者用コンピュータや図書などを用いて調べ、内容を整理した。
- ・学年全体の事前指導を通して、集団で行動する際の心構えを生徒同士で考えた。
- ・道徳科の授業で、現地の人との出会いや集団行動を通して育まれる温かい信頼関係の大切さを学んだ。

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクール中に感じた武蔵野市との違いを追究し、班でまとめ発表した。
- ・道徳科の授業で、勤労の尊さとその意義を振り返り、勤労を通じた社会貢献の大切さを考えた。
- ・セカンドスクールの体験を学校でのよりよい集団生活に繋げるために、その方策を学級活動で考えた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 火焚き体験

現地のインストラクターの指導のもと、火おこしを一から体験した。力仕事に思われる薪割りも、誰でも簡単に取り組むことができる工夫がなされた道具に触れることができた。種火を作ることは難しく、各自何度も挑戦する必要があったが、無事全員着火させることができた。普段何気なく使っている火であるが、文明の発達の中で欠かせないエネルギーとして人類とともに歩んできた。その火を手に入れることは想像より簡単ではないことを、生徒は身をもって体験することができた。



【薪割り】

2 雪室見学

冬に積もった大量の雪を夏場でも溶けきることなく保存し、その「冷熱」をエネルギーとして活用する雪国ならではの施設が雪室である。ただの大きな冷蔵庫とは違い、冷気を発することに全く他のエネルギーを使用せず、ある程度の湿度をもった冷気を供給することができる。宿泊したキューピッドバレイ内の冷房機能は、隣接する雪室からまかなっているという。生徒は都内では感じたことのない冷気に触れながら、環境に配慮した持続可能なエネルギーの理解を深めることができた。



【雪室での灯篭作り】

＜社会体験活動＞

1 農村生活体験

現地のそれぞれの民泊家庭で、地元の方たちの作業を手伝った。稲刈り体験では、普段自分たちが当たり前にかけている米の収穫前の姿に触れ、刈り取る経験をする事ができた。教科書や本でしか見たことのない姿に感嘆し、収穫することの大変さを体感することで、食への感謝の心を改めて育むことができた。



【稲刈り体験】

＜生活・文化体験活動＞

1 雪国の暮らしを学ぶ

豪雪地帯である新潟県の雪の活用方法をSDGsの観点から学んだ。雪室施設「ユキノハコ」は実際に積もった雪を再利用する施設であるが、その施設の完成には新潟県民がこれまでに育んできた雪との付き合い方が大きく関わっているようであった。雪が人の目線より高く降り積もってきた新潟では、武蔵野市では考えられないような生活の工夫が存在した。武蔵野市に暮らす者にとっては、雪は自然災害にもなりえる存在であるが、新潟県民はそれらと共存するために道を切り開き、さらには利用することまで考えた。彼らのたくましさを感じるとともに、雪がもたらす恩恵と課題について深く考えることができた。

2 地場産業を知る

道の駅クロステンに行き、新潟県の地場産業について学んだ。木を利用した工芸品や、豊かな水を生かした食品などから、気候風土や資源、歴史などによって古くから育まれた伝統的なものづくりなどの地場産業に触れることで、伝統的な文化への理解とものづくりの魅力を知ることができた。

○生徒の感想

- ・友だちとの民泊家庭での共同生活を通して、家でわがままを言っていたことがどれだけお母さんに迷惑をかけていたのかに気付くことができました。民泊でお世話になった方たちの自分たちに対する優しさを学ぶこともできました。セカンドスクールで聞いた農家さんのお話や、いろいろな体験を今後の自分の生活の中で生かしていきたいです。
- ・この4日間を通して、東京でできないような体験、生活をして、とても内容の濃い4日間になりました。欲しいと思ったら何でも自然を使って自分で作るという精神に驚かされました。民泊で地元の人と生活し、何もかもが自然と関係していることが分かりました。そこが武蔵野市との大きな違いだと感じます。山道で見つけたカニを地元の人に見せたところ、「からあげにして食べるか」と言っており、いかに自然と一緒に暮らしているのかが実感できました。この4日間を通して、田舎の生活に多くの魅力を感じるようになりました。



【キューピッドバレイ・開校式】

- ・新潟は武蔵野市とは違い自然が豊富でした。普段は出来ない農業体験や釣りなどを楽しめました。作物の植える時期、収穫する時期、魚の値段を学ぶことができました。また、地元の方に新潟の方言や有名な食べ物などを教えてもらい、新潟の文化に触れることができました。同じ日本でも、武蔵野市と上越市では異なるライフスタイルを構成しており、それぞれの良さを感じることができ、また、自然と共存することに対して具体的なイメージが湧き、その可能性を感じることができました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・自分たちが暮らしている武蔵野市の特徴について問われたときに、明確な答えをもっている生徒は少なかった。今回は新潟県を比較対象にすることで、武蔵野市の良さや違いについて深く考えることができる良い機会になった。雪国との違いは目で見て明らかな部分もあるが、その環境の違いから生活様式全般に渡って武蔵野市と異なる点が見受けられた。事後学習を通して、普段目を向けることのなかった自然や家屋の作り、食物の加工方法などに対する関心が高まった。実際に体験し触れることで、豊かな感性が養われることにつながった。
- ・事前学習の段階からSDGsに関連するテーマを個人で選び、その観点に基づいた調べ学習を行った。また、事後学習では、宿泊班で一つの事後学習スライドを作成する際に、SDGsの観点から現地の取り組みについて考える場面を設けた。小・中で学んできたSDGsの視点を活用することができ、持続可能な社会の構築について一層考えることができた。
- ・事後学習で宿泊班が作成したスライドを各学級内で発表し、他の民泊家庭での体験を知ること、違いや新たな発見があった。学級内で生徒同士の評価が高かった班には、学年全体の前で発表する機会を設け、多くの人の前で話をする力を養うことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を行う必要がなく、数年ぶりに全体泊のみで計画を進めることができた。ただ、大型台風の接近に伴い出発を1日遅らせることとなった。当日の台風の動きに合わせて複数の計画を想定し、早期の決断をしたため、大きな混乱もなく行程を始めることができた。

農村生活体験では、それぞれの家庭の特色が出ており、同じ地域内での生活でも現地の多様な体験が出来た。自然や文化に実際に触れる体験や活動とSDGsに関する学習を、セカンドスクールの学習全体を通して学ぶことで、SDGsに対する理解を深め、視野を広げることができた。

また、事後アンケートでは、「生きる力」「心理的・社会的能力」「道徳的能力」「身体的能力」すべての観点で数値が上がった。期間中に各生徒が役割をもって集団のために行動し、集団行動の大切さを知り、自己有用感を高めることができた。今後の学校生活にもその経験を生かせるよう、学年を1つの集団として行動していく精神を養っていきたい。

第三中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月24日～9月28日(4泊5日)

参加人数 男子57名 女子44名
計101名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・特産品である農産物の育成・収穫・調理、工芸品の加工等について調べ、農村体験を通して、産業と技術革新の基盤を考え、地域で生きていくために、自然と共に生きることの大切さに気づき、進んで自然愛護に努める心を育む。
- ・クリーンエネルギーの発電施設である黒部ダムについて調べて、再生可能エネルギーの利点と欠点について考え、持続可能なエネルギー供給の必要性について主体的に考えようとする力を育む。
- ・白馬と吉祥寺の農業や観光業、地域企業のSDGsへの取組、産業の特性等を調べ、地域の魅力や地域が抱える課題に気づき、持続可能な地域活性化のための取組について、主体的に課題解決する力を育む。
- ・オリンピック・パラリンピック・黒部ダム建設の歴史を学び、平和で豊かな社会を実現する姿勢を育む。
- ・集団生活において自己コントロールして、自分の役割を果たしつつ仲間を思いやり協力して生活する態度を育む。
- ・お世話になったスタッフの方への感謝の気持ちを、方法や内容を考えて、礼節をわきまえた態度で表現する。

○日程表

9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)	
7:10	学校集合	6:15	起床・朝食	6:15	起床・朝食・ホテル出発
7:20	出発式・学校出発	9:00	扇沢駅到着・黒部ダム・昼食	8:35	白馬岩岳ロゲイニング
12:30	白馬ジャンプ競技場・昼食	13:51	扇沢駅到着	11:15	農村入村式・昼食
15:30	ウイング21見学	14:40	大町クイズラリー	12:45	稲刈り体験・各宿へ移動
17:15	五龍館到着・夕食	17:30	五龍館到着・夕食	18:00	夕食・街の魅力を知り街の発展を考える時間
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
9月27日(金)		9月28日(土)			
6:15	起床・朝食	6:00	起床・朝食		
8:30	農村生活触れあい体験	9:00	農村退村式・感謝の気持ちを伝える会		
	昼食	10:15	白馬五竜スキー場・昼食		
18:00	夕食	11:45	白馬村出発		
22:00	就寝	17:00	学校到着・閉校式・解散		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・白馬（長野県、信濃大町）と吉祥寺（武蔵野市）を比較する形式で、3～4人のグループで以下のテーマを調べて、スライドを5～6枚作成して、クラス内で発表することを課題とした。

テーマ：①人口密度、年齢、目指す地域像、ゆるキャラ ②郷土料理・人気メニュー ③お土産品と特産品 ④白馬村のふるさと納税の使い道、予算から知る課題と優先政策 ⑤SDGsの取組 ⑥長野オリンピックの恩恵と課題、スポーツ施設、利用状況 ⑦街が発展した理由 ⑧黒部ダム建設の恩恵と犠牲、武蔵野市の鉄道建設の歴史、東京の電気の調達場所 ⑨気温、水質、雪 ⑩就業人口、仕事の種類、特徴

- ・白馬の魅力ポスター、吉祥寺の魅力ポスターを作成した。



【事前学習で調べたことを発表する様子】

2 事後の学習内容

＜学年全体で実施したもの＞

- ・吉祥寺の魅力、白馬の魅力、両者の魅力を生かした発展への道をスライド3枚にまとめて展示した。

- ・信濃大町の様子を、撮った写真とキャッチフレーズでポスターにして展示した。

＜担当を決めて実施したもの＞

- ・農村ふれ合い体験（農作業、食づくり、クラフト）の様子を、民宿ごとに模造紙にまとめて展示した。

- ・自然の豊かさを守る活動・勤労体験学習として、稲刈り体験の様子、稲刈りの道具の歴史、農作業の後継ぎ問題を模造紙にまとめた。道具の模型も展示した。

- ・オリ・パラ学習として、オリンピックの起源、長野オリンピック開催の恩恵と課題を模造紙にまとめた。スキージャンプ競技場の模型、スキージャンプ用の板の実物大模型を製作して展示した。

- ・今ある生活への感謝の気持ちを忘れないために、ダムで飲んだサイダーの瓶を、工事で亡くなった方々に思いを馳せつつ展示した。（注：ハサイダーとは、破碎帯とサイダーを組み合わせた商品名）

- ・環境保全・エネルギー学習として、水力発電の仕組み、水力発電の長所と短所、白馬五竜のSDGsへの取組を模造紙にまとめて展示した。電気自動車の模型を製作して展示した。

- ・最終日に行った民宿の方への感謝の気持ちを表わす会の様子を、模造紙にまとめて展示した。
- ・セカンドスクール5日間の活動を、20分の劇にして、体育館の舞台上で発表した。



【白馬の魅力・吉祥寺の魅力等を展示した様子】



【大町ポスターを展示した様子】



【ハサイダーの瓶を展示した様子】

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 農業体験活動(稲刈りなど)

稲刈り体験では、汗をかきながら、手刈り、バインダー、コンバインによる刈り取りを順番に全員が体験した。カエルやトンボと戯れたり、側溝の冷たいきれいな水に手を浸して涼んだり、遠くの山並みや広々とした田舎の風景を楽しんだりする機会が、この稲刈りではあった。



【稲刈り体験をする様子】

2 岩岳ロゲイニング

ロゲイニングは、班行動で地域に点在するポイント獲得地点を 90 分間で巡り、多く得点したチームが勝ちとなる競技である。ゴンドラで山頂エリアに行くと、雪が残るアルプスが間近に見えて良い景色であった。現地スタッフの方に、「武蔵野三中は全体的にロゲイニングの成績が良いですね。」と言われた。生徒が協力して相談や行動を素早くした結果といえよう。

＜社会体験活動＞

1 オリンピック・パラリンピック学習

長野オリンピック・パラリンピックで使用したスキージャンプのラージヒル・ノーマルヒルのスタート地点に上り、選手が見る景色や高さを体感した。ウイング 21 では、現役選手である栗田力樹選手から、選手としての苦労話や活躍するために必要なことの講演、続いて、ホール技師である佐藤岳志氏から、オリンピック後の施設維持等の難しさについて講演していただいて、考えを新たにした。



【白馬スキージャンプ競技場での様子】

2 黒部ダム見学

各クラスにガイドが帯同し、黒部ダム建設の歴史、エコエネルギー活用の具体的な方法、日本のエネルギー自給率等について学んだ。特に、関電トンネルの実際の採掘場で、採掘の映像を見ることができ、映像だけではなく、寒さや破碎帯の水の冷たさなど、当時の苦労を体感することができた。



【黒部ダムでの様子】

3 大町クイズラリー

大町クイズラリーは、他の街を知り、自分たちの住む吉祥寺を見つめ直すための取組である。知らない街である大町を班行動でクイズを解きながら 80 分間で巡って情報収集し、事後に「大町ポスター」を作成することを課題とした。事後に、行く前とは違う視点で、白馬と吉祥寺を捉えたスライドが多く見られた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ものづくり体験

宿ごとに籐細工、木彫りペンダント、サルナシのつるを使った細工などのものづくり体験を行った。壺、お菓子入れ、鍋敷きなど、それぞれが宿の方の指導のもと、想像力を働かせ、集中して取り組んだ。手仕事を体験する中で、自然豊かな地域での生きる工夫や苦勞を感じるきっかけになった。



【籐細工ができて喜ぶ様子】

2 農村生活ふれあい体験

民宿の方が収穫したそばやお米、ヨモギを使って、そば打ち体験・おはぎ作り・餅つきなどを行い、白馬の食文化について学びを深め、自分たちで作ったものを食べる経験を得た。餅つきでは、声を掛け合い、励ましあい、仲間と共に作り上げる一体感を得ることができた。

○生徒の感想

- ・白馬の良さと吉祥寺の良さを比べることができた。知るだけでなく、実際に体験したから感じられることがたくさんあった。また、自分でできるSDGsをがんばっていきたい。
- ・白馬に行ってみると、自然が豊かで、水道水が雪解け水だからおいしいなどの特徴があり、吉祥寺との違いや、吉祥寺から離れたからこそ分かる吉祥寺の特徴があることに気づいた。
- ・4泊5日仲間と一緒に生活する中で、自分の仕事をしっかりこなすこと、力を合わせる事が重要となってくる。たくさんの人の協力で、このセカンドスクールは、実現している。感謝や礼儀を忘れないようにしたい。また、友達との仲を深めることもできた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

白馬や吉祥寺の魅力を考えたり、大町という知らない街をクイズラリーで情報を集めてポスターにしたりしたのは、街を見る目を養うためである。地元吉祥寺の特徴を深く理解して、さらに発展させることにつながると考える。また、各種活動で協調性を身に付けることができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

生きる力を測る事前・事後アンケートの結果からは、学習に重きを置いた宿泊行事に戸惑いがあったものの、事後学習として展示発表と舞台発表をしたことで、学習してきたことの素晴らしさや価値に生徒が気付いたことが読み取れる。また課題とした「街の魅力を考える」では、生徒は真剣に取り組んでいたことから、次年度もこうしたテーマを徹底することが必要だと考える。

第四中学校

群馬県みなかみ町

9月24日～9月28日(4泊5日)

参加人数 男子72名 女子78名
計150名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や農業に関する体験活動を通して、自然との共生や畏敬の念を育む。
- ・自然・環境問題に関心を持ち未来の自然との共存についての考えを深める。
- ・ファーストスクールで学んだ基礎的・基本的な知識や技能を活用し、課題発見能力や問題解決能力を高める。
- ・群馬県の自然環境や生活に関して事前学習で調査し、調査した結果をセカンドスクールの実際の活動で見聞し理解を深める。さらに、みなかみ町の取り組みを武蔵野市でどのように活用できるか考える。
- ・長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自立性を育む。
- ・ハッ場ダム周辺や鎌原地区・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、共存や自他ともに大切にする精神を学び、将来の自分に生かす術を考える。

○日程表

9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)	
8:00	市役所出発	6:00	起床・朝食	6:30	起床・朝食
11:00	ハッ場ダム着 開校式・昼食	7:20	朝食		農家ごとに体験活動
12:00	①ハッ場ダム見学、②丸岩(地域の方の話)、 ③鎌原地区見学、④浅間園見学(学年を 2つに分け、①②と③④を2日間で実施)	8:45	①ハッ場ダム見学、②丸岩(地域の方の話)、 ③鎌原地区見学、④浅間園見学(学年を 2つに分け、①②と③④を2日間で実施)		昼食
16:00	東海大学娯楽高原研修センター着	12:30	昼食		
16:30	入浴・夕食	14:30	各民宿での家業・農業体験		各民宿での家業・農業体験
19:20	星空観察会	18:00	夕食・入浴	18:00	夕食・入浴
21:00	室長会議	21:20	日記記入	21:20	日記記入
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
9月27日(金)		9月28日(土)			
6:30	起床・朝食	6:00	起床・朝食		
11:00	谷川岳～一ノ倉沢ハイキング	8:30	坐山みなかみ発		
13:00	昼食 土合駅見学・土産品購入	9:10	レイクラフティング		
16:00	坐山みなかみ着 入浴・夕食	12:30	昼食		
19:30	学年レクレーション・室長会議・部屋会議	17:00	市役所着		
22:00	就寝		解散式		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・セカンドスクールで育成を目指す資質・能力に関連する目標を生徒各自で考え、生徒間で共有を図った。
- ・群馬県やみなかみ町について生徒が興味や関心がある内容について各自が新聞にまとめ、まとめた内容について班内で発表を行った。また、新聞は四中祭で展示した。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で設定した各自の目標をふまえ、セカンドスクールで生徒が学んだことについてまとめ生徒間で共有を図り四中祭で展示した。
- ・各クラスでハッ場ダム・丸岩（地域の方の話）、鎌原地区、浅間園・農家における体験活動等について新聞を作成し展示した。
- ・セカンドスクールにおける活動内容と経験から得られた内容について実行委員会を中心にしてスライドにまとめ発表した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 谷川岳トレッキング

トレッキング活動では山岳ガイドの方から谷川岳の地形や植生について説明をして頂き谷川岳の特色や樹木の様子、特徴について理解を深めた。また、トレッキング活動から自然の美しさや尊さ学び、自然環境の違いから生じる武蔵野市（都市）と地方（谷川岳）の結びつきや各々の役割について考えた。



【ガイドの方による解説】

2 レイクラフティング

レイクラフティング体験から集団で力をあわせて行動し、活動に挑戦することから集団における協調性を学んだ。また、レイクラフティングに関する技術を学び協力して漕ぐ楽しさを学んだ。

これらの活動から自然との共存について考えを深めることができた。



【レイクラフティングの様子】

3 星空観察

雲が多く星座の観察はできなかったが、都会では経験できない夜空を体験し、武蔵野市とは異なる自然を経験することにより自然との関わりについて各自考えることができた。また、ガイドによる講演を聞き星座について学習することもできた。

＜社会体験活動＞

1 長野原方面散策

ハッ場ダム、丸岩地域の 方
の話、鎌原地区、浅間園につい
てガイドの方から説明を受け
理解を深めた。ハッ場ダムが建
設された経緯について地域の方
から話を伺い、地域の方々と
意見交流を行った。

また、ハッ場ダムの内部や外部
を見学することによりダムの
構造や自然と科学技術との
共存や、都市部におけるハッ場
ダムの重要な役割について考
えることができた。



【婦恋郷土資料館の見学】



【ハッ場ダム内部の見学】



【地域の方との交流】



【浅間園の見学】

鎌原地区では天間 4 年の浅間山の大噴火・泥流の被害を受けた場所について見学を行い自然災害の大きさや自然災害から復興した過程や自然との共存、当時の人々の共助の様子を学ぶことができた。また、ハッ場ダム周辺や鎌原地区・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、共存や自他ともに大切にする精神を学び、将来の自分に生かす術を考えることができた。また、浅間園の見学から浅間山の火山としての特性や特徴ある植生について学ぶことができ自然について理解を深めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 各民宿での家業・農業体験

みなかみ町の各農家に数人ずつ宿泊し地域の活動と連携した体験活動を行った。体験活動の内容としては森林資源の活用として薪割体験、地域の農業生産品である果樹や野菜や栗の収穫や調理、雑草の駆除、動物からの生産活動（動物の世話や卵の回収、動物の捕獲後の処理）や地域の資源を活用した諸活動（竹細工など）を行った。

これらの武蔵野市では体験できない自然体験や経験から、自然との共生について学ぶことができた。また、受け入れ農家の温かみを感じながら人との関わりを深め、武蔵野市との暮らしの違いについて考えることもできた。



【雑草駆除】



【地域資源の活用】



【薪割り体験】



【野菜の収穫】

○生徒の感想

- ・ 民宿では宿の人の優しさや、友達の協力のおかげで、不安がなくなり楽しく過ごすことができた。
- ・ 自分たちで皿洗いやご飯を作り自分のためになることを体験させてもらいました。
- ・ ラフティングは想像以上にきつくて大変だったけれど、友達（チーム）で助け合いました。
- ・ セカンドスクールでは友達と過ごす時間が多く、友情や信頼、絆が深まりました。
- ・ 集団としての団結、理解が一層深まり、クラス全体の仲がとても深まった。
- ・ 自分の想像を越えた群馬県の自然の美しさや素晴らしさを、身をもって感じられた。この五日間で普段東京では味わえないものを味わい、視野を広げ、色々なものを深く学べたと思う。
- ・ 私がこのセカンドスクールで最も感じたのは「自然と協力」です。植物が自身の特徴を活かして生きのびようとする姿、植物同士が共生している姿から自然の素晴らしさと知恵を感じました。
- ・ 周りの人と話し合いや、声を掛け合い協力の大切さを感じました。誰かと協力して何かをしたり、継続的に進めたりすることが苦手でしたがこのセカンドスクールで見た植物のように根気強く、友達と声を掛け合いながら物事に取り組もうと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

- ・ ファーストスクールで学んだ基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら事後学習では各自で課題を設定し、新聞作成やプレゼンテーション作成の活動を通して自身の考えをまとめた。
- ・ 各自の課題から得られた内容を集団で共有することにより集団の知的好奇心や探究心を喚起し、集団としての課題解決への意欲を促すことができた。
- ・ ハッ場ダム周辺や鎌原地区・みなかみ町の幅広い年齢層の人々との交流を通じて、自然との共存の方法や他者とのかかわり方について考える機会を得られた。
- ・ 各民宿での家業・農業体験の活動を通して、集団における自主性や協調性が育成できた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 事業評価における生徒たちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果は「生きる力」「心理的・社会的能力」「道徳的能力・身体的能力」の各項目ともに1～2ポイントの減少がみられた。セカンドスクール開始前には自信をもち事前学習等に取り組んでいたが、実際にセカンドスクールを経験して自身の課題が見つかり、自身の評価は減少したが各自の持つ課題について学校生活を通して解決する姿勢につながったと考えている。
- ・ セカンドスクールの活動から自然や農業に関する体験活動を通して、自然や地域との共生の方法や長期の宿泊体験を通じて、集団生活における協調性や自立性を育むことができた。
- ・ 様々な年齢層との交流を通じて、共存や自他ともに大切にする精神を学び、将来の自分に生き方について考えることができた。
- ・ 集団生活における協調性を育む場面は多かったが、集団における自立性を育む活動が不足していた。生徒が主体的に活動できる場を今後増やしていきたいと考えている。

第五中学校

長野県北安曇郡白馬村

9月9日～9月13日(4泊5日)

参加人数 男子41名 女子41名
計82名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・環境保全意識と自然そのものへの畏敬の心を培う。
- ・オリンピック長野冬季大会の環境対策から、環境保全について理解を深める。
- ・現地の方々との交流体験、自然体験を通じて、課題について情報を収集し、自らの考えをまとめ論理的に表現する力を養う。
- ・良好な人間関係を築き、積極的に他者と関わるとともに、自主自律、協調性、勤労、奉仕の精神を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、自らが住む町や地域の改善を模索する市民性を養う。
- ・現地の方々との交流体験を通じて、食文化についての理解を深める。

○日程表

9月9日(月)		9月10日(火)		9月11日(水)	
7:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:20	「学校」出発	7:15	朝食・退館式	7:00	朝食
11:45	「大町公園」着 昼食	8:45	「ゴンドラ山麓駅」着	9:00	親海湿原環境保全活動(ヨシ刈り)
13:10	八坂中学校との交流		八方池トレッキング	11:00	昼食
13:20	ポスターセッション	14:30	「白馬ジャンプ競技場」見学	13:00	農村ふれあい体験①
17:45	「ホテル五龍館」着	16:00	入村式	18:00	夕食
18:30	夕食・入館式	17:00	民宿生活スタート	19:00	宿の方との交流
19:55	入浴	17:30	夕食	20:00	入浴・健康チェック
21:10	会議(実行委員・係・班・室)	21:00	宿会議	21:30	宿会議
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝
9月12日(木)		9月13日(金)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:00	朝食	7:00	朝食		
8:30	稲刈り体験	7:45	感謝の気持ちを伝える会		
13:20	農村ふれあい体験②	8:15	退村式		
17:30	夕食	9:00	オリパラ講演		
19:00	宿ごとに「オリパラ学習」	10:00	SDGs学習・お土産購入		
20:00	入浴・健康チェック	11:30	昼食		
21:00	宿会議	12:00	「白馬村」発		
22:00	消灯・就寝	16:25	「学校」着		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・実行委員会を立ち上げ、実施要項の検討、スローガン作成、ルール・マナー・持ち物の検討を行った。
- ・セカンドスクールのガイダンス、実施要項の説明や班決めなどは、すべて実行委員が進行し行った。
- ・総合的な学習の時間で、武蔵野市民科の授業として武蔵野市の特色について調べた。現地で発表する班を編成し、例えば武蔵野市の公園に関することなど大町町立八坂中学校での交流学習会で発表するためのポスターの作成と発表原稿作りをした。



【事前学習】

2 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間で、セカンドスクールで学んだことがファーストスクールまたは実生活でどのように生かされているかをスライドにまとめて発表を行った。
- ・白馬で宿泊した民宿の皆様にご来校いただき、セカンドスクールを経て成長した姿を見せるために宿ごとの成果発表会を行った。また、ご来校いただいたお礼に学年合唱を披露した。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八方尾根トレッキング(SDGs 学習)

気温も上がり、途中辛そうな表情もあったが、八方池まで行くことができた。自分の力で最後まで歩き切った生徒はとても清々しい顔をしていた。途中、ガイドの方から登山道にある動植物について様々な説明を受けながら登ることで、自然豊かな環境を保全する意識を高めることができた。

2 親海湿原環境保全活動

親海湿原の環境保全活動「ヨシ刈り」は、五中のセカンドスクールで平成 27 年度から毎年取り組んでいる活動である。

この活動を通して、勤労や奉仕の心を養うことを目指しており、地域の方々はこの活動を喜んでくださっている。



【保全活動】

3 農村ふれあい体験(各民宿)

民宿ごとにプログラムを設定し、作物の収穫などの農作業体験、そば打ちなどの食づくり体験、わら細工などのものづくり体験など、学校の授業では経験できない農村での文化に取り組んだ。体験中、生徒の目は輝いていた。



【農村体験】

4 稲刈り体験

米の収穫の過程と農家の方の仕事について理解を深める体験である。手刈り、バインダー、コンバインといった3つの収穫方法について学んだ。体験場所には、トンボやカエルもいて、豊かな自然も感じることができた。



【稲刈り体験】

＜社会体験活動＞

1 白馬ジャンプ競技場見学

冬季オリンピック長野大会のレガシー遺産である白馬ジャンプ競技場のノーマルヒル、ラージヒルのスタート地点を間近に感じたり、オリンピックギャラリーの見学で長野大会について学習したりした。映像や映画と比較し、感動を肌で感じていた。高所の苦手な生徒も自ら挑戦し、展望台まで行くことができた。

2 オリパラ講演

同じく、冬季オリンピック長野大会で活躍された栗田力樹さんによる講演を聞いた。夢を実現させるために夢中になることの大切さや苦悩などこれからの人生に役立つお話がたくさんあり、学びのある講演だった。サプライズゲストで村男三世が登場し、大いに盛り上がった。

＜生活・文化体験活動＞

1 八坂中生との交流

大町市立八坂小中学校との交流学习を行った。お互いの住む地域の市民性を高めることをねらいとして、ポスターセッションを行った。

五中の生徒は武蔵野市民科の授業を通して調べた武蔵野市のことについて、八坂中の生徒は大町市八坂地区の発展についての発表があり、お互い多くの学びがある交流の機会となった。



【ポスターセッション】

2 民宿の方との交流

セカンドスクール期間中、3日間の日程で現地の方々と共に生活することで、交流を深めながら、白馬の暮らしを学ぶことができた。民宿ごとの「農村ふれあい体験」を行ったほか、一緒にカレーを作ったり、白馬豚のバーベキューをしたりしながら、ファミリーとして生活したことで、各自の成長がみられた。お別れは少し寂しかったが、貴重な3日間を過ごした。

○生徒の感想

- ・八坂中の発表は具体性があるって説明がとても分かりやすかった。次は自分の体験などを取り入れた発表ができるようにしたい。
- ・山登り中にあいさつをすると、みんな返してくれて嬉しかった。
- ・保全活動は暑くてとても大変だったけど、たくさんの虫に出会って自然のすごさに驚いた。

自分たちの活動が少しでも役に立つといいな…。

- ・機械を使う稲刈りで機械のすばらしさを実感した。「手刈りの意味」について疑問だったがその後民宿の方に使い分けの大切さを聞くことができた。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

生徒が現地の方々と「ファミリーになって帰ってくる」ということを目標に実践し、教員、看護師、生活指導員、J A大北の方々等も「ファミリー」となってマネジメントし、体現できた。大人からの指示で動くのではなく、生徒の自主的、自発的な力、知的好奇心や探究心を引き出すことができる活動を設定し、時間をかけて成長を見守るマネジメントを意識した。今後もこの「唯一無二」のセカンドスクールの経験を「ファーストスクール」での日常においても生かせるよう、意図的・計画的かつ長期的な視野に立った指導を行っていきたい。また、事後学習においてセカンドスクールで学んだことが生かされている場面を写真に収め、スライドにまとめた。この経験を通し、学びが生かされていることを実感してもらいたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度の成果としては、天候の不順により午前と午後のプログラムを入れ替えたり、予定を繰り上げたりすることもあったが、生徒は教員からの指示に対して冷静に、臨機応変に対応する力が身に付いた。

また、昨年度は5日間のセカンドスクール実施期間中に20名を超える生徒がインフルエンザに罹患し、引率教員が日々、生徒の病院受診や保護者連絡に追われたが、今年度は事前から健康チェックをしっかりと行い、現地での保健指導も丁寧に行った結果、体調不良者は出なかった。

一方、課題としては、1学期より集団行動をきちんと行うために、個々の生徒が適切な行動をとることの重要性を日々指導してきたが、集団行動中の忍耐力のなさや考え方の幼さが目立ち、自律の精神に欠ける行動が多々見られた。特に、時間を守ることや話を静かに聞くことを身に付けさせ、集団での適切な行動ができる生徒に育て、来年度の職場体験、2年後の修学旅行がしっかりと行える学年を目指したい。

また、本校は3年次に「市長に提言」ポスターセッションを行っている。そのためにも、今後もセカンドスクールの活動を通して個々の生徒が興味をもったテーマについて課題を発見し、情報を収集し、その課題の解決策を見出し、発表できる生徒を育成していきたい。

第六中学校

長野県安曇野市

9月5日～9月9日(4泊5日)

参加人数 男子32名 女31名
計63名

○セカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・安曇野市の自然と触れ合ったり環境問題等について調べたりする中で、自然と人との調和について理解を深め、自然を大切にしている心情を育てる。
- ・黒部ダムの学習を通して、日本や世界のエネルギー問題について深く考える。
- ・農家体験などの活動を通して、人と出会い、学び、解決していく力を養う。
- ・活動で得た情報を活用し発表したり人に伝えたりする力を育てる。
- ・武蔵野市民科の一環として安曇野市の方々と関わる中での学びを自らの成長、生き方につなげる。
- ・班、グループでの活動を通して、他者と協働しながら課題解決を図る力を養う。

○日程表

9月5日(木)		9月6日(金)		9月7日(土)	
7:00	第2しろがね公園集合	6:30	起床、検温、洗面	6:30	起床、検温、洗面
7:10	出発式	7:00	朝食	7:00	朝食
7:30	バス出発	8:30	ビレッジ安曇野発	8:50	ビレッジ安曇野発
	調布 I C		A組 松本城 B組 陶芸体験		A組 謎解きウォークラリー
	談合坂 S A 休憩	11:30	ビレッジ安曇野着 昼食		B組 光城山トレッキング
	梓川 S A 休憩	12:30	ビレッジ安曇野発	12:00	ビレッジ安曇野着 昼食
11:00	安曇野 I C		A組 陶芸体験 B組 松本城	13:00	ビレッジ安曇野発
12:30	扇沢駅着				A組 光城山トレッキング
13:00	昼食	15:15	大王わさび農園着		B組 謎解きウォークラリー
13:45	黒部ダム	16:15	大王わさび農園発	16:00	ビレッジ安曇野着
16:00	扇沢駅発	16:30	ビレッジ安曇野着	16:30	入浴
17:00	ビレッジ安曇野着 入館式	16:45	入浴	18:30	夕食
18:00	夕食				
18:45	入浴	18:30	夕食		
21:40	就寝準備	21:40	就寝準備	21:40	就寝準備
22:00	消灯	22:00	消灯	22:00	消灯

9月8日（日）		9月9日（月）	
6:30	起床、検温、洗面	6:30	起床、検温、洗面
7:00	朝食		朝食準備
	荷物整理	7:00	朝食
9:00	農家へ移動		体験活動
	農業体験	11:00	ホテル集合 お別れ会
12:00	昼食	11:30	昼食 退館式・解散式
	農業体験・交流	13:00	バス出発
17:00	入浴		諏訪湖SA
	夕食準備		談合坂SA
18:00	夕食	17:00	第2しろがね公園着
21:40	就寝準備		解散・帰宅
22:00	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・班ごとに夏休み中の課題として6つの大テーマ（黒部ダム・松本市、松本城・穂高市・安曇野市・長野県・民家体験に向けて）から1つを選び、さらに細かいテーマを分担して各自が画用紙にまとめた。テーマごとに廊下掲示することで、事前学習の内容を共有することができた。
- ・インターネットや書籍等から得た情報に写真を加えて見だしを提示し、新聞形式に自分の課題をまとめることができた。

2 事後の学習内容

- ・各自が事前学習を通して学んだことに実際にセカンドスクールを通して体験し新たに学んだことを加えて、学習を深めた。テーマごとに班でスライドを作成しポスターセッションを行った。3月の学習発表会では全校生徒の前でステージ発表を行った。
- ・現地で撮影した班行動や農家業体験の写真から「映え写真」コンテストを行った。各班の優れた写真をお互いに投票しセカンドスクール4泊5日を振り返った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 大王わさび農場

2日目の午後、大王わさび農場を訪れた。農場の方の説明を聞いた後に班ごとに農場を散策し、広大な農場に流れる湧水に育つわさびを見学した。わさびについての学習を通して安曇野周辺の気候や地形、湧き水などの自然について学ぶことができた。2日目のウォークラリーで教えていただいたことを振り返り、安曇野の人々が地域の特性を生かして育んできた産業・文

化・歴史についての理解を深めることができた。

2 光城山トレッキング

2 班に 1 名のガイドと共に 90 分ほどのトレッキングを行った。光城山の歴史や、そこに生息する動植物・四季折々の自然について学ぶことができた。生徒は、特に山頂から見える安曇野市街や北アルプスの山々に武蔵野では見ることのできない大自然を感じとっていた。

またトレッキングを通して班の友達を気遣いペースを合わせたり、声を掛けて励まし合ったりするなど協力することの大切さを実感できた。

＜社会体験活動＞

1 農業体験

安曇野市農政課の協力を得て、4 日目より 1 泊 2 日で農業体験を行った。民泊を行った 15 軒の農家では土おこし、種まき、苗植え、手入れ、出荷、除草などの作業を体験した。また、夕食や朝食を通して各家庭で交流を深めることができた。



【農業体験の様子】

2 黒部ダム見学

扇沢より電気バスに乗り、トンネル内や破砕帯の様子を見ながら黒部ダムに向かった。黒部ダムの役割やダム建設の苦労を描いたビデオを視聴したり、ガイドさんの説明を聞いて、その歴史、地理・日本のエネルギー事情について学んだりとすることができた。また、自分の足でダムサイトを歩いて見学し、放水の様子を目の当たりにして、その大きさに圧倒され、自然の雄大さ・素晴らしさ・厳しさを実感している様子が伺えた。



【農家での交流の様子】

3 松本城見学

2 班に 1 名のガイドと共にお堀を散策しながら登城まで説明を受けた。松本城下の様子からお堀の石やお城の構造、歴史的背景など、生徒はメモをとりながら興味深い説明に聞き入っていた。お城に入ってから、急な階段や城を守る工夫、鉄砲などの展示物を自分の目で確かめていた。松本城の見学を通して長野県の自然だけでなく歴史、商業など人の営みを学習できる機会となった。

＜生活・文化体験活動＞

1 陶芸体験

2 日目の文化体験として作陶体験を実施した。生徒は完成した色のイメージから土の色を選び、思い思いの作品（カップ・お皿・湯飲み・茶碗）を作り上げ、焼き上がりを楽しみにしている。施設に展示されている「信斎焼」「洗馬焼」「入道焼」の作品からイメージをつかみ長野県の文化に触れることができた。作品は 3 月の学習発表会で展示した。

2 謎解きウォークラリー

各班1名のガイドとともに地形・湧水・暮らしに関するテーマを解決しながら安曇野市内を巡った。地図を見ながら自分たちでルートを決めて、家屋や神社・史跡そして、その地域の様子を観察することができた。生徒はお互いの意見を交換しながら様々な発見をしていた。事後学習として各班で学習した内容を模造紙にまとめ発表会を行った。実体験をもとに疑問を解決し新しい発見をするという探究的な学びに充実した1日となった。



【ウォークラリーの様子】

○生徒の感想

- ・農家体験を通して私は農家の方がどれほどすごいのか、野菜を作るのにどれほどの工程が必要であるか学ぶことができた。農家の方は大変な作業を繰り返し、私たち消費者の事を考えている。農家の方々の思い1つ1つが農作物に刻まれているのだと思う。
- ・食事は農家で育てている野菜を自給自足しました。食べてみるとスーパーで買った味と全然違ってとてもおいしかったです。でも、農作業はとても大変だと実感しました。米を刈る作業と玉ねぎの種まきをしましたが暑くて腰が痛くて大変な作業だと思いました。農家の方は少人数で何時間も働いて、すごいと思いました。

○ファーストスクールの教育活動との関連(生かし方)

セカンドスクールで友達と寝食を共にする5日間は、自分について考える大切な時間である。親元を離れて生活することで自分がどれだけ親に支援してもらっているか気付き、感謝の気持ちをもつ良い機会となる。また友達と協力し、友達の新たな一面を発見することで集団生活において大切なことを学ぶことができる。特に、民泊体験によって家族以外の方々と交流できたことは、大きな経験となっている。今回のスローガンである「絆〜心を1つに〜」によって普段の生活では得られない貴重な時間は、ファーストスクールで何かに気付き自分の力で行動する原動力となるはずである。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度の成果としてはすべての体験活動の中で地域の方々と交流ができたことである。事前学習の段階ではタブレット等を用いた机上での学習であったが、セカンドスクールでは全て、現地の方々のお話を聞き、自分の目で確かめることができた。次年度に向けては、農家体験学習をさらに充実すべく体験学習を精選した計画をたてたい。

アンケート調査の結果から、次の項目で15〜20ポイントの向上がみられた。「先を見通して、自分で計画が立てられる・自分からすすんで何でもやる・小さな失敗をおそれない・からだを動かしても、疲れにくい」これらは、4泊5日のセカンドスクールを通して、仲間や地域の人々の触れ合い、集団行動、ハイキング等を通して精神的・肉体的に得られた自信や達成感が表されていると考える。

フシセカンドスクール



第一小学校

山梨県南都留郡山中湖村

10月16日～10月18日(2泊3日)

参加人数 男子51名 女子39名
計90名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・ 現地の環境問題の調べ学習を通して、自然と人との調和について理解を図り、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・ ハイキングやトレッキングなどの豊かな体験を通して、自然の中で安全に気を付けて体を動かすことのよさを感じ取るとともに、豊かな自然を大切にしようとする心情を養う。
- ・ 自己やグループの課題を解決するため、富士山とその周辺の散策や富士山に関わる施設見学を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・ 散策や見学を通して得られた知識と、今までに習得した自分の知識や経験とを結び付けてまとめ、表現する力を育む。
- ・ 現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域・社会づくりについて考える力を育む。
- ・ 活動の振り返りや話し合い活動を通して、異なる意見を生かして新たな学びを獲得しようとする力を育む。

○日程表

10月16日(水)		10月17日(木)		10月18日(金)	
7:45	文化会館集合・出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
8:15	出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
10:15	富士山世界遺産センター見学	7:30	朝食	7:30	朝食
11:15	富士山世界遺産センター発	9:00	宿舎発	8:15	掃除、片付け、荷物整理
12:00	富士山五合目着	9:30	絵手紙美術館見学・体験	9:00	閉校式
	昼食	11:30	絵手紙美術館発	9:20	宿舎発
12:40	五合目周辺トレッキング	12:00	西湖野鳥の森公園着・昼食	9:45	富士湧水の里水族館見学
14:30	スパライン奥庭駐車場発	13:00	西湖野鳥の森公園発		森の学習館見学
15:30	宿舎着・開校式		樹海ハイキング、風穴見学	10:45	富士湧水の里水族館発
16:30	入浴	15:00	富岳風穴発	11:00	富士山レーダードーム館見学
18:00	夕食	15:45	宿舎着	12:30	昼食
19:00	体育館レクリエーション	16:30	入浴	13:30	富士山レーダードーム館発
20:00	就寝準備、明日の準備	18:00	夕食	14:00	談合坂SA
21:00	就寝	20:00	就寝準備	15:00	学校着、帰校式
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・事前学習として、富士山周辺の地域の魅力を探る活動を中心に学習活動を進めた。富士山周辺の魅力について、地図や周辺施設に関する資料から考えた。
- ・児童は興味をもったことからテーマを絞り込み、探究する課題として設定し、学習を進めた。学習に際しては、学校図書館や市立図書館の資料を活用したり、学習者用コンピュータを活用したりして情報収集を進めた。
- ・現地で学習したいことやどのようなことを調べるかという観点から集めた情報を整理することで、現地での学習に向けて見通しをもつことができた。
- ・初めての宿泊行事にあたり、見学施設や宿泊施設での過ごし方、部屋の整理整頓の仕方、風呂場・脱衣所での注意点など、集団生活のマナーについて学んだ。

2 事後の学習内容

- ・3日間の学習や宿舎での集団生活を通して、生活面や行動面で学んだことや自分自身の成長をしおりに記述し発表し合った。児童が互いに学んだことや成長したことを発表することで、3日間の経験をより深く振り返り、これからの学校生活に生かしていこうという気持ちをもつことができた。
- ・児童が各自で設定した学習課題に対し、学んだことや新たな発見などについて、学習者用コンピュータを用いてスライドにまとめ、学級内で交流した。
- ・学習の成果として、来年度プレセカンドスクールに参加する現在の3年生に向けて「プレセカンドスクール発表会をしよう」という活動を設定した。学級内でグループに分かれ、3年生にプレセカンドスクールで見学する場所の概要や魅力、共同生活の様子や決まりについて伝えるため、写真を効果的に用いたスライドのまとめ方や話す順番等発表の仕方を工夫し、発表を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山御中道コーストレッキング

五合目のトレッキングでは、雲や地面の様子、武蔵野市で見られる植物との違いなどに注目させた。途中霧が出たものの、全体的に天候に恵まれ、山下に臨む富士五湖の様子や山肌の様子、すそ野の樹海の広がりにも注目して、熱心に観察する児童の姿が見られた。

トレッキングでは、足元に転がる石が普段見慣れた地面と異なることや、木々が反りながら生えていることなど、児童それぞれが気付いたことを口にして、情報を共有しながら歩くことができた。針葉樹やコケ、キノコなど多くの植物が厳しい環境で生育していることを実感しながら学習することができた。

2 青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見학을ネイチャーガイド6名同行の下実施した。樹海ハイキングでは、ネイチャーガイドから樹海で見られる植物の生育のしくみと、それらを食料として生きる動物の生態について詳しく説明を受けた。動物や樹木だけでなく、倒木やキノコの仲間、シダ植物やコケ類、微生物など全てが互いに関係しながら自然豊かな樹海を作り上げていることを知り、児童は自然の偉大さに気付いたり自然を大切にしたいという意識を高めたりしていた。富岳風穴見学では、溶岩棚や縄状溶岩などの自然の織り成す世界や、風穴内部の気温を生かした先人の知恵に驚く姿が見られた。

<社会体験活動>

1 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、1人1枚配布されたワークシートを使って学習を進めた。館内の展示からワークシートの問題の答えを探すことで、楽しみながら学習を進めることができた。また、富士山レーダードームが必要とされてきた理由や、気象、災害に関して理解を深めたり、富士山頂の寒さ体験を通して、富士山の気候についても学習したりすることができた。

2 山梨県立富士山世界遺産センター

富士山世界遺産センターでは、富士山が世界文化遺産に登録された経緯について学習した。北館では動画を中心に展示を通して学習した。南館ではガイドからの説明もあり、児童は興味をもって見学していた。



【世界遺産の由来について学ぶ児童】

3 山梨県立富士湧水の里水族館、森の学習館

富士湧水の里水族館では、富士山周辺に見られる淡水魚を中心とした、多くの動植物が展示されていた。今回はその中でも自然に近い環境を再現した二重回遊水槽を中心に、飼育員の解説を聞きながら学習を進めた。児童は水槽で泳ぐ淡水魚の様子に興味津々で見学していた。

森の学習館では、富士山周辺の動植物について学習した。シカやクマの大きなはく製を中心に、富士山周辺で生きる動植物について学びを深めることができた。

<生活・文化体験活動>

1 小池邦夫絵手紙美術館

小池邦夫絵手紙美術館では、「下手でいい、下手がいい」という小池邦夫氏の考えに触れ、実際に絵手紙を描く体験を行った。書道とは異なる筆遣いや普段使うことのない画材に触れ、児童は作品作りに熱中していた。全国から集められた絵手紙作品の展示を見学する際には、様々な技法や題材に興味をもっていった。



【絵手紙体験をする児童】

○児童の感想

- ・みんなで時間が守れるように協力することができ、5分前行動ができるようになった。
- ・常に整理整頓をしておく、いざというときにスムーズに動けることが分かった。学校や家でも整理整頓を心がけたい。来年のセカンドスクールもがんばりたい。
- ・宿の方にたくさんお世話になった感謝の気持ちを伝えることができて、よかった。
- ・時間の管理や片付けなど、学校と違う環境で、自分もみんなもたくさん成長することができた。
- ・火山岩や溶岩、樹海の植物、動物の足跡などを身近で見ることができ、武蔵野市との自然の違いを感じることができた。特にきのこに興味をひかれた。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールでは、「魚沼市について調べよう」というテーマの下、児童一人一人がそれぞれ課題を決め、現地でグループに分かれて学習を進めていく。現地の学習では、体験場所や学習内容に応じて変化してくことが予想される。そのため、第4学年の段階から「事前学習—現地学習—事後学習」という大まかな学習の流れを定着させ、次年度のセカンドスクールにおいてスムーズに学習活動を進めることができるようにする。

プレセカンドスクールでは、一つの宿舎に教員も含めて生活する。一方で、セカンドスクールでは分宿となる。そのため、プレセカンドスクールを通して荷物の整理、入浴や食事、就寝前の過ごし方など集団生活における基礎基本を身に付けさせるとともに、教師や生活指導員が教えるのではなく、児童が見通しをもって主体的に行動できるよう、課題解決の場面を設けた。セカンドスクール全体を通して、児童が協力して自分たちの力で班の全員がよりよく生活するための工夫を考えられるようにしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は昨年度と同様に、武蔵野市では体験できない自然体験を多く取り入れた。児童からは身の回りの自然の大切さに気付いた、という振り返りが見られた。事前事後アンケート結果からも「6. 花や風景などの美しいものに、感動できる」「20. 季節の変化を感じることができる」などの数値の向上が見られ、自然を大切にすることを育むことができたと言える。
- ・初めての宿泊を伴う校外学習の機会であったため、公共の場で活動したり、宿舎で友達と多くの時間を過ごしたりしたこと、話をよく聞くこと、その場にふさわしい行動を考えること、互いに声を掛け合いながら生活することの大切さを児童が改めて理解していた。事前事後アンケートの結果からも、「8. 人の話をきちんと聞くことができる」「22. その場にふさわしい行動ができる」などの数値の向上が見られ、集団で行動する力が育まれたと言える。
- ・一方で、事前事後アンケート「1. いやなことは、いやとはっきり言える」「14. 自分かってな、わがままを言わない」などの数値の減少が見られたことより、集団で生活することの難しさを感じた児童がいたことが伺える。協調性を育んでいくことが、今後の課題である。
- ・多くの見学や体験を盛り込んだ日程である。見学する時間を十分に設けることで学びを深められると考え、出発時刻等を再検討し、見学時間にゆとりをもてるよう計画を見直す。

第二小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

9月18日～9月20日(2泊3日)

参加人数 男子36名 女子48名
計84名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩町の自然の特徴やよさについて調べたり、体験したりする中で自然と人との調和について理解を深め、自然を大切にしようとする態度を育む。
- ・自然や文化に触れながらグループで考えたり、話し合ったりして奥多摩町の特徴や豊かな自然についての理解を深める。
- ・自己やグループで設定した課題に対し、学んだことを生かしたり整理したりする力を養う。
- ・集めた情報をもとにして、奥多摩町の自然や人々の生活や工夫についての理解を深める。
- ・武蔵野市と比較・分類し、客観的に把握することで、奥多摩町の特徴を見付けている。
- ・自己の課題解決に向け、身近な人々と力を合わせ探究活動に取り組む姿勢を育成する。
- ・友達や現地の方々との関わりを通して、自己の視野を広げたり自己肯定感を高めたりしようとする態度を養う。

○日程表

9月18日(水)		9月19日(木)		9月20日(金)	
8:15	学校集合 出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発→休憩(石川PA)	7:00	朝食	7:00	朝食
11:00	氷川キャンプ場駐車場着	9:40	【Aグループ】 水源林学習、ガイドウォーク →駅周辺探索後ダムへ移動		荷物整理、大掃除
11:20	開校式(福祉会館)		【Bグループ】 駅周辺探索後 →小河内ダム見学 →水と緑のふれあい館見学	8:20	各宿発
11:30	昼食		12:00	9:10	ふれあい農園着
12:30	【Aグループ】 日原鍾乳洞 →奥多摩ビジターセンター 【Bグループ】 奥多摩ビジターセンター見学 →日原鍾乳洞見学(中止)	13:00	【Bグループ】 水源林学習、ガイドウォーク 【Aグループ】 小河内ダム見学 →水と緑のふれあい館見学	9:15	【Aグループ】 ワサビ田見学、沢の自然観察 →鹿害の話、鹿角ストラップ作り 【Bグループ】 鹿害の話、鹿角ストラップ作り →ワサビ田見学、沢の自然観察
15:00	奥多摩民話			11:20	昼食
16:00	各宿着			12:15	閉校式
16:30	入浴			13:30	羽村取水堰着、見学
18:00	夕食			15:15	学校着
19:15	星空観察(中止)	16:30	入浴	15:25	帰校式
21:00	消灯、就寝	18:00	夕食	15:45	解散
		19:00	帰る準備や室内レク		
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・初めての宿泊学習のため、昨年度のプレセカンドスクールや実地踏査の様子の写真を見て活動内容について見通しをもった。
- ・奥多摩の特色ある自然、わさび田や小河内ダム、日原鍾乳洞など、実際に行く場所や体験する内容について項目ごとに調べ、関心意欲を高め、知識を深めていくようにした。
- ・自然、文化、産業の中から特に調べたいテーマを決め、現地で調べる内容や確かめる内容を明確にした。

2 事後の学習内容

- ・事前学習で調べてきたことをもとに、現地で体験活動を行った。一連の活動を通して、自分のテーマを決め、模造紙、紙芝居、模型等を使つての説明など個々の課題の形式に合わせてまとめている。そして、それらをもとに発表会を行った。
- ・3年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を、グループごとにテーマを決めて行った。来年度初めて行く宿泊学習がどういったものか、3年生が見通しをもてる発表にした。

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 水源林学習

現地の講師の方と共に、奥多摩の緑豊かな山を登り、水源林の働きについて学習した。健康な森では、落ち葉などを分解する微生物等の働きにより、スポンジのように小さな隙間が沢山ある保水力の高い土壌が作られることを知った。また、実験を行い、森に降った雨はふかふかの土壌を通して地中深くに浸透し、たくわえられることについて、実体験として知ることができた。蓄えられた地下水が、奥多摩湖や小河内ダムに流れ出るという、水の流れを目の当たりにし、これまでの社会の学習がより深く定着した。



【水源林学習】

2 日原鍾乳洞

長い年月をかけて作られた自然の造形美を感じ取ることができた。鍾乳洞の中は、気温 17 度と肌寒く、鍾乳洞の外の気温差との違いに興味をもっていた。1 年にあるかないかの雷雨で、半分のグループは鍾乳洞の中に入ることができなかった。午前中は美しかった川の水が、瞬間に茶色の濁流となり、その変貌に自然のすごさを感じ取っていた。

＜社会体験活動＞

1 水と緑のふれあい館

3Dシアターでは、水が家庭までどのような経緯をえているのか映像を通して知ることができた。小河内ダムや、展望塔、水源林、羽村取水堰など、児童が見学する予定の箇所が映し出され、学びが深まった。

2 わさび田見学

わさび田の観察では、奥多摩のわさびは「水わさび」となり、溪流や湧き水で栽培するものであることや、徳川時代から生産され、200年前から江戸へ搬出されたと伝えられていることを知ることができた。奥多摩で、代々守られている川の美しさがわさびの生産と繋がっていることに驚きを感じていた。



【わさび田見学】

＜生活・文化体験活動＞

1 奥多摩民話

奥多摩に古くから伝わっている民話を聞いた。奥多摩は民話が多いところで、人々の生活の中でいつまでも語り継がれてきた民話が多く、奥多摩に住む人たちの優しさも民話とともに受け継がれていることを、民話を通して知ることができた。天狗や山姥といった民話を聞き、宿に帰ってからも、窓からそれらを探していた。

2 鹿角ストラップ作り

ニホンオオカミや猟師の減少から、鹿が増加し、畑が荒らされている現状を知ることができた。その鹿の角を削り、自分の好みの形にし、ストラップを作った。指導者の丁寧な説明を聞きながら、安全に気を付けて熱心に作業に取り組んでいた。また、自然の物を使って、物作りをする楽しさを実感することができた。

○児童の感想

- ・自分たちで考えて行動することができたと思うので、今度はその場に合った行動をできるようにしたいです。
- ・一緒に協力することで、普段あまり関わらない友達とも楽しむことができた。
- ・グループの友達と、助け合う事とルールを守る事と思いきり楽しむ事ができました。
- ・奥多摩の川と森林散策で、涼しい中できれいな自然を見られて楽しかったです。
- ・水源林学習のちょっとした山登りが大変だったけど、最後まで登れてやりきった感じがありました。
- ・宿で自分の荷物を整理する経験を通して、ふだん家で親がいろいろと整理してくれている大変さに気づいた。
- ・自分の荷物を整理することなど自分のことを自分できちんとできるようになった。

- ・宿で三日間過ごして、みんなとより仲良くなった。
- ・プレセカンドのご飯の量が多かったから、帰ってきてから給食を食べる量が増えた。
- ・水源林体験などでいろいろな生き物を見て、生き物の知識が高まった。
- ・プレセカンドスクールに行く前は虫が苦手だったけど、行った後は虫が少し好きになった。
- ・プレセカンド前はバスに乗るとすごく酔っていたけど、プレセカンドでバス移動が多かったから、あまり酔わなくなった。
- ・プレセカンドに行く前と後では、友達の気持ちが分かりやすくなった気がする。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

プレセカンドスクールの2泊3日を過ごす中で、自分のことは自分でしたり、自分の身の回りのこと以外にも、係として仲間に声をかけたり、しおりを見て、次の予定や時間を意識したりするなど、見通しを立てて行動することの大切さを強く感じていた。「協力し合う大切さ」については、協力することで活動に気持ちよく取り組めるだけでなく、楽しさを共有できることで、より多くの感動やよい経験を積むことができること等を実感していた。プレセカンドスクールで培った「自立心」と「仲間との協力」をもとに、セカンドスクールも仲間とともに成功させたいという意欲が高まった。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度から奥多摩でのプレセカンドスクールになり、自然の中での体験や、社会科と結びついた学習をすることができた。学級毎の分宿という形態を取ったことにより、普段から一緒にいる友達と協力して生活を送った。このことにより、協調性や思いやりが育まれ、生きる力の数値が向上したと考える。また、風呂場や食堂、部屋で過ごす際は、後に使う人のことを考えて使ったり、整理整頓を意識しながら生活を送ったりしたことが、心理的・社会的能力の数値の向上に繋がったと考える。水源林学習では、2時間近く、緑豊かな山を上り、奥多摩湖の周辺を散策したことが、身体的能力の数値が向上したと考える。

児童の多くが積極的に活動に取り組み、自己の成長を実感することができたことが、今回の成果である。

課題としては、教員宿が児童の宿と異なっていたため、夜間の児童の指導が不十分であった。特に、初日の夜は、児童も落ち着きがなく、寝付くまでに時間を要した。夜間に一度、児童の宿を見回る体制作りや、夕食後に各学級で夜間の約束を再確認する時間があってもよい。

また、雷雨により行程をいくつか変更した結果、宿で過ごす時間が多くなった。今回は雨天プログラムを考えていなかったが、宿で過ごす場合の室内プログラムを計画してもよい。

第三小学校

新潟県南魚沼市

6月5日～6月7日(2泊3日)

参加人数 男子42名 女子46名
計88名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然や文化とのふれあいを通して、豊かな情操や感性を育む。
- ・自然と人間との共生、自然保護の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験を基に考え、自然を大切にしようとする態度を育てる。
- ・友達同士で、適切に意見交換を行いながら試行錯誤を繰り返し、課題を解決する力を育てる。
- ・課題解決したことを伝え合うことにより、学び合い、新たな課題を解決していこうとする力を育む。
- ・現地の方との触れ合いを通して、豊かな情操や感性を養い、お世話になっている人への感謝の気持ちを育む。
- ・自然体験や人との関わりから学んだことを、今後の学習や生活に生かしていこうとする態度を育てる。

○日程表

6月5日(水)		6月6日(木)		6月7日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:15	学校出発	7:30	朝食(おにぎり作り)	7:30	朝食
11:45	南魚沼市到着	8:20	朝会	8:30	朝会
12:00	開校式	9:00	ハイキング(道の駅まで)	9:00	塩沢つむぎ機織り体験
12:30	各民宿あいさつ	11:30	昼食(観光協会案内所広場)	10:00	牧之通り散策
13:00	昼食(弁当)	14:00	農業体験	12:00	昼食
14:30	田植え体験	16:00	交流会準備	13:00	閉校式
16:30	ぬか釜体験	16:30	入浴	13:30	南魚沼市出発
17:30	入浴	18:30	夕食	16:45	学校到着・帰校式
18:00	夕食	20:00	交流会		
20:30	学習の記録・健康観察	21:30	消灯		
21:30	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、プレセカンドスクールに参加する目的を学年で確認した。自然と触れ合うことで地域の特色について学ぶこと、自ら課題をもち解決していく力をつけること、よりよい人間関係を築き今後の生活に生かしていくことなど明確な目的をもって参加することでより有意義な時間になることを伝えた。
- ・南魚沼市の自然や気候、特産物などについて自分のテーマを決め、そのテーマに沿って学習者用コンピュータを活用して調べた。調べた内容は、プレゼンテーションにまとめ学級内で発表し合った。
- ・班長、副班長、生活係、学習係、交流会係などの役割を分担し、責任感をもたせることで積極的に活動できるようにした。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールを終えて、どのようなことを学び、そこから何を今後生かしていきたいかについてまとめ、しおりに書いた。また、それらを共有した。
- ・学習に関しては、実際に行ってみて新たに分かったことや、事前に学習した内容をどのように確かめたか、などを発表した。生活に関しては、今後の学校生活に生かしていくことを確認し合った。
- ・来年度、プレセカンドスクールに行く3年生に向けて「プレセカンドスクールを伝える会」を開いた。テーマごとにグループに分かれて発表内容を考えた。
- ・「プレセカンドスクールを伝える会」では、発表の仕方を工夫した。劇やプレゼンテーションなどの発表方法から選んだり、組み合わせたりして、テーマに適した方法で発表することができた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 ハイキング

ハイキングでは、南魚沼の自然や家など雪国特有の建物の造り、植生や地形について注目しながら歩くことにより、事後学習では自然についての理解を深めることができた。また、雄大に広がる自然を眺めることにより、山に囲まれている地形についての理解を深めることができた。道の駅を目指し、最後まで歩き抜いた。



【ハイキング】

＜社会体験活動＞

1 田植え体験

苗をどのように植えるのか、植える間隔などについて教えていただき、田植え体験を行った。自分の担当の場所が終わっても、追加で植えている姿が見られるなど、田植え体験に興味をもって、前向きに取り組んでいる様子がうかがえた。来年度のセカンドスクールで稲刈りをすることを楽しみにしている児童が多かった。



【田植え体験】

2 農業体験

宿の方に教えてもらいながら、土を耕したり、野菜の苗を植えたりした。農業機器の使い方を知り、実際に体験したことにより、農家の方の大変さや、働く喜びについて実感することができた。畑で育てた野菜を宿で食べることで、今回の活動が自分達の生活に直接結び付いていることに気付いた。

3 お世話になった宿の方への交流会

宿のお父さんとお母さんに喜んでもらえる会にしようと、事前に宿の方と一緒に楽しめるゲームを企画したり、進め方を練習したりした。

宿と一緒に食事の準備をしたり、田植えをしたりと、日々の生活の中で交流を深めたことで、感謝の気持ちを抱くことができた。交流会の最後に、感謝の気持ちを伝える言葉を述べ、寄せ書きカードをプレゼントした。宿のお父さん、お母さんの喜んだ表情を見て、感謝の気持ちを表現する大切さに気付くことができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 塩沢つむぎ機織り体験

塩沢つむぎの歴史や、麻の織物がどのように作られているのかについて知り、完成するまでに多くの時間と労力がかかることに気付いた。実際に機織りの体験をすることで、機織りをしている方々の大変さを感じることができた。生きている蚕に触れたり、糸ができる様子を見たりし、伝統工芸への理解を深めた。

2 牧之通り散策

地元のガイドの方に塩沢の歴史や、雪国の暮らしの工夫を教えてもらいながら牧之通りを散策した。雪がどのくらい積もったのか、今も生かされている工夫は何か、など、ガイドの方にたくさん質問する姿が見られた。昔使われていた道具を見る、雪国ならではの生活の知恵を知るなど、土地の特徴を生かしたくらしについて理解を深めることができた。

○児童の感想

- ・みんなの前で調べたことを発表することが多かったので、自信がついた。発表の仕方劇やプレゼンテーションを使って工夫することができた。
- ・自分が担当する係では、みんなが気持ちよく生活できるように声をかけた。友達と仲良く過ごせたので、自分の役割が果たせたと思った。
- ・家族と離れて泊まるので、最初は不安だった。でも、友達と協力して過ごせたので楽しかった。自分の生活を支えてくれる家族の大変さが分かった。
- ・来年セカンドスクールで南魚沼市に行き、宿のお父さんお母さんに会うのが楽しみだ。成長したところを見てもらえるように、これからの学校生活にこの学びを生かしたい。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・活動の初日は、ささいなことで友達と折り合いが合わず、ぶつかることが多かった。一緒に生活する中で、自分の言い分だけではなく、相手も気持ちよく過ごすための方法を模索できるようになった。活動中に限らず、ここで学んだことが今後も、普段の生活から対話的に様々な活動に取り組みせるとともに、来年度のセカンドスクールでは、さらに児童同士の交友関係が広がるよう指導していく。
- ・バスの中から見える景色やハイキングコースで触れた自然などから、自分たちが住む町と南魚沼市とを比較することができた。事前に学習したことを照らし合わせて体験することで、より深い学びへとつながった。来年度のセカンドスクールでは、新たに見付けた課題やさらに知りたい課題を基に、解決に向けた活動を充実させていきたい。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・友達とぶつかることはありつつも、お互いが気持ちよく、仲良く過ごすために大切なことを話し合うことができた。活動後に、「友達とさらに仲良くなれた。」、「新しい一面を知れた。」と振り返る児童が多かった。友達の思いを聞く、折り合いをつけるなどは、普段の学校生活でも生かそうとする前向きな姿勢が見られた。
- ・当初予定していたコースに熊が出没し、トレッキングからハイキングに急遽変更になったが、町の様子を見ながら歩いたり、美術館見学をしたりと、有意義な活動になった。熱中症の心配があったため、帰りはマイクロバスで宿まで戻るなど、臨機応変に対応できた。熊の出没や気温の上昇を考慮し、歩く時間や場所は検討する必要がある。
- ・児童の「生きる力」を測る事前・事後のアンケートの「自分にわり当てられた仕事はしっかりとやる」という項目から、活動を日常生活にどう生かしていくかについては課題が残った。振り返りを行うことで、日常生活に生かしていきたい、という意欲はもつことができたので、具体的にどのように生かしていくか、どうなれば生かせることになるのか、を示していく必要がある。

第四小学校

東京都西多摩郡奥多摩町

6月26日～6月28日(2泊3日)

参加人数 男子33名 女子31名
計64名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・奥多摩の自然について調べる活動を通して、自然と人との関わりについて理解を深め、自然と積極的に関わろうとする態度を育てる。
- ・水源林や、水を生かした農業について理解し、自然を大切にしようとする思いを育む。
- ・奥多摩の自然や、飲料水の供給の仕組みについて、自ら課題を立て、必要な情報を選択する中で分かりやすく整理する力を養う。
- ・多様な方法を用いて課題を追究し、自ら解決する。
- ・集団活動を通して、生活の自立に必要な知識や技能を身に付ける。
- ・仲間と共に協力し合い活動することを通して、豊かな人間関係を築いたりコミュニケーション能力を育んだりする。

○日程表

6月26日(水)		6月27日(木)		6月28日(金)	
7:40	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:00	学校出発(大型バス乗車)	7:00	朝食	7:00	朝食
9:30	石川PA(中央道)トイレ休憩	8:45	氷川キャンプ場集合・バス乗車	7:40	荷物整理・感謝の会
10:00	奥多摩文化会館 到着	9:40	課題学習①(山のふるさと村)	8:45	各宿 出発(大型バス乗車)
	開校式		A:水源林学習	9:10	海沢ふれあい農園 到着
10:30	マイクロバス4台に分散乗車		B:クラフト体験		A:ワサビ田見学→
11:20	A:日原鍾乳洞	12:15	昼食		鹿角ストラップづくり
	B:ビジターセンター	13:00	課題学習②(山のふるさと村)		B:鹿角ストラップづくり
12:30	昼食(氷川小学校体育館)		A:クラフト体験		→ワサビ田見学
13:30	A:ビジターセンター		B:水源林学習	11:20	昼食
	B:日原鍾乳洞	14:30	小河内ダム 到着	12:00	閉校式
14:30	各宿 到着		水と緑のふれあい館	12:15	奥多摩出発(大型バス乗車)
14:45	宿の方と顔合わせ会	15:50	各宿 到着	13:00	石川PA(中央道)トイレ休憩
16:00	入浴	16:40	入浴	14:15	学校 到着
17:30	夕食	18:00	夕食	14:30	帰校式
18:20	健康観察	19:00	健康観察	14:45	解散
19:30	星空の話(奥多摩福祉会館)	20:00	振り返りタイム		
21:00	振り返りタイム	20:30	消灯・就寝		
21:30	消灯・就寝				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・4年生の総合的な学習の時間のオリエンテーションにおける話し合いで、プレセカンドスクールでの活動は、「人との関わりを広げる」ことに気付かせ、プレセカンドスクールまでに達成したい学年の姿について意見を交流し、1年間の学習課題を立てた。
- ・「おくたまガイドを目指そう」という学習単元を設定し、武蔵野市で調べることや考えることができる「奥多摩町のよさ」について学習を進めた。また、プレセカンドスクール後には、自分たちが学んだことを伝えたい相手を選び、プレセカンドスクールで学んだことを発表する、という計画を立てて見通しをもたせた。
- ・「おくたまガイドを目指そう」という学習課題を達成するために、行動班ごとに調査内容を分担し、事前学習した内容をまとめる方法の検討を通じて、オリジナルパンフレットや実際に訪れた際に出題するクイズ集等に表示した。
- ・社会科「水はどこから」の学習で、飲料水を安定して供給するための仕事や工夫、水源林の特徴や役割、安定した飲料水供給が行われるまでの歴史について個人で調べ、理解した。
- ・班長や係等、自分たちが安全で仲良く過ごすことができる3日間にするための係は何かを考え意見を出し合い、係決めを行った。役割ごとに集合して係の仕事内容や役割分担を実行し、班や係ごとに目標を共有し合うことで、宿での過ごし方や活動時の約束を確認し合った。

2 事後の学習内容

- ・「人との関わりを広げる」ことの第一歩として、プレセカンドスクール中の活動を人との関わりに着目して学年全体で振り返らせ、事後学習時の課題作成の中で必ずおさえない内容を整理した。また、達成したい学年の姿は2学期の学習（防災）に向けたゴール設定に生かした。
- ・奥多摩町で学んだことや感じたことについて学習者用コンピュータを用いてまとめる活動を行った。その際に、誰に向けて発信する想定でまとめるのか、どんな内容を取り上げるのかを児童に委ね、より主体的な学習ができるようにした。内容によっては、グループを作って分担したり、違う内容について互いに助言し合ったりしながら進める様子が見られた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 日原鍾乳洞見学

1日目には、日原鍾乳洞へ行き、洞内の見学を行った。年間を通じて涼しく、暗がりの中に見える様々な岩の形に、児童は感嘆の声を上げていた。特に、手水鉢に落ちる水の音が洞内に反響して聞こえる「水琴窟」がある場所では、小さな水の落ちる音が自然に反響する様子を静かに聞き、「古い歴史を感じる！」等の感想を述べながら、長い時間が経過することで完成した自然の荘厳な雰囲気を楽しむことができた。



【鍾乳洞に入る児童の様子】

2 星空の話

1日目の夜には、奥多摩町立氷川小学校の校庭をお借りして星空観察を行う予定であったが、天候不良で星が見えなかったため、予定を変更し、奥多摩福祉会館にて「星空の話」を伺った。講師の方から、空には多くの星座が見えることや、山地では、夜間に明かりが少なく、空気が澄んでいることによって多くの星を見ることができることを教えていただいた。子どもたちは、講師の方のお話を熱心に聞き、様々な星や星座についての興味を高めている様子であった。

3 水源林学習

2日目には、山のふるさと村にて水源林のガイドウォークを行った。1学級を3グループに分け、ガイドの方の案内で、奥多摩に生息する動物のフィールドサインや植物の特徴等の理解を深めることができた。また、ふかふかの土の場所を探して水の吸水実験に取り組み、水源林の役割の一つである、水を蓄える働きを実感し、驚きの声を上げていた。児童にとって、奥多摩の自然の豊かさや、私たちの生活と自然との関わりについて気付く、良い学びとなった。



【吸水実験で土に水を含ませる様子】

＜生活・文化体験活動＞

1 クラフト工芸体験

2日目には、クラフトセンターにてクラフト工芸体験を行った。児童は、石エストラップ作り、木工作品作り、陶芸作品作りの3種類から1つを事前を選び、制作を行った。

電動やすりで石を削る、電動糸のこぎりで木を加工する、木棒で陶土の形を整える等、それぞれの過程で講師の方や指導員の助けを借りながら、自分が納得できる作品になるように集中して取り組む様子が見られた。活動が終わると、「今日持ち帰りたい!」「学校に届くのはいつごろですか?」と、自分の作品を実際に使ったり、おうちの方に見せたいと話す児童が多くおり、児童にとって充実した活動になったことを実感することができた。

2 鹿角ストラップ作り

3日目には、海沢ふれあい農園にて、鹿角ストラップ作りを行った。初めに、おくたま地域振興財団の方から、鹿の角の生え方や、奥多摩で見られる鹿の数について教えていただいた。鹿の角がどのように生えているか児童一人一人が絵を描き予想したり、実際の鹿角をもったりして、鹿の角の重さや大きさを実感することができた。



【鹿の角の説明を聞く様子】

鹿角ストラップ作りでは、児童一人一人が工夫を凝らし、表面を削ったり模様を整えたりする様子が見られた。また、活動に没頭する児童が多くおり、活動が終了しても「まだやりたいね!」と発言したり、互いに完成したストラップを見せ合い、成果を認め合ったりしていた。

○児童の感想

- ・ 1日目よりも3日目の方が部屋をきれいに整とんできたり、みんなで行動することができたりしました。鍾乳洞や水源林学習は、急な坂が多くて大変だったけれど、自然のよさを感じることができて楽しかったです。プレセカンドスクールに行くことができてよかったです。
- ・ 3日目には、自分たちで「感謝の会」をやりたいと計画して取り組むことができて、みんなでやった達成感を感じました。指導員さんや宿の方への感謝をしっかりと伝えることができてよかったです。自分が3日目に課題に感じたことはセカンドスクールで解決したいです。
- ・ 鹿のストラップ作りをして、ていねいに教えてくれたりアドバイスをたくさんしてくれたりしたことがうれしかったです。目標にしていた「人の話をよく聞いて行動する」ことは、班の仲間と声をかけあって取り組めたのでよかったです。3日間とても楽しかったです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

セカンドスクールの前段階として、分宿制を取り入れ、宿泊体験をすることで、仲間と協力しながら見通しをもち計画的に行動しようとする力、集団生活でのマナーやルールを意識して行動する態度を育むことができた。また、振り返りタイムを用いて、1日ごとの各宿の成果・課題を表にまとめて整理したり、事前・事後学習も含め、「学習課題→学習計画→実行→共有→振り返り→新たな問いや疑問の生み出し」という学びの流れの指導を繰り返し行ったりすることで、集団をよりよくするために考え、行動する力が身に付いた。集団としての協力する姿勢や、課題を発見し、協力しながら解決する力に着目しつつ今後も継続して指導する。また、セカンドスクールに向けて、一人一人のよさを認め合い、互いに協力し合う活動を今後も取り入れ、セカンドスクールに向けて自信をもって自分の意見を表現できる集団作りに生かしていく。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 事業評価について、思いやりある温かい言葉掛けが増え、友達との長期的な集団生活で「折り合いを付ける」という動きが多くの子から見られるようになり、道徳的能力や、心理的・社会的能力について一定の評価ができた。次年度に向けて、仲間との集団生活を通して自分の仕事に責任をもつ等、社会的能力についてより一層高めたい。
- ・ 荒天や熊の出没により、体験の変更・修正があったため、事業評価のポイントが低かった。室内でも学習内容と関連づいた体験ができるように担当者との連絡を密に取り、計画する。
- ・ 社会科「水はどこから」や、理科「星の明るさや色」など、学習内容と関連付けた体験を多く設定し、学んだことを実際に見て確かめたり理解を深めたりすることにつながられた。
- ・ 水源林のガイドウォークは、ガイドの方の進行で充実した活動となったが、気温が高い時期のため、活動時間に課題がある。次年度も現地講師と連携し、調整を図りたい。
- ・ ビジターセンターでの学習の後、水源林学習（ガイドウォーク）を行ったことで、児童が実際のフィールドサインや植物の発見に意欲的な姿勢が見られた。次年度も活動の順序と児童の思考の流れの関わりを意識して計画をしていく。

第五小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月25日～9月27日(2泊3日)

参加人数 男子41名 女子54名
計95名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺について事前の調べ学習や、現地での豊かな自然や文化に触れる体験活動を通して、武蔵野市との違いに気付くとともに、それらへの関心を高め、自然を大切にしようとする態度を養う。
- ・自分の立てた課題について、調べたり体験したりして得た情報を分かりやすく整理し、まとめ・表現する力を育む。
- ・現地での諸課題について、友達と協働してよりよく解決する力を育む。
- ・2泊3日の宿泊体験を通し、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。
- ・友達や現地の方との関わりを通して、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
7:40	学校集合・出発式	6:30	起床・洗面	6:30	起床・洗面
8:00	学校発	7:00	朝の会・朝食	7:00	朝の会・朝食
10:00	富士山レーダードーム	8:55	ネイチャーラリー	8:20	大掃除・荷物整理
11:00	昼食	11:00	昼食	9:20	閉校式
12:30	富士山トレッキング	12:00	富士湧水の里水族館見学	9:40	宿舎
16:00	宿舎着	13:00	森の学習室見学	10:10	忍野村着・ほうとう作り体験
19:00	調べ学習のまとめ	14:00	平野の浜(記念撮影)	12:00	昼食(手作りほうとう)
19:45	健康観察・係活動	14:45	宿舎着	12:45	忍野八海見学
21:30	就寝	19:00	室内レク	13:30	忍野村発
		19:45	健康観察・係活動	16:00	学校着・帰校式
		21:30	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の学習にて、「頂上目指せ！Fuji マスター！！」として、富士山などに関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の地形や鉱物、富士山の植物や動物、富士山の気象、富士山周辺の文化(食や祭りなど)について調べた。

- ・図書資料を中心にインターネットを補助的に使い、各自が調べたことをもとにグループで話し合って、今後追及する課題の設定を行った。

2 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、グループでまとめ、フリップを使って発表し、学んだことを学級内で共有した。
- ・プレセカンドスクールで学んだことを分かりやすく伝えようとそれぞれが工夫を凝らした。
- ・また、さらに調べ進めたいことや発展的にやりたいことについて学年全体で話し合い、決まった主題に関してさらなる探究的な学習を進めた。
- ・この学習内容を、興味、関心が同じ児童で発表グループを組み、学年全体で共有する予定である。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1 富士山五合目トレッキング

雨天ということで富士山の山頂は観察できなかった。トレッキングのコースは、険しい道ではなかったが、天候の関係で歩きにくい路面となってしまう、疲れを訴える児童も少なからず見られた。しかし、解説員の説明は一生懸命に聞き、武蔵野市では見られない珍しい木々や植物について詳しく知ることができた。また、溶岩の性質についても知ることができ、興味深く学習に取り組む姿を見ることができた。10人程度の班に1人解説員がついたことにより一人一人にしっかりと説明が伝わっていた。

2 ネイチャーラリー

宿泊施設であるグリーンプラザニューみなみのグラウンドにて、電気や便利な道具などなかった時代の人間の生活をグループで体験する活動を行った。目の前の獲物を石つぶてとパチンコを使ってとらえるゲームや獲物に気付かれないように抜き足、差し足で近づくゲーム、自然の中に隠れた生き物を探すゲームなど、日常生活ではあまり意識しない感覚を研ぎ澄まして、児童は取り組んでいた。自然に囲まれた環境のなかで楽しい活動を行うことで、友達と協力する大切さを学び、自然に親しむ心が育まれた。



【パチンコでハンターに】

<学習体験活動>

1 富士山レーダードーム見学

ブリザード体験において、富士山頂上の観測所で働いていた方が体感していた気温と風について学ぶことができた。日本の誇りである富士山が気象予測に利用されていたことや噴火という現象によって起こる被害や地形に与える影響などを写真資料やクイズを通して学習すること

ができた。「自然に親しむ」ということを行事の一つのテーマにした今回のプレセカンドスクールにおいて、富士山について幅広く学習しながら、この後の自然に親しむ意欲を十分に高められ、有意義な活動となった。

2 さかな公園見学(自然体験)

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあったようだ。また、魚だけでなく、鉱石や水生植物などの資料も豊富にあり、どの場所でも児童は熱心に学習していた。そして、見るだけでなく、実際に手で触ったり、調べたりできる学習コーナーも充実しており、最後まで集中を切らさず学ぶことができた。



【迫力のある魚の群れ】

<生活体験活動>

1 ほうとう作り

クラスごとに、3つの民宿に分かれ活動を行った。民宿の方に教えていただきながら、小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で切って仕上げた。正座の姿勢をすることで手だけでなく、体全体の力を使ってこねることができると教わり、実践できた時には、児童も「本当だあ。」とうれしそうな声を上げていた。出来上がったほうとうを民宿の方に仕上げていただき、食べた。野菜も豊富に入っており、好き嫌いも心配されたが、全員が完食した。自分で作り、民宿の方の優しさがこもった食事は格別だったようだ。



【班員で協力してこねている様子】

○児童の感想

- ・富士山について、現地に行って調べたり、話を聞いたりし、たくさんを知ることができた。これからさらに、興味をもったことについて調べてみたい。
- ・今度は富士山の頂上まで登ってみたい。また、湧水について調べてみたい。
- ・自然の中で生きるために必要なことは、あまり考えたことがなかったけど、友達と意見を交わし合ったことでたくさんを知ることができた。
- ・自分の役割を果たすのは大変だったけど、友達と協力することの大切さに気付くことができた。友達と協力することで乗り越えられることが分かったので、セカンドスクールでも頑張りたい。

○セカンドスクールの教育活動との関連

セカンドスクールに向けて、自立的活動と協力に重点を置いて指導を行った。まず、自立的活動では、活動の準備や時間前集合など自分のことは自分で行ったり、衣服の調整など体調管理も自分自身で行ったりすることで、自分で考えながら生活することができるようになってい

った。また、係を一人一役担うことで、それぞれが自分の役割に責任をもちながら、充実した生活を送ることができた。

協力という面では、どんな活動も班で行ったことで、自分がよければ良いという自己中心的な考え方から、みんなで出来るようにという考え方が育った。互いの個性を認め合い、困った時には助け合う姿がたくさん見られた。また、担任など大人が関わり過ぎないことで、子どもたちが自分たちで新たな人間関係を築きあげていた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

子どもたちの生きる力を図るアンケートの結果からは、「生きる力」の2pt 向上したことをはじめ、事前と事後で各資質・能力の向上が確認できた。今年度の本校のプレセカンドスクールの特徴は、集団における協力を軸に各日程の活動を組織したことである。宿泊施設内での生活班を基盤とした協力とまた施設見学などでの行動班を基盤とした協力が、宿泊行事の成功の鍵となると児童に投げかけ、それに児童が応え、この目標をスモールステップで達成させていった。これは、この取組を通して高学年に求められる協働的な人間関係形成力を培おうというねらいによるものである。これらが結果として児童の社会的能力への肯定的回答へつながったと考えている。また、自主性や積極性、自己肯定感や問題解決力に関わる質問の回答結果が向上したことも同様の理由と考えている。

他方で、富士山五合目トレッキングや星空観察が雨天により、学習や活動の内容が大幅に変わってしまったので、天候に左右されずに児童が学習する内容を代替的にであれ、十分に確保できるように次年度の行程を検討したい。そして、総合的な学習の時間との関連については、富士山の学習を事前学習で重点的に行なう展開ではなく、現地での学習から帰校後の学習と、より発展的な探究へとつながる単元の展開を今後考えていきたい。

大野田小学校

山梨県南都留郡山中湖村

6月12日～6月14日(2泊3日)

参加人数 男子71名 女子64名
計135名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・世界遺産の富士山周辺の自然や文化について、体験的な学習を通じて知り、大切にしようとする心を育む。
- ・富士山周辺の文化や自然に対して、武蔵野市との違いや共通点に目を付けながら課題を設定し、調べ追及する力を養う。
- ・学習を通して学んだことを分かりやすく整理し、下級生へプレゼンテーションすることで伝える力を育成する。
- ・宿舍での生活を通して、友達と協力し、助け合いながら生活する態度を養う。
- ・保護者の元を離れ自主的・自発的に生活する体験を通して、自立心を育む。

○日程表

6月12日(水)		6月13日(木)		6月14日(金)	
7:15	学校集合、出発式、出発 【1・2組】 10:00 富士山トレッキング →昼食 →富士山レーダードーム館 →鳴沢氷穴 【3・4組】 10:00 鳴沢氷穴 →富士山レーダードーム館 →昼食→富士山トレッキング	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
		6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操、集合写真
		7:15	朝食、宿舍発	7:45	朝食
		9:30	河口湖フィールドセンター (2交代制) Aガイドウォーク Bクラフト体験	9:00	閉校式
		11:45	昼食	9:30	バス乗車
		12:45	バス乗車	10:00	忍野村散策
		13:30	湧水の里水族館・森の学習館 (3交代制) A水族館ガイド B水族館自由見学、C森の学習館	10:30	ほうとう手打ち体験
		15:30	宿舎着、班長会	※4つの宿に分かれて活動 ※含む昼食	
16:15	宿舎着、開校式 避難訓練、荷物整理	18:00	夕食	13:00	バス出発
18:00	夕食	19:00	手紙を送ろう(ハガキを書く)	15:30	学校着、帰校式、解散
19:00	学習の記録、入浴		入浴、荷物整理		
20:45	健康観察	20:45	健康観察		
21:00	就寝準備、消灯	21:00	就寝準備、消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてや、集団行動、集団生活のルール、公共施設利用のマナーについてしおりや資料をもとに確認を行った。
- ・富士山の自然・文化・人々の暮らしなどをキーワードに調べ学習を行い、自己の学習課題や観察の視点をもった。またインターネットを活用して自分の学習課題を追究し、各自が新聞の形でまとめて伝え合った。
- ・生活班の中で係分担をし、それぞれの係で集まって事前打ち合わせを複数回行った。やるべき活動を明確化させ、責任感をもたせた。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで学んだことを、班ごとに学習者用コンピュータを使ってスライドにまとめた。また、来年度プレセカンドスクールに行く3年生に対して、プレセカンドスクールを通して学んだことや楽しさについての発表する活動を設定した。「スライドのまとめ方」「写真の見せ方」「話し方や目線」など分かりやすく伝える方法を意識しながら準備を行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山トレッキング

地面の様子や武蔵野市で見られる植物との違いなどに注目しながら、奥庭周辺をトレッキングした。山岳ガイドに質問をしながら、熱心に観察する児童の姿が見られた。鉄を含む赤黒い地面や空気の薄さなど富士山の厳しい環境の中で生育している高山植物についての知見を広げた。

2 鳴沢氷穴

鳴沢氷穴は今から約1,150年前の噴火でできた溶岩洞窟である。事前学習で鳴沢氷穴について調べていた児童も多かったが、実際に体験したことで、洞窟内外の気温の差を肌で感じることができた。洞窟内で見られた巨大な氷柱や自然が作り出した神秘的な空間に、児童は驚きとともに感動していた。

3 ガイドウォーク(河口湖フィールドセンター)

河口湖フィールドセンターでは、ガイドウォークとクラフト体験を行った。ガイドウォークでは、溶岩樹形といわれる溶岩の穴を実際に通ったり、落ち葉が重なるふかふかの地面を歩いたりしながら、富士山の地形について学びを深めた。リスが松ぼっくりを食べたあとの「森のエビフライ」と言われるものを実際に見るなど、普段見られない動植物の姿に触れることもできた。



【溶岩樹形の穴を通る児童】

＜社会体験活動＞

1 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、はじめにミニシアターを見ることで、富士山レーダーが必要とされてきた理由や、富士山に施設を作るまでの人々の努力、気象や防災に対しての理解を深めた。班ごとの自由行動では、クイズラリーの答えを探して、声を掛け合いながら展示物を見ることができた。富士山頂の寒さ体験では、今まで体験したことのない寒さを肌で感じ、富士山頂の気候の厳しさを実感することができた。

2 湧水の里水族館、森の学習館

大規模校なため3グループに分け時間で交代しながら、水族館のガイド解説、水族館の自由見学、森の学習館見学を行った。富士山の湧水を使った淡水魚専門の富士湧水の里水族館は職員の方の案内を聞きながら見て回った。流水水槽は、実際の川を再現しており、イワナやヤマメの様子を間近に見ることができた。海に生息する魚とは違う点に注目しながら、富士山周辺の川に生息する魚について学ぶことができた。森の学習館では、富士周辺の木の実や種子、動物のはく製が集められていた。展示物を実際に手に取って触れながら、職員の説明を聞いた。本校職員作成のクイズラリーに取り組んだりした。これらの見学を通して、自然の多様性や生態系についての理解を深めることができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り

4つの民宿に分かれて山梨県の郷土食であるほうとうを作った。生地を混ぜ、捏ね、伸ばし、包丁で切るまでの行程を一人一人が体験した。民宿の方から、ほうとうの歴史や由来の話を聞いたりできた。ほうとうを昼食として味わったりすることで、郷土食の素晴らしさや自分で食事を作る喜びを感じることができた。



【ほうとう作り】

○児童の感想

- ・事前学習で鳴沢氷穴について調べ、どんな感じだろうとずっと行きたいと思っていました。実際に行ってみるとその壁のごつごつした感じや洞窟内の寒さにびっくりしました。
- ・自分で作ったほうとうがとてもおいしくてびっくりしました。こねたり、伸ばしたりするのは難しかったけど、班のみんなで協力してうまくできました。切るのが楽しかったです。
- ・3日間みんなで集団生活をするなかで、助け合う大切さが改めて分かりました。特に時間を守る事が大切だと思います。「5分前行動」をこれからも意識したいです。
- ・集団生活の中では、自分が遅れてもいいけれども、自分だけができて意味がない。みんなで助け合う事が大切だと思います。次のセカンドでも気を付けたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・事前学習の時からセカンドスクールや普通の学校生活につなげること、また自分たちの経験を3年生に伝えてつなげていくことを意識しながら学習に取り組むことができた。
- ・主に、自然観察の仕方や課題解決学習の学び方を積み上げた。現地で培った自然を視る目、味わう心はセカンドスクールの学習課題の調べ方や学んだことのまとめ方につなげたい。
- ・友達との集団生活を通して、一人一人役割を担って活動する経験を積んだことにより、児童の自主・自立・協力の心を養うことができた。また、荷物の準備、5分前行動、部屋の整理整頓、宿泊活動時の感染予防など、生活上のルールやマナーを再確認するよい機会となった。セカンドスクールに向けて、自分はできるという自信と、次回はここに気を付けたいという新たな目標をもつことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

1 事業評価

- ・児童に行った事前・事後のアンケートでは、「生きる力」と「心理的・社会的能力」の項目で全体として伸びが見られた。その中でも、「先を見通して自分で計画が立てられる」「自分で問題や課題を見付ける」「嫌な事は嫌と言える」の項目で、強い肯定的な意見が10%以上増えた。今回の集団生活を通じて、自ら行動する意識や課題解決学習における自立的に取り組む力が高まった様子がうかがえた。
- ・「季節の変化を感じることができる」で3%、「早寝、早起きができる」で7%、「暑さ寒さに負けない」で4%、「小さな失敗を恐れない」で5%肯定的な意見が増えた。プレセカンドを通して身近な自然への興味関心の広がりや、集団生活の様々な出来事を通して自信がついてきたことがうかがえる。
- ・「人の話を聞くことができる」「わがまを言わない」では、それぞれ5%程度、肯定的な意見が減少しているが、否定的な意見はさほど変わらない。集団生活を通して、自分自身を見直し、できていることでできていないことを自覚した結果、自分自身を厳しく評価したのではないかと考えられる。

2 活動の振り返り

- ・今年度は、活動を精査し数を減らすことで、宿舎に着いてから児童が生活班で行動する時間を確保した。児童同士で声を掛け合い次の活動を見通して行動したり、学習を振り返ったり、自由時間の過ごし方を考えたりすることは、「生きる力」育成により影響を与えることができたと感じている。また、ほうとう作りやガイドウォークなど、今年度小グループで行う活動を増やしたことで、児童一人一人の体験を充実させることができた。
- ・今回のプレセカンドスクールは、児童が集団生活を初めて強く意識し、自分を変えていこうとするよい機会になった。協力や自律した行動を心掛ける姿が日を追うごとに増えていった。その意識はプレセカンドスクール後も継続している。担当教員として、運動会が秋の本校においては、春に実施することは、集団生活・集団行動を意識するよい機会となったと感じる。

境南小学校	山梨県南都留郡山中湖村
9月11日～9月13日(2泊3日)	参加人数 男子58名 女子41名 計99名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・地形や気候を生かした自然体験を通して、働く人々の工夫を理解すると共に富士山周辺の自然に親しむことを通して、自然の素晴らしさを感じ、自然と自ら関わろうとする心情を育む。
- ・地域の伝統食に触れ、その土地の風土に根差した文化への関心を高める。
- ・体験活動や地域の人との交流を通して、自ら課題を解決しようとする意欲や態度を育てる。
- ・課題を解決するため、調査活動を通して、情報を分かりやすく整理する力を養う。
- ・集団行動する中で、互いが気持ちよく過ごせるように、生活の約束を守り自分の責任を果たせるようにする。
- ・現地の方々と関わる活動を通して、宿泊地における諸課題を自分事として捉え、よりよい地域、社会づくりについて考える力を育む。

○日程表

9月11日(水)		9月12日(木)		9月13日(金)	
7:55	学校集合	6:30	起床・検温・洗顔	6:30	起床・検温・洗顔
8:20	出発	7:00	朝の会	6:45	準備・片付け
10:30	富士山レーダードーム館見学	7:30	朝食	7:20	朝食
11:30	昼食		部屋の清掃	8:00	清掃
12:30	富士山レーダードーム館出発	8:50	宿舎前集合	8:30	閉校式
13:00	鳴沢氷穴見学	9:00	ほうとう作り	8:50	宿舎出発
	青木ヶ原樹海ハイキング	12:00	昼食	10:00	富士山五合目到着
	富岳風穴見学	12:45	片付け	10:30	五合目トレッキング開始
15:00	富岳風穴出発	13:00	ネイチャーラリー	11:30	五合目トレッキング終了
15:40	宿舎着・開校式・避難訓練	16:00	入室・荷物整理	11:45	昼食
17:00	入浴	17:00	入浴	13:00	富士山五合目出発
18:30	夕食	18:30	夕食	15:15	学校到着
19:30	レクリエーション	19:30	レクリエーション		帰校式
20:20	健康観察・明日の準備	20:20	健康観察・明日の準備		
20:40	就寝準備	20:40	就寝準備		
21:00	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・オリエンテーションでは、昨年度のプレセカンドスクールや今年度の実地踏査の様子を写真で見せながら活動内容に見通しをもった。
- ・生活班の係ごとに事前の話合いをし、やるべき活動を決め、責任感をもって取り組むようにした。
- ・国語科「パンフレットを読もう」の単元と関連させ、事前に富士周辺の調べ学習を行った。

2 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールで体験した活動を感想文にまとめた。
- ・国語科「未来につなぐ伝統工芸」で、自然体験等を通して学んだことを他の情報と共にリーフレットにまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 鳴沢氷穴・富岳風穴見学・青木ヶ原樹海ハイキング

風穴や氷穴では、地上から一步洞窟内に入ると、その寒暖差に子どもたちはとても驚いていた。寒冷を利用して、繭玉として保管に使われていた様子を見学したり、火山の噴火による溶岩の流れからなる自然事象に興味・関心をもったりすることができた。

2 ネイチャーラリー

原始時代のくらしを体験する自然体験活動は、自然の素晴らしさと災害時の臨機応変な対応について知る機会となった。活動の中では、日々の生活でできない体験活動を行うことができた。

3 富士山トレッキング

富士山五合目周辺における動植物、景観、地形、地質等について知る機会となった。ガイドに詳しく教えてもらい、富士山独自の自然環境に驚きを隠せない様子の児童が多かった。また、すぐに雲であたりが見えなくなったり天気がよくなったりするなど、山の気候の変化の激しさを実際に体感する機会となった。



【トレッキングの様子】

＜社会体験活動＞

1 ほうとう作り

ほうとう作りでは、山梨県の代表的な郷土料理を小麦粉から自分たちで作って食べたり、稲作が適さない山間部で、米に変わる主食として昔から親しまれていた時代背景などを学んだりすることを通して、土地や文化に関心をもつことができた。

また、各学級で作ったほうとうの食べ比べを行い、学級ごとに味や風味、ほうとう麺のコシの違いなどに驚き、楽しみながら食事を行うことができた。

＜生活・文化体験活動＞

1 富士山レーダードーム館

富士山レーダードーム館では、富士山の噴火による環境の変化や、富士山頂で行われていたレーダー観測について体験を通して知る機会となった。富士山レーダーの歴史や気象観測について映像・展示資料を参考に説いていくクイズラリーや、富士山の頂上の寒さを体験する「ブリザード体験」を行い、実感をもって自然の偉大さについて学ぶことができた。

○児童の感想

- ・鳴沢氷穴、富岳風穴では、穴に入った途端、寒くなることに驚きました。また、雨水がたまっているのかなと予想しながら見学をしました。家で調べてみたいです。
- ・ほうとう作りでは、生地を伸ばす時、力を入れるのが難しかったです。体重をかけてこねないととまらないので大変でした。でも、完成したほうとうを食べている時に教えてくれたネイチャーラリーの方から褒めてもらいとてもうれしかったです。
- ・富士山レーダードーム館のブリザード体験では、予想しているよりも寒く、富士山の頂上はこれだけ寒いのかと驚きました。
- ・ネイチャーラリーでは、火おこしが難しかったです。しかし、何度もやっていくと、コツがつかめて火がついた時、友達に褒めてもらいうれしかったです。
- ・プレセカンドスクールでは、時間を意識できず、集合時間に間に合わないことがありました。時計を見て行動することをこれからの学校生活で意識していきたいです。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

今年度は「考える」をテーマとし、子どもには、次に向けてどのような行動をすればよいのかを考えることを指導してきた。友達と協力して集団生活を送る中で、声を掛け合ったり、支え合ったりして生活のルールや時間を守ろうとする姿が見られた。セカンドスクールでも仲間と協力してルールや時間を意識することができると考えている。

また、今回の宿泊活動に緊張や不安を抱く子どもも多かったが、プレセカンドスクールで友達と楽しく過ごすことができたという自信をもつことができた。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査の結果「花や風景などの美しいものに感動できる」という項目が事前から事後にかけて 15 ポイント向上した。鳴沢氷穴や富岳風穴、富士山五合目などの武蔵野市にはない自然を目にし、驚きと興味をもったことで向上したと考える。
- ・「ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」という項目が事前から事後にかけて 20 ポイント向上した。ほうとう作りを通して包丁を使い、自分たちで完成させたという達成感から向上したと考える。
- ・2 日目に行ったほうとう作り、ネイチャーラリーでは、子どもたちが声を掛け合って積極的に活動する姿が見られ、達成感をもつことができた。
- ・3 日目に富士山五合目トレッキングを行った。ガイドの方から、富士山の自然について詳しく説明をしてもらった。子どもたちは興味をもちながらトレッキングを行い、充実した時間を過ごすことができた。しかし、最終日だったため、子どもにも疲れが見えていた。来年度は、最終日は、宿舎近辺で活動できる行程を考えたい。
- ・プレセカンドスクールを行い、1 番の成果として挙げることは子どもたちがそれぞれ自分の役割に責任をもって行ったことである。3 日間の生活をする中で同じ部屋班、行動班で声を掛け合いやり切ったことは、今後の学校生活や来年度のセカンドスクールにも生かされることである。子どもたちは実施前に比べて学校生活で自信をもって過ごしており、積極的に友達とコミュニケーションを取りながら生活をしている。境南小学校は、子どもの主体性を大切にしている。今回のプレセカンドスクールを通して、一層子どもたちの主体性を高めることができた実感している。

本宿小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子28名 女子30名
計58名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・自然と調和して生きることの大切さやよさを理解する力
- ・自然の美しさや力強さに感動する心
- ・自ら学びたいことを選び、追求したい課題を具体的に設定する力
- ・自分の課題を解決するための情報を集め、整理し相手に伝える力
- ・自分にできることを主体的に考え、人と協働する力
- ・自分の生活を見つめ、改善、向上させようとする前向きな姿勢

○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
8:20	出発(五日市街道)	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:55	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食	7:30	朝食
11:20	奥庭駐車場(トイレ)	9:00	ほうとう作り	8:10	部屋の清掃
11:30	富士山五合目トレッキング	11:30	昼食・片づけ	9:15	閉校式
15:00	富士山世界遺産センター	13:30	学年レク(体育館)	9:30	宿舎発
16:45	宿舎着・開校式・避難訓練	14:45	宿舎発	11:00	一久園にてぶどう狩り
18:00	荷物整理・学習の記録	15:30	富士湧水の里水族館着	13:00	一久園発
19:00	夕食	16:45	富士湧水の里水族館発	14:00	談合坂SA(トイレ休憩)
19:45	ナイトハイク(月・星観察)	17:45	夕食	14:40	学校着・帰校式
21:00	入浴・学習の記録	19:00	入浴・学習の記録	15:10	解散・下校
21:20	班長会議	20:10	班長会議・部屋レク		
21:30	健康観察・明日の準備	21:00	健康観察・明日の準備		
21:45	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に山梨県の位置や気候などを確認し、知っていることについて全体で情報を出し合った。その後、山梨県（富士山）の自然や文化について、自分が興味をもった課題を個人で調べ、スライドにまとめる学習を行った。それをグループで発表して、情報を共有し、興味・関心を高めた。
- ・学年で、何のためのプレセカンドスクールなのか、その目的（めあて）を共有するためのオリエンテーションを行った。同時に宿泊や集団生活におけるルールやマナーについても学級で話し合い、その必要性を考えた。
- ・自分の役割に責任をもつことや自立した行動ができることについて改めて意識を高めるため、各班のめあてや役割分担を話し合い、準備を行った。

2 事後の学習内容

- ・キャリアパスポートを使って、自分がかんばったことや身に付けたこと、集団生活で学んだことの振り返りを行った。
- ・事前に調べたことが実際にどうであったのか、一番心に残ったことや楽しかったことについて作文でまとめた。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山トレッキング

現地のエコスクールの方がガイドをしてくださり、富士山五合目御中道のトレッキングを行った。気温もちょうどよく、雨の心配もない中、予定の道順を最初から最後まで歩き通すことができた。富士山が青と白のイメージとはちがうことや、ごつごつしているけれど穴がたくさん空いていて軽い溶岩石、五合目ですでに雲より高いことなど、普段はなかなか見られない雄大な自然の姿を実際に見るよい機会となった。

また、エコスクールの方にガイドしていただき、大きな噴火口や厳しい自然の中の動植物の様子についての話を聞いて、事前学習で調べたことや興味をもったことについて、確認したり、質問したりする姿も見られ、より学びを深めることができた。



【富士山トレッキング】

2 ナイトハイク

宿舎のキャンプ場を使わせていただき、グループごとに順番に出発し、懐中電灯1つで夜の自然を楽しむ時間を設けた。明かりがほとんどない夜の暗さや、日常生活ではなかなかじつくと聞き入ることのできない虫の声、星座を見つけることが難しいほどにたくさん見える星空を実際に見聞きし、驚くとともに、自然の豊かさを体感することができた。

＜社会体験活動＞

1 富士山世界遺産センター

富士山全般についての映像学習とガイドによる説明を聞きながらの見学を行った。「富士山がなぜ世界遺産に登録されたのか」、「なぜ人気があるのか」、「富士山の歴史」などについて学ぶことができた。工夫された展示物と説明で、トレッキングで見たり学んだりしてきたものと照らし合わせて話を聞く姿が見られた。

2 ぶどう狩り体験

雨の予報で天候が心配されたが、ぶどう棚にぶどうがたくさん実っている景観に、子どもたちの楽しい気持ちがさらに増したようであった。初めて体験する子も多いため、農家の方のぶどうの採り方や種類、工夫などの話を聞いてから、ぶどう狩りが始まった。実際にぶどうを採る時には、農家の方が、一房ずつたくさんの工夫をしながら大切に育ててきたこと、立派に育つとうれしい気持ちになることなどを実感しながら体験することができた。また、自分が選んだぶどうはお土産となるので、農家の方のアドバイスを聞きながら、大きくておいしそうなぶどうを真剣に探そうとする姿も見られた。

＜生活・文化体験活動＞

1 ほうとう作り体験

富士山ネイチャークラブの方々に教えていただきながら、山梨県の郷土料理であるほうとう作りを行った。料理の経験がない子が多かったが、安全に配慮しながら、野菜を切ったり、麺を粉から作ったりする過程を体験することができた。麺づくりでは、グループごとに、大きなボウルをみんなで支え合いながら力を込めてこねたり、お互いにコツを教え合ったりと、協力しながら作り上げようとする姿が見られた。クラスごとに煮込む鍋が用意されたことから、互いのクラスの味を比較し、違いを伝え合う姿が見られた。それぞれの家の好みの味つけができることや具材によって味が変わることなども知り、郷土料理の奥深さにも目を向けることができた。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・本当の富士山は思っているよりもものすごく大きかったです。動画や写真より迫力がありました。富士山を甘く見ていたのかもしれませんが。
- ・私は星に興味がありませんでした。けれどプレセカンドスクールに行って星を見たら、星に興味をもてました。星のことについてもっと知ってもっと調べて友達と話したいです。
- ・麺をこねるのがすごく難しかったです。その後、麺を伸ばす作業をしました。伸ばすコツは自分の体重をかけて前に押したら少し後ろに引いてとくり返すそうです。つくった麺を切りました。すごくいい香りがしました。
- ・わたしは一番最初に伸ばす作業をやったので、早く終わりました。後でやる子たちに、「もう

ちょっと打ち粉をした方がいいんじゃない。」などのアドバイスをしました。それはそれで楽しかったです。

- ・いろいろ学び、みんなとの協力ができました。この協力ということがどれだけ大切かがわかり、みんなとの仲間意識も深まり、時間も守れるようになりました。これをこれからの生活に生かそうと思います。
- ・このセカンドスクールで、自分一人で行動するのは不可能だなと思いました。友達を大切にしようと改めて思いました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

事前の学年オリエンテーションで、武蔵野市とは違うところで武蔵野市ではできない体験をするセカンドスクール、その練習で行くのがプレセカンドスクールであることを子どもたちに伝えた。それを基に、2泊3日の宿泊体験を通して、友達と協力して行動することや集団生活でのルールやマナーを守ることの大切さを実感させた。特に時間を守って行動することを意識させるために、やらなければいけないことを早めに済ますことができれば、部屋レクなどの楽しい時間が作れることを伝えた。これが、次の行動までに必要なことを考えながら行動したり、みんなで協力して早めに行動したりすることにつながった。また、ほうとう作りから笹団子作り、ぶどう狩りから稲刈りなど、今回体験したことをさらに発展させるプログラムがセカンドスクールで用意されていることで、この体験がつながっていることを子どもたちも実感し、次年度に生かすことができると考えている。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・昨年度の反省を生かし、4年生という発達段階を考慮して、移動の少ないプログラムにしたところ、体調を崩す子も少なく、落ち着いて一つ一つの活動に取り組めた。
- ・子どもは初めて集団宿泊学習を経験し、「時間を守って行動すること」や「班の人と協力して行動すること」などの集団生活の基礎・基本を学ぶことができた。今後の学校生活や来年度のセカンドスクールに向けて大きな成果があった。
- ・今年度の事業評価（子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査）では、身体的能力が1.29ポイント向上していた。富士山トレッキングを数年ぶりに予定通り歩き通せたことが子どもたちの自信につながったのではないかと見受けられる。また、調理経験の少なかった子どもたちが、ほうとう作りを体験したことで、刃物を上手に使えると感じることができたのではないかと考えられる。「自分からすすんで何でもやる」「先を見通して、自分で計画を立てられる」などの項目についても肯定的な回答をしている子が10%ほど増えており、自分たちで考え、協力しながら行動した3日間の体験で、自己肯定感も高まり、全体的に生きる力が向上したと考えられる。

千川小学校

山梨県南都留郡富士河口湖町

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子26名
計60名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山周辺の自然や文化について、事前の調べ学習や体験的な学習を通して知り、大切にしようとする態度を育む。
- ・自分で設定した課題について、情報収集したり体験したりして得た情報を、相手に伝える意識をもって分かりやすく整理し、まとめ、表現する力を育む。
- ・集団生活を通して、集団生活の基礎を身に付けるとともに、互いのよさを生かしながら生活する態度を育む。
- ・現地の文化や人々の工夫、苦勞を知り、積極的に社会参画しようとする態度を育む。

○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:40	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:40	朝食	7:30	朝食
11:00	富士山新五合目ハイキング	9:30	紅葉台ハイキング	8:45	閉校式
	昼食	11:30	ほうとう作り体験	9:40	菱山共選所見学
13:30	青木ヶ原樹海トレッキング	14:00	富士山科学研究所	11:00	ぶどう農家作業体験
14:10	富岳風穴見学	17:30	入浴	12:45	昼食
15:15	宿舎到着・開校式	18:30	夕食	15:20	学校到着
16:00	河口湖畔散策		学習の記録記入	15:45	解散
17:00	夕食	19:30	学年レクリエーション		
18:10	星空観察	20:15	班長会議		
19:00	入浴・学習の記録記入	20:35	検温、健康観察		
19:50	班長会議	21:15	就寝		
20:15	検温、健康観察				
21:15	就寝				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間のテーマを「共に生きる Part. 2 外国の人と一緒に～」とし、プレセカン

ドスクールで見学したり体験したりするものの中から、外国の人に伝えたい「日本のよさ」を考え、課題設定を行った。

- ・各々の課題から小テーマを2～3つ設定し、インターネットや書籍などを使って情報収集を行った。また、現地でさらに詳しく知りたいことを事前にまとめた。
- ・夜の星空観察の際、星の明るさや色に着目しながら観察ができるように、理科「星の明るさや色」の学習の中で、星座早見盤の使い方や、夏の大三角の位置について確認した。
- ・初めての宿泊学習に不安を抱えている児童も多かったため、3日間の活動を具体的に想像できるように、スライドを用いて現地の写真を見せながらオリエンテーションを行った。
- ・実行委員、レク係、班長など、全員が一人一役を担えるような役割を設定した。実行委員が学年スローガンを作成したり、レク係が自分たちで企画・準備をしたりと、「自分たちで創る」ことを意識できるような指導を行った。

2 事後の学習内容

- ・生活班、行動班ごとに、めあてに沿って振り返りを行う時間を作った。班ごとの振り返り後に個人で振り返る時間もと、「今後になりたい自分」を意識しながら、キャリアパスポートに記録した。
- ・総合的な学習の時間の事後学習として、同じテーマごとにグループを組み、事前の調べ学習や現地での情報を整理してまとめた。その際、発表する相手を意識させた上で、「発表方法の選択」「資料の見せ方の工夫」「話し方や目線」などを考えさせた。

〇特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 富士山新五合目ハイキング

今年度からの新プログラムとして、富士山新五合目ハイキングを行った。総合的な学習の時間の探究テーマとして「富士山の岩石」「富士山の自然」「富士山の生き物」などを選択している児童も多かったため、眺めるだけではなく、実際に自分たちの足で登り、五感で確かめる活動を取り入れた。



【富士山新五合目ハイキング】

新五合目から登り始め、ゴールとする大石茶屋までは、大人の足でゆっくり登っても15分程度の道のりである。しかしその15分の中で、平地ではあまり見ない植物、標高が高くなるにつれ変わっていく景色、富士山の青のイメージとは違う黒い石など、様々な発見をすることができた。

2 青木ヶ原樹海トレッキング、富岳風穴見学

行動班のリーダーを中心に、鳴沢氷穴から富岳風穴までの青木ヶ原樹海でトレッキングを行った。溶岩によって生み出された土地の様子、今まで見たことのないきのこ、大自然の中だからこそ美しく聞こえてくる鳥のさえずりなど、東京ではなかなか味わえない自然の雄大さを感じ

じることができた。また、富岳風穴の見学では、想像以上の洞窟内の冷気に驚きの声があがった。洞窟の奥には、天然冷蔵庫を生かした蚕の蛹や植物の種が保管されており、昨年度育てていた蚕の学習と関連付けて考えたり、自然を生活に生かしてきた当時の人々の工夫に気付いたりすることができた。

3 富士山科学研究所

富士山科学研究所では、研究所スタッフによる室内での学習「映像で学ぶ富士山～富士山の動植物～」を受講した。プログラム内容は、富士山の植物の特徴や、富士山に棲む動物と人間との関わりについてである。小学4年生でも楽しく学べるように、クイズ形式を取り入れたり、実際の資料や映像を用いたりするものとなっており、45分間夢中で講義に集中していた。

また、プログラム受講後には、サイエンスラボの常設展示を自由見学させていただき、「富士山の自然」「岩石」などを探究テーマにしている児童を中心に、熱心にメモを取りながら見学する姿が見られた。

<社会体験活動>

1 共選所見学、農作業体験

J Aフルーツ山梨のご協力のもと、菱山共選所の見学と、ぶどうを収穫する農業体験を行った。共選所見学では、見学の前に質疑応答の時間をたっぷりと取っていただき、「ぶどう」を探究テーマにした児童を中心に、事前学習で疑問に思っていたことを1つ質問した。どの質問にもとても丁寧に答えていただき、インターネットや書籍からの情報だけでは分からなかったことを、現地の方の生の声で聴くことのできる貴重な機会となった。

その後、ぶどう農家の畑へと移動し、加工用の品種である「甲州」の収穫体験を行った。変色した実を切り落としたり、いっぱいになった重いコンテナを友達と協力しながら運んだり、お客さんのために手間暇かけて大切に育てていることを、作業を通して実感することができた。



【農作業体験】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り体験

1 グループ5人程度のグループに分かれ、山梨県の郷土料理である、ほうとう作り体験を行った。

料理経験のない児童も多い中、現地の方が各グループを回りながら、手取り足取り教えてくださり、どの班もおいしいほうとうができあがった。郷土のものをその土地で食べる経験や、友達と協力しながら料理をする経験を通して、文化や友達の大切さを感じる児童が多かった。



【ほうとう作り体験】

○児童の感想

- ・富士山に登ったときに、新しい発見をしました。それは、富士山の色は青と白だと思っていたけれど、実際は茶色と緑色だったことです。道も、高尾山みたいにコンクリートになっていると思っていたけれど、富士山は砂利でした。自分のテーマ「岩石」のスコリアも見られて嬉しかったです。
- ・プレセカンドスクールで学んだのは、「声掛けの大切さ」です。家では、毎朝家族が起こしてくれますが、宿では時間を教えてくれることはありません。同じ部屋の友達と声を掛け合いながら行動しないと、朝の集合時間やお風呂の時間が分からないので、「あと〇分でご飯だよ」「〇分で終わらせるよ」といった、声掛けをすることが大切だと改めて分かりました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊行事に対して不安を抱えている児童がいたが、協力することや、一緒に活動する楽しさを味わえたことで、不安が解消されている様子が見受けられた。来年度のセカンドスクールに向けては、宿泊数の増加による困難さは予想されるが、健康管理のためのカードへの記録や荷物の整理など、宿泊に関する「プレ」としての役目は大いに果たせたと感じる。
- ・学校では、調理実習以外に「口で味わう活動」がほぼない。そのため、プレセカンドスクールの「ほうとう作り体験」や「ぶどう農業体験」による、現地の食材を調理したり食べたりする経験は、児童にとって非常に貴重なものである。これらの活動をプレセカンドスクールで行うことが、セカンドスクールで行う「稲刈り体験」「農作業体験」「笹団子作り」などの、郷土食や伝統食を作る活動の価値を、より高めることになると思う。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では、事前、事後のアンケートを比較すると、「生きる力」の0.16ポイント向上、「身体的能力」の1.02ポイント向上が見られた。親元から離れての生活を成功させることができたという自信や、登山活動を完遂できたという自信を身に付けることができたと思われる。
- ・児童は、コロナ禍における活動制限の中で、学年全体でのレクリエーションの経験が少なかった。そのため、今回の実践では、レクの実行委員を発足させることから始め、学級活動での話し合いを通し、自分たちで企画実践し、しかも楽しめて満足を得る活動をすることができた。学年一体となる楽しさを味わえたことは、大きな成果であると言える。
- ・宿泊地が河口湖だったため、富士山に関する学習を進めるように計画した。しかし、新五合目からの登山設定が、宿泊地からやや遠く、登山自体の活動時間が短めであった。宿泊地を含めた活動場所の再検討をしてもよい。
- ・幸運にも天候に恵まれ、登山活動、屋外活動はほぼ計画通りに行うことができた。できることならば、屋内でもできる代替プログラムの検討が必要である。また、雨天でも活動できる準備が必要であると感じた。

井之頭小学校

新潟県南魚沼市

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子44名 女子52名
計96名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・南魚沼市についての事前の調べ学習や、現地での豊かな自然に触れる体験活動を通して、自然についての理解を深め、自然を大切にしようとする態度を養う。
- ・南魚沼市と武蔵野市を比較し、南魚沼市の自然や文化の特徴について理解を深める。
- ・自己の課題について、調べたり体験したりしながら情報収集を行い、分かりやすくまとめる力を養う。
- ・友達や現地の方との関わりを通して、自己の視野を広げ、探究活動に取り組む態度を養う。
- ・集団生活や行動班での活動を通して、他者とよりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:45	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:15	出発	7:00	朝食	7:00	朝食・大掃除
11:45	レイホー八海着	8:40	塩沢宿めぐり	8:00	荷物整理・部屋の清掃
12:00	昼食		牧之通り、牧之記念館、中島屋	9:00	笹団子作り体験
13:00	八海山ロープウェイ乗車			11:30	昼食
	散策	11:00	昼食	12:30	上越国際観光協会前集合
14:30	上越国際観光協会到着	12:45	各宿到着		閉校式
	開校式	13:30	樺野沢地区めぐり	13:00	バス乗車
15:00	各宿到着	14:30	交流会準備	16:30	学校着
16:30	勤労体験	16:00	ぬか釜体験	16:45	帰校式
17:00	健康観察	17:00	夕食	17:00	解散
18:00	夕食	18:00	入浴		
19:45	入浴	20:00	交流会		
21:00	就寝・消灯	21:00	就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・社会科では、南魚沼市の地形や特徴について調べ、地域の概要と東京都の地形の様子を比較して、現地で学ぶ意欲を高めた。

- ・社会科では、雪国のくらしの工夫が表れている牧之通りの概要について学び、牧之通りの現地学習の意欲を高めた。
- ・理科「星の明るさや色」で星の位置や名称について事前学習し、当日は星空を見ながら星座早見盤の使い方を確認した。

2 事後の学習内容

- ・フォームを活用して、個人で集団生活や様々な体験活動から学んだことを振り返り、成長したことや次の行事で生かせることを整理した。
- ・各学級で、宿ごとの体験や自然体験、文化や人々をテーマとして、プレセカンドスクールの活動を振り返った。また宿ごとに報告し合い、それぞれの体験で学んだことを振り返った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 八海山ロープウェイ見学

南魚沼市の地形や地層の特徴を知るために、ロープウェイに乗車し、八海山の上から南魚沼市を見学した。ロープウェイの中では木々の特徴を観察した。上からの見学では、これから活動する地区の場所を確認したり、その付近の山々を見たりすることで、山に囲まれている地形の特徴や、自然と共に生活している地域のくらしについて考えた。近くのスキー場を確認することで、天候や気温も武蔵野市とは大きく違うことに気づき、理解を深めることができた。

2 樺野沢地区巡り

南魚沼市のくらし方を理解するために、児童の宿泊場所である樺野沢地区の散策を行った。宿の周りのチェックポイントを周る活動を通して、広い水田があることや、小さい土地でも畑に利用していることに気付いた。また、宿の方の話を通して、農業が生活に強く結びついていることを理解した。

<社会体験活動>

1 農業・勤労体験

宿ごとに活動内容を考えていただき、農業体験や勤労体験を行った。宿ごとの畑に行き、耕運機を使ったり、農具を見ながら宿での仕事や、暮らし方を教えていただいたりした。宿の方との活動を通して、児童は農業の大変さや、天候や気温と上手に付き合っていくための工夫に気付いた。



【農業・勤労体験】

2 むか釜体験

3つの宿に分かれ、昔ながらのむか釜でお米を炊く体験を行った。宿の方が水田で収穫したお米を宿のむか釜で炊くということが児童にとっては新鮮であり、お米が炊ける様子を真剣に

見ていた。ぬか釜で炊いている際の香りや、音、温度に注目して観察し、おいしいお米が炊けるまでの工程の大変さを実感していた。また、夕食の時間になると、炊き上がったお米のおいしさに感動し、感謝の気持ちを深めた。

＜生活・文化体験活動＞

1 塩沢宿めぐり

雪国の暮らし方や、塩沢の歴史を学ぶために、江戸時代の宿場町が再現された塩沢宿や、牧之記念館、中島屋の見学を行った。塩沢宿めぐりでは、雪国の暮らしの厳しさや、そこで暮らす人々の工夫を学んだ。どこまで雪が積もるのかを見て驚き、生活の知恵や土地の特徴について理解を深めることができた。



【塩沢宿めぐり】

2 笹団子作り体験

新潟県の郷土料理の作り方を学ぶため、講師の先生や宿の方に教わりながら笹団子作り体験を行った。笹には殺菌作用があるため、保存食として知られていることや、五穀豊穡を祈る神事に欠かせないものであるなど、先人の知恵や地域の文化に根差した料理であることを学んだ。また、児童は東京都にも同じようなものがあるかとつぶやき、東京都と新潟県の文化の違いにも興味を示していた。

○児童の感想

- ・友達と3日間過ごすことで、自分から動くことの大切さを学びました。責任をもって係の仕事に取り組むことができました。学校でも自分の仕事や係に責任をもって取り組みたいです。
- ・南魚沼市と武蔵野市の違いや共通点を学ぶことができました。
- ・宿の人とのかかわりの中で、あいさつの大切さを学びました。自分たちの周りには協力してくれる大人がたくさんいることを感じました。
- ・友達との協力や、自分から動くことの大切さを知りました。また、周りのことを考えて相手のために行動することが大切だと学びました。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・自然に触れる体験活動を通して、東京都とは異なる自然や環境についての理解を深めた。セカンドスクールではより一層、現地の自然と関わりながら体験活動を行うことで、自然を大切にしようとする態度を育てていく。
- ・セカンドスクールと同様に民宿に分宿し、初めての宿泊を体験することで、自立の意識を高め、友達と協力して生活することの大切さを感じることができた。集団生活のルールを守り、互いに協力し合うことの大切さに気づき、集団生活に必要な基礎的知識や技能を身に付けることがセカンドスクールに向けての自信と意欲へつながると考える。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

<成果>

- ・昨年度までと比較し、農業体験、勤労体験など、よりセカンドスクールを意識した体験活動を多く取り入れることができた。
- ・時間にゆとりのあるスケジュールにしたことで、児童が落ち着いて準備や振り返りを行うことができていた。
- ・宿泊宿から活動場所までがいずれも近く、より多くの活動時間を確保することができた。
- ・児童の宿泊宿が近く、教員が児童管理を行いやすかった。
- ・観光協会と宿の方々が、セカンドスクールの受け入れに慣れているため、連携が取りやすかった。

<課題>

- ・昼食場所と体験場所が離れていたり、活動時間が間延びしてしまったりなど、行程に無駄があった。来年度以降は、昼食場所の変更や行程の入れ替えを行う。
- ・農業、勤労体験では、今年度は長靴を用意しなかったために活動が制限されてしまった。来年度は長靴を持参する。
- ・牧之記念館での学習は、4年生には内容が難しかった。来年度以降は見学場所を増やしたり見学時間を減らしたりするなど改善が必要である。
- ・宿の方との交流会では、泊数が少なく宿の方との交流を深めきれなかった。昨年度までと比較すると、宿の方との活動も多いため、来年度は1日目を行うことでより交流を深めていく。

<アンケート結果から>

- ・「生きる力」の項目が0.2ポイント、「身体的能力」の項目が0.5ポイントほど上昇した。昨年度と比較し、農業体験や勤労体験など、体験活動を取り入れたことが、児童の意識の変化につながったと考える。
- ・「心理的、社会的能力」の項目は0.2ポイントほど上昇していた。宿ごとの活動や、部屋で過ごす時間が多かったことで、児童同士の合意形成の時間を多く取れたことが有効だったと考える。
- ・「道徳的能力」の項目については、0.4ポイント減少した。今年度の活動では、児童同士の合意形成の場が多かったことで、より客観的に自分のことをとらえることができるようになり、厳しい評価になったのではないかと考える。

関前南小学校

静岡県島田市

9月11日～9月13日(2泊3日)

参加人数 男子40名 女子22名
計62名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・体験的な活動や地域の人の話から、動物や植物の生態についての理解を深める。
- ・体験的な活動や地域の人の話から、地形の様子や気候の特性についての理解を深める。
- ・事前学習で調べたことを発表したり、疑問点を質問したりすることができる。
- ・体験的な活動や地域の人の話から得た情報を整理して、新たな課題をもつことができる。
- ・地域の人たちをゲストティーチャーとして招き、感謝の気持ちをもって学ぼうとする。
- ・友達と協働的に学び、互いのよさを認め、多様性を尊重する態度を養う。

○日程表

9月11日(水)		9月12日(木)		9月13日(金)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
7:45	出発	6:50	朝食	7:00	朝食
11:45	蓬萊橋着	7:50	島田市野外活動センター山の家発	8:30	閉校式
11:50	昼食	8:00	千頭駅着	9:00	島田市野外活動センター山の家発
12:30	蓬萊橋見学	9:15	千頭駅発	9:25	KADODE OOTIGAWA
14:15	牧之原大茶園発		南アルプスアプトライン体験乗車		・緑茶ツアーズ
14:30	金谷製茶工場見学	10:12	長島ダム駅着 長島ダム見学		・お茶の淹れ方体験
15:30	金谷製茶工場発	11:15	バス乗車 長島ダム発	11:30	昼食
16:00	島田市野外活動センター山の家着	11:30	長島公園着 昼食	12:30	出発
16:05	開校式	12:00	散策	16:30	学校到着 帰校式
16:10	入室・避難訓練	13:15	資料館やまびこ着・資料館やまびこ発	16:40	学校解散
17:00	入浴・学習の振り返り	14:15	島田市野外活動センター山の家着		
18:10	夕食	15:00	自然体験学習 水生昆虫観察		
19:10	明日の準備	17:00	入浴・学習の振り返り		
19:30	星の観察	18:30	夕食		
20:00	健康観察	19:10	明日の準備		
21:00	就寝・消灯	19:30	星の観察		
		20:00	健康観察		
		21:00	就寝・消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・お茶、大井川鐵道、水生昆虫、つり橋、ダム等、自分が探究したいテーマを見付け、インターネットを活用した調べ学習で課題解決の見通しをもたせた。
- ・地域の農家での茶摘み体験や、お茶のインストラクターを招いて製茶体験をした。
- ・宿舎での係を決めたり、過ごし方について話し合ったりした。出発式や帰校式の役割分担をし、児童が主体的に進められるようにした。

2 事後の学習内容

- ・国語科で、プレセカンドスクールで学んだことや生かしたいことを作文にし、まとめた。
- ・総合的な学習の時間に「3年生にプレセカンドスクールについて伝えよう」をテーマにして、まとめの学習を行った。事前に調べたことや体験したことについて、学習者用コンピュータのスライド機能を使ってプレゼンテーションを行った。

○特色ある学習内容

<自然体験活動>

1 水生昆虫観察

ゲストティーチャーを招き、伊久美川の河原で水生昆虫を採集して観察した。石の下の生き物を採集することにより、環境と生き物の暮らしについて考えることができた。



【水生昆虫観察】

2 自然散策

資料館やまびこの職員の方に案内してもらいながら自然散策をし、途中にかかる木の橋や吊り橋を7箇所渡った。歩きながら自然豊かな川根本町の良さに気付くことができた。

<社会体験活動>

1 蓬莱橋を渡る

風雨に耐えられるよう、できる限り釘を使わずに木を組み合わせて造られていることや、橋ができる以前は、人々が苦勞をしながら協力して川の向こうまで荷物を運んだこと、そして、川の両岸に広がる茶畑を往来するために、橋が重要な役割を担っていること等を学んだ。

2 牧之原大茶園フィールドワーク

大井川を見下ろす高台に広がる大茶園を歩いた。JAおおいがわの職員の方にお茶について分かりやすく解説していただき、大茶園の開拓に尽力した人々の歴史や、防霜ファンを回すことで茶の新芽が傷まないように工夫していること、お茶を飲む人々が減っている現状などを学んだ。



【牧之原大茶園】

3 金谷製茶工場の見学

茶農家が加工した荒茶を製茶する工程を見学した。製茶は、大まかに「蒸す→揉む→乾燥させる」3つの工程に分けられることを学んだ。冷蔵庫の中に入り、温度管理をしてお茶が保管をされていることを知った。また、機械で製茶されたものを最終的に人の手で段ボールに詰め、お店に並ぶことを学んだ。



【金谷製茶工場見学】

4 大井川鐵道アプトライン体験乗車

機関車を連結する場面を見学したり、トンネルと鉄橋の多さや車窓から見える急峻な稜線を見たりしながら、アプトラインの仕組みや大井川上流部の地形を学んだ。

5 長島ダムの見学

ダムを見下ろす高台からダムの下まで徒歩で下り、ダムの下に架かるしぶき橋を渡ることにより、ダムの大きさを体験的に学んだ。また、しぶき橋からダムの放水の様子も見学し、さらに、ダムカードの裏面の情報から、ダムの役割を学んだ。



【長島ダム見学】

<生活・文化体験活動>

1 お茶の淹れ方体験

KADODE OOIGAWA では、緑茶ツアーズで自らが茶葉となり、製茶される疑似体験を経験した。また、お茶の淹れ方についても体験的に学んだ。同じ茶葉から、緑茶や紅茶、ほうじ茶が生産されることや、蒸す時間や乾燥させる時間が違うと緑茶の色や、甘みと苦みの違いがでることを学習した。

2 KADODE OOIGAWA の方々の話

施設の開設に向けての人々の思いや、島田市の良さを伝えるために多くの取り組みや工夫がされていることを学んだ。お茶についてだけでなく、静岡県で作られている商品についても知ることができた。

○児童の感想

- ・人に質問することが苦手だったが、プレセカンドスクールに行ったら、たくさん質問できるようになった。
- ・自分のことを自分するのは大変だったけど、自分のことは自分でする大切さが分かった。
- ・武蔵野市を離れて生活して、みんなと協力することが大切なんだと改めて思った。また、自分で時計を見て行動することができるようになった。
- ・学校でも時間に余裕をもって5分前行動ができるようにしていきたい。
- ・KADODE OOIGAWA や製茶工場で話を聞いたり、体験したりしたことで、お茶について詳しく知ることができた。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

- ・初めての宿泊を伴う学習なので、自分の持ち物を管理することや集団生活の心構えについての指導に重点をおいた。
- ・一人一役にすることで、全児童が何らかの役割に責任をもって行う場を設定した。それぞれの役割を果たすことができるよう、準備から当日の実施に向けての指導を行った。
- ・ゲストティーチャーの方との交流を大切に、挨拶や感謝の言葉が言えるよう指導した。
- ・指導員の先生方の指示を聞いて行動ができるよう指導した。
- ・体験したことを3年生に伝えるために、学習者用コンピュータを活用したスライド作成について指導した。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・集団生活を通して、友達と協力して生活することや時間を意識して行動することなど、学校生活とは違った環境の中で学習することができた。
- ・牧之原大茶園フィールドワークは職員の説明を受けながら、茶畑の規模を体験的に学ぶことができた。また、事前に関前地区の畑で茶摘み体験をしていたことも茶畑の広さを理解することにつながった。
- ・水生昆虫の観察は、静岡県内水面漁連の職員を招聘して行った。大井川に生息する生物及び、武蔵野市との環境面の違いも比較しながら学習できた。
- ・金谷製茶工場では、なかなか見ることができない製茶をする工程を見学できた。お茶を出荷するためにどのような工程を踏んでいるかを学んだ。
- ・長島ダムでは、様々な角度からダム湖を見ることができた。
- ・家族のために自らお茶を淹れる児童が増えた。お茶や林業など働く人たちの思いや抱えている課題を知ることができた。
- ・子どもたちの「生きる力」を測る事業評価では、事前より全体的にポイントが下がっていた。これは、児童自身が自分を見つめ直し、自身の課題について気が付くことができたからではないかと考えられる。
- ・子どもたちの「生きる力」で一番数値が下がっていたのは「道徳的能力」の「自分勝手なわがままを言わない」と「人の痛みがわかる」であった。道徳や学級活動の時間に取り上げ、相手のことを思いやり、すすんで親切にしようとするなどの心情を育てていく。



【蓬萊橋見学】



【KADODE OOIGAWA 緑茶ツアーズ】

桜野小学校

山梨県南都留郡山中湖村

9月4日～9月6日(2泊3日)

参加人数 男子75名 女子67名
計142名

○プレセカンドスクールで育成を目指す資質・能力

- ・富士山の自然に触れ、周辺の自然について理解を深める。
- ・富士山や山中湖周辺での活動を通して、武蔵野市とは異なる文化や人々に触れ、理解を深める。
- ・進んで調べたり行動したりし、自分で課題を解決する力を身に付ける。
- ・情報を収集したり分かりやすくまとめたりし、学んだことを発信することができる。
- ・宿舎での集団生活や行動班での活動を通して、友達と協力し合いながら、自主的に生活する力を身に付ける。
- ・全員で集会活動をつくり上げ充実感や達成感を味わい、集団への所属感や連帯感を高める。

○日程表

9月4日(水)		9月5日(木)		9月6日(金)	
7:35	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発式	7:00	朝の会	7:00	朝の会
8:00	学校出発	7:30	朝食	7:30	朝食
11:05	昼食	9:00	ネイチャーラリー	8:20	大掃除
12:00	富士山トレッキング	11:50	昼食	9:10	閉校式 宿舎発
16:00	宿舎着 開校式	13:00	富士湧水の里水族館着	10:30	ほうとう作り体験
16:30	探求学習のまとめ	15:00	宿舎着	11:50	昼食
18:00	夕食	15:30	探求学習のまとめ	15:45	学校着 帰校式
19:00	入浴	17:10	夕食		
20:00	係会議	18:15	体育館レク		
21:00	消灯	19:15	入浴		
		20:15	係会議		
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

1 事前の学習内容

- ・総合的な学習の時間の単元「見つけよう、広げよう、富士山の自然から」で、富士山の自然に関する課題を設定し、調べ学習を行った。
- ・主なテーマとして、富士山の形成の過程や歴史、富士山の植物、富士山の動物などについて調べた。
- ・富士山ネイチャーガイドの田中さんに「富士山の自然」をテーマに出前授業を行っていただ

き、富士山の自然の特徴について学んだ。その後、ドーナツチャートに疑問を書き出し、「もっと調べたいこと」を個人の課題として設定した。設定した課題について、インターネットや図書資料を使って、事前に調べたことをワークシートにまとめた。

2 事後の学習内容

- ・現地に行って調べたことや学んだことを、個人作業として画用紙にまとめた。
- ・現地ではまとめきれなかったことから、帰校後に約2時間設けてまとめ作業を行った。そして、3年生とその保護者に向けて発表する練習を行った。学校公開日に学級ごとに3年生に発表し、3年生からは感想をカードに書いてもらった。



【3年生への発表の様子】

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1 富士山トレッキング

ネイチャーガイドの方々から、武蔵野市では見られない樹木や植物について、道中で詳しい説明があった。

実際に森林限界を目にすることで、武蔵野市との違いを実感していた。



【富士山トレッキング】

2 ネイチャーラリー

グリーンヒルズニューみなみの第2グラウンドで、富士山ネイチャークラブ主催の「ネイチャーラリー」を実施した。児童は、火起こし体験やロープ渡り、パチンコ鉄砲など、8つの自然体験活動を楽しんだ。

これらの活動は点数化され、児童はグループで役割分担をして協力しながら、得点を上げることを目指していた。同じ活動に何度も挑戦し、コツをつかんで1回目よりも得点上がる喜びを味わっていた。



【ネイチャーラリー（パチンコ鉄砲）】

＜社会体験活動＞

1 森の学習室

施設の方が作ったパンフレットや、クイズ形式のパネル展示を見ながら、富士山の自然や歴史、文化について学んだ。

また、大型動物の剥製も展示されていて、富士山の豊かな自然を実感することができた。



【森の学習室（自然体験中）】

2 富士湧水の里水族館

富士五湖や周辺の川に生息する魚を観察した。富士山の湧き水を使った水槽はとても透明度が高く、遠くの魚までよく見えた。さらに、見て学ぶだけでなく、富士山の湧き水に手を入れて、角質を食べるドクターフィッシュと触れ合うといった体験型の学習も楽しむことができた。



【富士湧水の里水族館（ドクターフィッシュ）】

<生活・文化体験活動>

1 ほうとう作り

学級ごとに5つの民宿に分かれ、ほうとう作りを体験した。宿の方に作り方を教えてもらいながら、生地をこねたり伸ばしたりして、班のみんなで協力して作った。昼食には、みんなで作ったほうとうを食べた。



【ほうとう作り】

○児童の感想

- ・協力することの大切さが分かった。
- ・時間前行動をすることができるようになった。
- ・関わりが少なかった友達と話すことが多く、その子の良さを知ることができた。
- ・自分のことが自分でできるようになった。
- ・ほうとうがあんなにおいしい食べ物だと思わなかった。自分の家でも作りたい。

○セカンドスクールとの関連(生かし方)

今年度のプレセカンドスクールでは、セカンドスクールに向けて取り組んだことが2点ある。第一に、セカンドスクールを見据えて、4つの力を身に付けられるように指導したことである。①「時間を守る」②「関わっている人への感謝の思いをもつ」③「友達と協力する」④「諦めずに挑戦し続ける」これら4点を意識できるように、出発前から積極的に児童への声掛けや行動の価値付けを行った。また、指導員にも具体的な指導方法を共有し、全員で指導に取り組んだ。

第二に、児童が中心となって企画や運営に参加したことだ。これらを通じ、児童は自分の役割に責任をもち、より良い活動になるように考える力を養った。

これら2点について、プレセカンドスクールで身に付けた力をセカンドスクールでも生かしていけるよう、今後の指導につなげる。

○今年度の成果と次年度に向けての課題

1 児童の変容について

(事業評価(子どもたちの「生きる力」を測る事前・事後アンケート調査結果から)

全体的に、実施後に数値が下がる結果となった。ただし「身体的能力」については事前アンケートから0.46ポイント増えた。今年度もネイチャーラリーを実施し、児童にとって初めての体験が多かったため、新鮮さを感じ、非常に充実した時間を過ごしている様子がうかが

えた。

また、ほうとう作りでは、多くの児童が初めて包丁を使い、上手に生地を切ることができたうえ、実際においしいほうとうを作れたことが達成感に繋がったと考えられる。

2 今年度の成果

① 日程及びプログラムの組み方について

今年度、新しく「体育館レクリエーション」を追加した。その理由は、児童が行事を企画・運営した経験が少ないことや、学年全体が一つになって取り組める行事を作りたいという教員の希望からであった。当日は、レクリエーション係を中心に、ドッジボール、ダンス、歌などの活動が行われた。学校外で実施したことで、「思い切り楽しめた」「学年の絆が深まった」といった感想も多く寄せられた。

② 活動内容について

本校では毎年、富士山をテーマに「探究学習」を行っている。この活動を通じて、現地では「予想とは違っていた」「さらに疑問が増えた」といった児童の振り返りが見られた。現地での探究活動により、自ら進んで学ぶ姿勢を見せる児童も多かった。

学習した内容は、学校公開で3年生に向けて発表し、調べたことを堂々と自信をもって発表することができた。今年度は、富士山ネイチャークラブのガイドの方を発表日に招き、学習の成果を見てもらい、児童の成長を感じてもらえた。

③ 「ねらい」の設定と活動のつながりについて

3日間の活動を通して、どの活動にもねらいを意識して実施することができた。

ネイチャーラリーは、学級活動として位置付けており、共通の課題に対して「友達と協力する力」や「自分の考えを発信しながら、友達の意見を尊重する力」を育てることを目的としていた。

各グループで活動中の役割を決め、グループごとに目標を設定して取り組んだ。あるグループでは「全員で全ての担当をやります！」など、一人一人が自分の役割をもち、グループ全員が積極的に取り組んでいた。

④ 児童の変容について

3日間の宿泊学習を通して、児童の変容が見られたのは「集団としての意識」である。最初は周りの話に集中できず、自分の意見ばかりを話していた児童も、教員の話にも耳を傾け、自ら進んで質問したり、アドバイスを素直に受け入れたりするなど、学びに対する前向きな姿勢が育まれた。

3 次年度に向けての課題

アレルギー対応が必要な児童が多かったため、学校と宿舎との連絡に苦労した。命に関わる問題なので、細かく連絡を取り合ったが、当初、宿舎からアレルギー表（ドレッシングなどの調味料の成分に関する情報）が出なかったため、再度連絡を取ったり、保護者と面談を行ったりする必要があり、時間がかかってしまった。食事に関して、教員が保護者と宿舎の間に立つことは必須だと思うが、安全でスムーズに対応できる方法について、市全体で共有したい。

令和 7 年 3 月 発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒 180-8777

東京都武蔵野市緑町 2 - 2 - 28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264